

公益財団法人
日本モンキーセンター
年報

平成 27 年度



公益財団法人日本モンキーセンター

目 次

巻頭言（所長 松沢哲郎）	1
日本モンキーセンター創立 60 周年の言葉	2
I 公益事業	
I-I 研究活動	6
I-II 学会および研究会	12
I-III 生息地・施設研修	23
I-IV 保全	32
I-V 普及教育活動	32
I-VI 出版	41
I-VII 飼育・展示および収集・保存	44
I-VIII 連携研究・研修の受け入れ	62
I-XI 会議・研修	67
I-X 友の会	69
I-XI 寄附活動	69
I-XII 施設整備	70
I-XIII その他	74
II 収益事業	
II-I 動物園付帯事業	75
II-II 土地・建物の賃貸事業	75
III 総務	
III-I 組織	76
III-II 人事	78
III-III 総務	78
III-IV 入場人員の推移	79
IV 経理	
IV-I 計算書類	80

巻 頭 言

所長 松沢 哲郎

日本モンキーセンター（英文名称 Japan Monkey Centre、英文略称 JMC）の年報をお届けする。JMC は、2014 年 4 月 1 日に公益財団法人として生まれ変わった。すなわち本誌は、公益財団法人化して第 2 年度にあたる 2015 年度（平成 27 年度）の活動報告である。

移行して 2 年余が経過した。引き続き、尾池和夫理事長（京都造形芸術大学学長）のもと、所長・松沢哲郎、博物館長・山極壽一（京都大学総長）、動物園長・伊谷原一（京都大学野生動物研究センター教授）が一致協力して運営に携わっている。

日本モンキーセンターは 1956 年 10 月 17 日に設立された。今年 2016 年で創立 60 周年を迎えることになる。創立 60 周年記念事業として、『モンキー』を復刊した。15 年ほど途絶えていたものをリニューアルし、『モンキー：霊長類学からワイルドライフサイエンスへ』と誌名を変えた。ただし ISSN（国際標準逐次刊行物番号）はそのままである。2016 年 6 月に第 1 巻 1 号を出版し、当面は年 4 回の発行予定である。

日本モンキーセンターが保有するサルの種数は世界一だ。霊長類はすべてが絶滅の危機に瀕しているか絶滅の恐れがある。そうした貴重なサル類 64 種 924 個体（2016 年 8 月 8 日現在）を保有している。標本資料も 16,923 点ある。2014 年度の入園者数は 147,523 人、2015 年度は 154,378 人だった。年頭の申年効果で約 5% の微増だった。

世界で最も古い英文の学術誌 PRIMATES を発行している。1957 年に刊行を開始した。現在、霊長類学の英文学術誌は 5 誌あるが、本誌が最も古くから継続している。日本発行の英文学術誌が世界最古、というきわめて珍しい学問分野だといえる。2016 年 1 月刊行の第 57 巻 1 号から表紙をカラー写真に一新した。写真は毎巻新たにする。

京都大学では、リーディング大学院と呼ばれる博士課程の人材育成プログラムを実施している。2013 年 10 月 1 日に発足した「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院（英文略称、PWS）」はそのひとつである。PWS は、霊長類を初めとする絶滅の危機に瀕した野生動物について、研究・教育・実践をおこなっている。日本モンキーセンターは PWS の実践の場と位置づけられる。

日本モンキーセンターの新しい定款で、その目的を以下のように明記した。「霊長類等に関する調査研究を基盤に、その保護と生息地の保全を行い、社会教育・普及活動や図書等の刊行、標本等の資料の収集、さらには福祉に配慮した動物園の設置及び経営等を通じて、学術・教育・文化の発展及び地球社会の調和ある共存に資することを目的とする」。日本モンキーセンターは「自然への窓」であり続けたい。サル類を見て、その背後にある、彼らが暮らす自然そのものへの憧憬を人々の心の中に育みたい。そのためには、広範な人々の理解と、支援の持続が必須だ。ぜひ、公益財団法人となった日本モンキーセンターに足を運んでいただきたい。HP は以下の通りである。

英文：<http://www.japanmonkeycentre.org/>、和文：<http://www.j-monkey.jp/>

日本モンキーセンター 創立 60 周年の言葉

犬山の日本モンキーセンター 60 周年にあたって

公益財団法人日本モンキーセンター理事長 尾池和夫

日本モンキーセンターは、サル類の総合的研究、野生ニホンザルの保護などを目的として設置されている公益財団法人です。1956（昭和 31）年に設立され、翌年、1957 年に、愛知県で 2 番目の、博物館法の適用を受けた登録博物館となりました。60 年前も今年も丙申の年です。陰陽五行では、丙が陽の火、申は陽の金で、相剋（火剋金）とされており、火が金属を溶かす関係ですが、溶かした後は新しい道具を生み出します。

2014 年 4 月に公益財団法人に移行しました。その目的は、定款に定められており、「霊長類に関する調査研究を基盤に、その保護と生息地の保全を行い、社会教育・普及活動や図書等の刊行、標本等の資試料の収集、さらには福祉に配慮した動物園の設置および経営等を通じて、学術・教育・文化の発展及び地域社会の調和ある共存に資すること」とされています。

このセンターは、「世界サル類動物園」を附属施設として持っています。サル類の特徴を活かした展示、多くのガイドやキュレーターによる博物館活動が行われており、学術的な面を持つ動物園として楽しんでいただけると確信しています。位置的には、株式会社名鉄インプレスが運営する日本モンキーパークと、京都大学附属霊長類研究所との間にあります。

世界的にも珍しいサル専門の動物園で、生きた霊長類の展示施設としては世界最大の規模を誇っております。飼育展示種数は、60 種以上約 900 頭で、世界最多と言えます。

大きな特長は、動物園のスタッフメンバーがサル類の生まれ育つ現地へ研修（生息地研修）に出かけて観察していることです。その報告もウェブサイトで多くの写真とともにご覧いただけます。このように時間と費用を投入しながら、野生の動物の生態への理解を深めることのできる世界サル類動物園を実現する活動にご注目いただき、ご支援をいただきたいと思います。

センターには「友の会」があります。さまざまなイベントを紹介するウェブサイトがあり、日本語だけでなく、英語、中国語、フランス語、ポルトガル（ブラジル）語でも情報発信しています。訪問された方の写真と紹介もあります。京大日曜サロンや、京大モンキーカレッジという講演会もあります。ラテン語で霊長類のことを「プリマーテス」と呼びますが、その名前を冠した「プリマーテス研究会」は、センターが年 1 回（毎年 1 月末の週末に）開催する霊長類に関する研究会で、どなたでも参加できます。

ところで、日本には、「犬猿の仲」という言葉がかなり明確に定着しておりますが、理事長として私の一番知りたいことで、まだ解明されていないのが、この言葉であります。犬山という土地に設置された事情はわかっているのですが、妙に気になるご縁であります。

日本には北限の猿と言われる日本猿（ニホンザル、学名は *Macaca fuscata*）がいます。哺乳綱サル目（霊長目）オナガザル科マカク属に分類されるサルです。雪の中において、地獄谷野猿公苑（やえんこうえん）には、長野県下高井郡山ノ内町の地獄谷温泉にある野生の日本猿がいて、冬は温泉に浸かっています。ここも国際的な観光地となっていて、英語で「Snow Monkey Mountain」と呼ばれています。

「猿団子」という光景も知られています。日本で寒い時期に日本猿が押しくらまんじゅうのような形で、身体を温める様子が見られます。各地で冬の風物詩となっており、新聞などにも紹介されます。小豆島の銚子溪自然動物園などでよく見られます。俳句では季語を詠みますが、この猿団子も冬の風物として、どなたかが名句を詠んでくださると、やがて歳時記に登録されるかもしれないと、私は以前から俳人たちに話しています。

猿という字は、歳時記では、秋の猿酒と新年の猿廻しだけが掲載されています。自然の猿を詠んだ句は、ほとんど見当たりません。皆さんもぜひ自然の日本猿を俳句に詠んでみてください。

私は、日本の大学には動物園がないのが問題であると昔発言したことがあります。その発言を覚えていた、大学の研究施設としての動物園を実現しようと考えてくださったのが、この日本モンキーセンター所長の松沢哲郎先生です。彼は、この日本モンキーセンターの他にも、京都市動物園や、名古屋市の動植物園などでも、大学と連携した活動ができるように仕組みを整えてくれました。

話が飛びますが、昨日、大阪で、中国人日本留学 120 周年記念の行事がありました。そこで私は地球科学の日中交流 40 年という基調講演をしました。その時、昔、秦嶺山脈の山奥で、おばあさんが小さなキウイフルーツの実を売っているのを見つけました。ミホトという名でした。「ミ」は獣偏に彌、「ホト」は猴桃と書きます。調べてみると、中国は年間生産量が 30 数万トンで、世界第 2 のキウイフルーツの産地であることがわかりました。陝西省の生産量は 20 万トン以上だといいます。秦嶺山脈に産地があります。

なぜこの話をするかというと、猿は猿のことだからです。中国の甘肅省、湖北省、四川省、陝西省などにいる金糸猴（キンシコウ）の調査を松沢先生も行っておられますが、このような猿類の研究でも、日中交流は盛んであり、東アジアの猿類の研究の中心となっていて、大いにこのセンターも活躍してほしいと私は思っているのです。

それと同時に、最初お話しした犬猿の仲という言葉についても、なぜそのように言われるようになったのかというような、人文社会学的な調査や研究もこのセンターで行ってほしいと思っています。

仲の悪いことを現すのに、犬と猿を使うのは、日本と韓国だけのようです。多くの国では猫と犬です。中国でも猫狗（犬のこと）の仲です。犬と猫が使われるのは、20 か国ほど知られているようです。

このようなことも、多様な文化の理解には大切であり、人文科学の分野での猿類の研究もこのセンターの研究課題であってほしいと思ったのであります。

とりとめもない式辞になりましたが、犬山にいる猿類の動物が、人と仲良くのびのびと暮らしながら過ごしている動物園として、末永く維持できるように、皆様のご支援をお願いして私の挨拶といたします。

今日は、60 周年記念の式典にご参加、ありがとうございます。ありがとうございました。

出典：創立 60 周年記念式典式辞（2016 年 10 月 17 日）

日本モンキーセンター創立 60 周年

公益財団法人日本モンキーセンター所長 松沢哲郎

1956 年 10 月 17 日に、財団法人・日本モンキーセンターが設立された。今年、創立 60 周年を迎えた。人間でいえば還暦である。2014 年 4 月 1 日に公益財団法人となった。理事長は尾池和夫（京都造形芸術大学学長、京大第 24 代総長）、所長は松沢哲郎（京大高等研究院特別教授）、博物館長は山極壽一（京大第 26 代総長）、附属動物園長は伊谷原一（京大野生動物研究センター教授）、学部部長は友永雅己（京大霊長類研究所教授）。それまでは名古屋鉄道株式会社が経営する日本モンキーパークの一部だった。公益化して、動物園の部分を遊園地から切り離して独立し、京都大学の教授たちが連携して運営の主体となっている。霊長類学という学問の実践と社会貢献の場所だ。その来し方を振り返り、行く末を考えたい。

飲水思源。井戸の水を飲むときは、井戸を掘った人のことを思いだそう。日本モンキーセンターを創ったのは今西錦司だといって過言ではない。新興の学問をまだ国が認知しないころ、京大の野外研究者と東大の実験医学者を糾合して民間に働きかけた。財界で重きをなしていた渋沢敬三が仲介し、名古屋鉄道株式会社（名鉄）の当時専務でのちに社長・会長となる土川元夫が協力した。

阪急電鉄が大阪の後背地の宝塚で事業展開したのがモデルになっている。名古屋の後背地の犬山には国宝の犬山城がある。名鉄の思惑は、そこにサル類の研究施設・博物館・動物園・遊園地を併設して、名古屋から日帰りの観光客を犬山に呼び込む。沿線の宅地化も進み鉄道事業に資する。犬山近郊にさらに明治村を作り、リトルワールドを作った。

今西錦司と伊谷純一郎は、1958 年に日本モンキーセンターを拠点として、最初のアフリカ探検に出かけた。日本の霊長類学の興隆の歴史そのものだ。しかし 1980 年台を境に入園者数は下降し続けた。存続があやぶまれた。そこで初心にかえって理想を高く掲げ、公益財団法人化という苦難の道を選んだ。

この 2 年半で顕著に変わったのが「生息地研修」だ。約 40 人の職員全員が宮崎県の幸島に行って野生ニホンザルとその暮らしを見た。屋久島に行って、野生のシカとサルが共生する世界自然遺産の森を見た。京大熊本サンクチュアリでは、日本でそこにしかないボノボを見た。タンザニアやボルネオやアマゾンにもでかけた。飼育担当者だけではない。事務職員にも生息地を体験してもらった。人々の意識をまず変えたい。実際の野外体験をもとに、自分たちの職場の掲げる理想「動物園は自然への窓」を理解してもらいたい。キュレーターすなわち博士号をもった学芸員を

増やし、さらには飼育員も修士卒業者を雇用し始めた。

京大モンキーキャンパス、京大日曜サロンというかたちで、霊長類学の成果を一般の方々にわかりやすい言葉で発信している。その一環として、『モンキー』という雑誌を復刊した。ただし、「霊長類学からワイルドライフサイエンスへ」と副題をつけて、霊長類だけではない、野生ウマやユキヒョウなど、絶滅の危惧される他の動物にも焦点を当てている。

この 2 年間でいうと、年間約 15 万人が来園している。毎年 200 校以上の幼稚園・小学校・中学校・高校の生徒さんたちが来る。実際にサルたちを間近で観察できる貴重な環境教育の場になっている。

モンベルというアウトドアライフの会社を創業した辰野勇さんを案内していて、カヌーを漕ぐことを思いついた。辰野さんは登山家でカヌーの激流くだりもした人だ。リスザルの島のまわりはサルが逃げないように水濠になっている。水深は 30cm ほどしかない。安全だ。パドルをそろりと操作してカヌーを漕ぎ出すと、今年 4 月のアマゾン川での体験をまざまざと思い出す。木々のあいだにリスザルが見え隠れし、頭上をクモザルが渡る。

センターは約 70 ヘクタールの山林をもっている。モンキーバレイと呼ぶニホンザルの展示場は借景になっていて、背後に継鹿尾山（つがおさん）273m が聳えている。その山頂の展望台から見下ろすと、センターは深い緑の中に埋まっていた。山の南斜面の林がすべてセンターの所有で、手付かずで放置されている。尾張平野の北端の愛知と岐阜の県境の丘陵地帯だ。他人の土地をほぼ通らずに山頂までいける。「継鹿尾山自然林」と名づけて、里山の復元を試みたい。

不要な樹木を切り出すと、たき火ができる。今年の夏は「じゃぶじゃぶ池」という、水を張っただけの池で子どもたちが遊んだ。冬はたき火が良いだろう。そもそも、センターのニホンザルはたき火にあたることで有名だ。1959 年の伊勢湾台風のときに出た廃材を使った火が由緒だそう。今年の冬は入園者にもたき火にあたっていたいただきたい。自分たちで木を集めてきてたき火をしよう。火をおこし、火にあたる。顔や手を火照らせながら、燃える炎にじっと見入る。そうした体験を都会ではしにくくなった。サルを見るだけでなく、サルのすむ森のことを考える。人間はその進化の過程で「野山に親しむ暮らし」をしてきた。そんな野外体験をふつうに楽しめる場所としての将来が見えてきた。

出典：科学（岩波書店）2016 年 12 月号

日本モンキーセンター60周年を迎えて

公益財団法人日本モンキーセンター博物館長 山極壽一

日本モンキーセンター（JMC）は、動物を一般の客に向けて展示する施設としては、一風変わった歴史を持っている。それはまず、研究施設として立ち上げられたことである。1956年に名古屋鉄道、京都大学と東京大学の各霊長類研究グループ3者の協力によって、犬山の栗栖に研究所が作られた。名鉄は戦前に生息していたニホンザルの姿を犬山に復活させようとし、京都大学はサルフィールドワークから社会の進化を知るために、東京大学はサルを対象とした医学実験を推進するために、というそれぞれの意向をもっていた。発足当初に、遠く屋久島からニホンザルを運んできて栗栖の裏山に放し、餌付け群を作って野猿公苑にしたことはこれらの背景をよく物語っている。

その後、JMCは順調に研究センターとしての道を歩んだ。翌年には世界初の霊長類学の学術誌 PRIMATES を創刊し、すぐに英文雑誌として世界に配信した。また、「モンキー」、「野猿」という和文雑誌を刊行して、霊長類や霊長類学の普及、ニホンザルの保全活動を推進した。当時、ニホンザルは奥山に隠れていて人の目に触れることは少なく、各地で絶滅の危機に瀕していると言われていたのである。一方で、国立予防衛生研究所などから依頼を受けて、カニクイザルなどを輸入し、繁殖施設としても大きな貢献をした。

1958年にはゴリラを対象に海外学術調査隊をアフリカへ派遣し、同時に世界から多くの種類のサルを集め始める。翌59年には外国産のサル16種、53頭を展示したモンキーアパートを栗栖に開館し、これが動物園としての出発点になった。62年には今の場所に世界サル類動物園が開園され、モノレールが開業して多くの客を犬山遊園駅から運ぶようになった。ここで注目したいのは、この動物園が博物館として設置されたことである。日本で登録博物館としての動物園はJMCだけである。65年にはビジターセンターが開館し、全国の博物館活動の拠点として大きな働きをするようになる。毎年、全国のサル学愛好者を集めたプリマテス研究会が開かれ、サル学という学問と「サルを知ること」はヒトを知ること」という独特な考え方は全国に広まった。

私がJMCでリサーチフェロウとして働いたのは1983～88年で、この頃はまだ霊長類のパイオニア的研究を担い、

その成果を発信する博物館としての息吹は色濃く残っていた。私自身もアフリカでゴリラ、屋久島でニホンザルのフィールドワークをしながら博物館活動に力を注いだ。当時のモンキーを見ると、その当時の熱い思いがよみがえってくる。しかし、その後JMCは隣のモンキーパーク遊園地との連携を強め、動物園の経営を主たる業務とするようになった。JMCのすぐ隣に京都大学霊長類研究所が設立され、しだいにその活動領域を広げてきたこと、JMCの運営が動物園の収入で成り立っていたことなどがその主な原因である。日本各地、そして愛知県内にもさまざまな娯楽施設ができ、また赤字続きのモノレールが廃止されたことが、やがて客の足を遠ざける結果となった。

そして2014年4月、JMCは名鉄の支援の手を離れ、公益財団法人として再出発することになった。それは初心に帰ろうという共通の目標のもと、動物園の入場者数だけにこだわらず、霊長類の福祉の充実と展示方法に大きな力を注ごうということだと私は認識している。理事長、所長、館長、園長にそれぞれ研究者を充てたのもその現れである。この2年、その成果は着実に現れ始めている。JMC発足時から引き継がれている PRIMATES も順調に発刊されているし、長らく休刊になっていた「モンキー」も復刊された。学芸と飼育に携わる職員全員が野生霊長類の生息地に派遣され、また他の動物園や水族館を積極的に訪問して知識や技術を蓄積している。週2日ある休館日を利用してさまざまなアイデアを出し合い、工夫と魅力に溢れた展示が創造されるようになった。京大モンキーキャンパスや京大モンキー日曜サロンといった研究者との交流も頻繁だし、京都造形芸術大学との連携で面白い企画も生まれている。リスザルの島やWaoランドの体験ゾーン、アフリカンビアガーデンなど盛りだくさんの催しはウェブサイトを参照していただきたいが、やっとな現場からの声がモンキーセンターの催しに反映されるようになったと思う。JMCに新しい時代が来たと強く感じる。この60周年を契機に、初心を忘れることなく、さらに大きく飛躍してほしいと思う。

出典：モンキーセンター友の会 NEWS LETTER Vol. 3-1

還暦を迎えて ―日本モンキーセンターの未来―

公益財団法人日本モンキーセンター附属動物園長 伊谷原一

本年10月17日、日本モンキーセンター(JMC)は還暦を迎えました。1956年当時、第二次世界大戦後の混乱が落ち着き始めた頃、日本の霊長類学の創始者である京都大学の故今西錦司、河合雅雄、故伊谷純一郎らと東大の霊長類実験研究グループが連携し、彼らの強い熱意と名古屋鉄道株式会社(名鉄)の英断による快挙といっても過言ではないでしょう。当時としては希有な産学連携事業です。財団の初代会長は第16代日本銀行総裁や幣原内閣で第49代の大蔵大臣を歴任した民俗学者の渋沢敬三、理事長は日本の国立公園制度を確立した林学者の田村剛というそうそうたる顔ぶれでした。

翌1957年、JMCは愛知県登録第2号となる博物館登録の認可を受け、国内で唯一の「博物館登録された動物園」になりました。財団として博物館登録されたことはモンキーセンターの礎になっていますし、それを実現したことは創設者たちの先見の明をうかがえます。あくまでも研究機関として、他の動物園とは異なる独自の存在になることを意識していたのでしょう。

実は、あまり公言してこなかったのですが、私は1957年にこの犬山の栗栖で生を受けました。栗栖はJMCが研究所として最初に設置された地です。私は5歳頃までしか犬山にいなかったのですが、当時は住宅も少なく、丘の上に小さな建物がぽつんと建っただけのように記憶しています。周囲には農地が広がり、自然も豊かで、近くの川で魚をつかんだり、森で虫取りをしたりして野山を駆けまわっていました。

60年という月日は、自然環境や社会環境を大きく変容させるのに十分な時間で、それに伴ってJMCの体制や運営も紆余曲折してきました。ここに至って、JMCには新たな船出が求められたのです。2014年4月、JMCは遊園地との複合経営によってレクリエーションに傾いていた運営方針を立て直し、国内唯一の登録博物館である動物園として「学術・教育・文化」の発展に貢献することを目的とする、公益財団法人として再出発することになったのです。そして、その最初の動物園長を私が拝命しました。犬山を去って50年余り、よもや私がこの地に戻ってくることになるとは予想もしていませんでした。

執行部は、理事長に尾池和夫(京都造形芸術大学学長、

元京都大学総長)、常任理事として所長に松沢哲郎(京都大学特別教授)、博物館長に山極壽一(京都大学総長)、動物園長/事務局長に伊谷原一(京都大学教授)というオール京大という陣容でスタートしたのです。これは京都大学によるJMCの運営を意味しているわけではありませんが、おそらく日本初、世界でも希有な大学教員による動物園経営の事例でしょう。

現在、JMCには64種・920個体の霊長類が飼育されています。これは霊長類に関して世界最大のコレクションであり、まさに「世界サル類動物園」といわれる所以です。その一方で、コンクリートと金網で仕切った檻が並ぶモンキーアパートやコンクリートのサル山など、近代動物園としてとても胸を張ることのできない施設も目立ちます。また、ほとんどの施設・設備が建設・設置後30年以上経過しており、水道管が破裂したり電源が落ちたり、さらには動物が逃亡する危険性が生じるものなどが少なくありません。

今後、改修やリニューアルは避けては通れない道でしょう。サルたちの生活、来園者の満足度、そして飼育作業性という3つの異なる要素をカバーできる、長期展望に立った施設へのリニューアルが求められます。また、博物館として多様な仕掛けを施した教育効果の高い展示開発も必須でしょう。しかし、ハード面の改修には膨大な費用を要し、公益財団法人であるがゆえに収益事業を優先させることができないことため、まとまった資金を調達することは容易ではありません。寄付の拡大、集客とリピーター確保、会員の拡大、イベント開催、他機関との連携など、多様な事業を展開しなければならないでしょう。逆に、施設改修を進めることで話題性や宣伝効果を高め、それが集客に結びつくことになるのかもしれませんが。

60周年を迎え、公益財団法人化して3年目に突入したJMCは、大きな改革の岐路に立っています。「生きた動物博物館」を目指し、新たな挑戦を敢行することこそが、JMCの生き残る唯一の途なのかもしれません。

『霊長類研究』Vol. 32「日本モンキーセンターの再生」を一部引用



創立60周年記念ロゴ

I 公益事業

I-I 研究活動

1. 霊長類調査研究

- (1) 霊長類の社会行動の研究
- (2) 霊長類の進化に関する研究
- (3) 霊長類の形態学的研究
- (4) 霊長類の生態学的研究
- (5) 霊長類の遺伝学的研究
- (6) 霊長類の保全研究
- (7) 霊長類の福祉に配慮した飼育管理に関する研究
- (8) 霊長類の福祉に配慮した獣医療に関する研究
- (9) 霊長類を中心とした教材開発に関する研究
- (10) 霊長類標本の作成・管理に関する研究並びに研究利用
- (11) 霊長類の生体及び標本を活用した連携研究の推進
- (12) 研究会等の積極的参加による情報の交換と収集
- (13) 霊長類稀少種の繁殖に関する研究
- (14) 市民参加による霊長類をはじめとした生物多様性の保全に関わる基礎研究

2. 外部研究費による研究活動

- (1) 日本学術振興会科学研究費若手研究 B (2013-2015)
代表者：公益財団法人日本モンキーセンター・
キュレーター 赤見理恵
課題名：動物園における学習利用促進のための
利用者研究と事前学習教材の開発
- (2) 京都大学霊長類研究所共同利用研究
代表者：公益財団法人日本モンキーセンター・
飼育技術員 廣川百恵
課題名：遺伝子分析を利用したワオキツネザルの
父系判定の研究

3. 他機関との連携

- (1) 大型類人猿情報ネットワーク (GAIN) との連携
綿貫宏史朗
- (2) 韓国・国立生態院との学術交流協定の締結
平成 28 年 3 月 28 日
① 視察訪問・セミナー参加
平成 28 年 3 月 22 日～3 月 24 日
伊谷原一、綿貫宏史朗、山田将也



国立生態院展示施設視察

- (3) 環境省生物多様性センター モニタリングサイト 1000
里地調査の実施 (S118 犬山地域：日本モンキーセンター
哺乳類調査グループ)
園敷地内 3 ヶ所にセンサーカメラを設置
設置期間：2015 年 7 月 13 日～9 月 11 日



タヌキ (2015 年 7 月 14 日)



アナグマ (2015 年 7 月 13 日)

4. 研究業績

- (1) 書籍
尾池和夫. (2015) 2038 年南海トラフの巨大地震, マニユアルハウス,
尾池和夫. (2015) 中国的地震預報. 中国社会科学出版社.
- (2) 論文他
赤見理恵. (2015) 第 31 回日本霊長類学会大会記 自由集会 -6 野生への窓を開く動物園教育. 霊長類研究. 31: 160-162.
赤見理恵, 高野智, 南曜子. (2015) 自由連想調査による学習効果の定性的評価の試み. 日本動物園水族館教育研究会誌. 22: 73-78.
Akomo-Okoue EF, Inoue E, Nakashima Y, Hongo S, Atteke C, Miho Inoue-Murayama M, Yamagiwa J (2015) Noninvasive genetic analysis for assessing the abundance of duiker species among habitats in the tropical forest of Moukalaba, Gabon. Mammal Research 60: 375-384.
荒木謙太, 鏡味芳宏, 赤見理恵, 堀込亮意, 木村直人, 伊谷原一. (2015) 動物福祉に配慮したふれあい方法と展示の改善. 日本動物園水族館教育研究会誌. 22: 5-8.

- Basabose AK, Inoue E, Kamungu S, Murhabale B, Akomo-Okue E-F, Yamagiwa J. (2015). Estimation of Chimpanzee Community Size and Genetic Diversity in Kahuzi-Biega National Park, Democratic Republic of Congo. *American Journal of Primatology*. 77 : 1015-1025.
- Benito-Calvo A, Carvalho S, Arroyo A, Matsuzawa T, de la Torre I. (2015) First GIS analysis of modern stone tools used by wild chimpanzees (*Pan troglodytes verus*) in Bossou, Guinea, West Africa. *PLOS ONE* 10 (3), e0121613 doi: 10.1371/journal.pone.0121613.
- Carelli FN, Hayakawa T, Go Y, Imai H, Warnefors M, Kaessmann H. (2016) The life history or retrocopies illuminates the evolution of new mammalian genes. *Genome Research*. 26: 301-314.
- 陳香純, 神田幸司, 上野友香, 友永雅己, 中島定彦. (2015) 遊具導入によるバンドウイルカ (*Tursiops truncatus*) の吐き戻し行動の低減. *Animal Behaviour and Management*. 51: 87-94.
- Hattori Y, Tomonaga M, Matsuzawa T. (2015) Distractor effect of auditory rhythms on self-paced tapping in chimpanzees and humans. *PLoS ONE*. 10: e0130682. DOI: 10.1371/journal.pone.0130682.
- Hayakawa T. (2015) Taste of chimpanzee foods. in: Mahale Chimpanzees: 50 Years of Research (Nakamura, M, Hosaka K, Itoh N, Zamma K eds.) pp. 246-258. Cambridge University Press.
- Hockings KJ, Bryson-Morrison N, Carvalho S, Fujisawa M, Humle T, McGrew WC, Nakamura M, Ohashi G, Yamanashi Y, Yamakoshi G, Matsuzawa T. (2015) Tools to tipple: ethanol ingestion by wild chimpanzees using leaf-sponges. *Royal Society Open Science* 2(6). DOI: 10.1098/rsos.150150
- Hockings KJ, McLennan MR, Carvalho S, Ancrenaz M, Bobe R, Byrne RW, Dunbar R.I.M, Matsuzawa T, McGrew WC, Williamson EA, Wilson ML, Wood B, Wrangham RW, Hill CM. (2015) Apes in the Anthropocene: flexibility and survival Trends in Ecology & Evolution. 30: 215–222. doi: 10.1016/j.tree.2015.02.002
- 伊谷原一. (2015) 類人猿からみた人間家族. ヒトと動物の関係学会誌. 42: 16–25.
- Iwata Y, Nakashima Y, Tsuchida S, Nguema PPM, Ando C, Ushida K, Yamagiwa J. (2015) Decaying toxic wood as sodium supplement for herbivorous mammals in Gabon. *Journal of Veterinary Medical Science*. 77: 1247-1252.
- Kamungu S, Basabose K, Bagalwa M, Bagalwa B, Murhabale B, Yamagiwa J. (2015) Phytochemical Screening of Food Plants Eaten by Sympatric Apes (*Gorilla beringei graueri* and *Pan troglodytes schweinfurthii*) Inhabiting Kahuzi-Biega National Park, Democratic Republic of Congo) and their Potential Effect on Gastro Intestinal Parasites. *International Journal of Pharmacognosy and Phytochemical Research* 7(2); 255-261 (ISSN: 0975-4873).
- Kikuchi Y, Nakatsukasa M, Nakano Y, Kunimatsu Y, Shimizu D, Ogihara N, Tsujikawa H, Takano T, Ishida H. (2015) Morphology of thoracolumbar spine of the middle Miocene hominoid Nacholapithecus kerioi from northern Kenya. *Journal of Human Evolution* 88: 25-42.
- Kinoshita K, Kuze N, Kobayashi T, Miyakawa E, Narita H, Inoue-Murayama M, Idani G, Tsenkova R. (2016) Detection of urinary estrogen conjugates and creatinine using near infrared spectroscopy in Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus*). *Primates*. 57: 51-59.
- Koops K, Schöning C, McGrew WC, Matsuzawa T. (2015) Chimpanzees prey on army ants at Seringbara, Nimba Mountains, Guinea: Predation patterns and tool use characteristics. *American Journal of Primatology*. 77: 319-329 doi: 10.1002/ajp.22347
- Levé M, Sueur C, Petit O, Matsuzawa T, Hirata S. (2016) Social grooming network in captive chimpanzees: does the wild or captive origin of group members affect sociality?. *Primates*. 57: 73-82. DOI 10.1007/s10329-015-0494-y
- Matsuzawa T. (2015) Seventy years after the end of World War II. *Primates*. 56: 105-106.
- Matsuzawa T. (2015) Sumatran orangutans and the World War II. *Primates*. 56: 207-209.
- Matsuzawa T. (2015) Sweet-potato washing revisited: 50th anniversary of the *Primates* article. *Primates*. 56: 285-287.
- Matsuzawa T. (2016) SAGA and GAIN for great apes. *Primates*. 57: 1-2.
- 松沢哲郎, 山極壽一, 伊谷原一. (2015) 京都大学リーディング大学院 PWS の実践の場としての日本モンキーセンター. ヒマラヤ学誌. 16: 2-11.
- Nishimura T, Mori F, Hanida S, Kumahata K, Ishikawa S, Samarat K, Miyabe-Nishiwaki T, Hayashi M, Tomonaga M, Suzuki J, Matsuzawa T, Matsuzawa T. (2016) Impaired air conditioning within the nasal cavity in flat-faced *Homo*. *PLOS Computational Biology*. 12(3): e1004807. doi:10.1371/journal.pcbi.1004807.
- 落合知美, 綿貫宏史朗, 鶴殿俊史, 森村成樹, 平田聡, 友永雅己, 伊谷原一, 松沢哲郎. (2015) 日本におけるチンパンジー (*Pan troglodytes*) 飼育の初期の歴史 1920 年– 1950 年. 霊長類研究 31: 19-29.
- Okamoto M, Imai S, Miyanohara M, Saito W, Momoi Y, Nomura Y, Ikawa T, Ogawa T, Miyabe-Nishiwaki T, Kaneko A, Watanabe A, Watanabe S, Hayashi M, Tomonaga M, Hanada N. (2015) *Streptococcus panodentis* sp. nov., from the oral cavities of chimpanzees. *Microbiology and Immunology*. 59: 526-532. DOI: 10.1111/1348-0421.12290.
- Suzuki-Hashido N, Hayakawa T, Matsui A, Go Y, Ishimaru Y, Misaka T, Abe K, Hirai H, Satta Y, Imai H. (2015) Rapid expansion of phenylthiocarbamide non-tasters among Japanese macaques. *PLOS ONE* 10(7): e0132016.

Takeuchi JS, Ren F, Yoshikawa R, Yamada E, Nakano Y, Kobayashi T, Matsuda K, Izumi T, Misawa N, Shintaku Y, Wetzel KS, Collman RG, Tanaka H, Hirsch VM, Koyanagi Y, Sato K. (2015) Coevolutionary dynamics between tribe Cercopithecini tetherins and their lentiviruses. Scientific Report. 5: 16021.

Toju H, Yamamoto S, Tanabe, AS, Hayakawa T, Ishii HS. (2016) Network modules and hubs in plant-root fungal biome. Journal of the Royal Society Interface. 13: 20151097.

Tomonaga M. (2015). Fat face illusion, or Jastrow illusion with faces, in humans but not in chimpanzees. i-Perception. 6(6): 1-5. DOI: 10.1177/2041669515622090.

Tomonaga M, Imura T. (2015) CHANGE they can't find: Change blindness in chimpanzees during a visual search task. i-Perception. 6: 104-107. DOI: 10.1068/i0708sas.

Tomonaga M, Imura T. (2015) Efficient search for a face by chimpanzees. Scientific Reports. 5: 11437. DOI: 10.1038/srep11437.

Tomonaga M, Kumazaki K, Camus F, Nicod S, Pereir, C, Matsuzawa T. (2015). A horse's eye view: Size and shape discrimination compared with other mammals. Biology Letters. 11: 20150701. DOI: 10.1098/rsbl.2015.0701.

Tomonaga M, Uwano Y, Ogura S, Chin H, Dozaki M, Saito T. (2015) Which person is my trainer? Spontaneous visual discrimination of human individuals by bottlenose dolphins (*Tursiops truncatus*). SpringerPlus. 4: 352. DOI: 10.1186/s40064-015-1147-8.

Yamagiwa J. (2015) Preface for « Conservation of biodiversity in tropical forest through sustainable coexistence between human and wild animals », a special issue of Tropics. Tropics 23: 135.

Yamagiwa J. (2015) Evolution of hominid life history strategy and origin of human family. In: Furuichi T, Yamagiwa J, Aureli F (eds), Dispersing Primate Females: Life History and Social Strategies in Male-Philopatric Species, Springer, Tokyo, pp. 255-285.

Yamanashi Y, Teramoto M, Morimura N, Hirata S, Suzuki J, Hayashi M, Kinoshita K, Murayama M, Idani G. (2016) Analysis of hair cortisol levels in captive chimpanzees: effect of various methods on cortisol stability and variability. MethodsX 3:110-117.

Yu L, Tomonaga M. (2015) Interactional synchrony in chimpanzees: Examination through a finger-tapping experiment. Scientific Reports. 5: 10218. DOI: 10.1038/srep10218.

Yu L, Tomonaga M. (2016) Unidirectional adaptation in tempo in pairs of chimpanzees during simultaneous tapping movement: An examination under face-to-face setup. Primates. 57: 181-185. DOI:10.1007/s10329-016-0512-8.

(3) 連載・記事

① 尾池和夫 氷室 (氷室俳句会) 「瓢鮎抄」	
第八〇回	2015 年 4 月号
第八一回	5 月号
第八二回	6 月号
第八三回	7 月号
第八四回	8 月号
第八五回	9 月号
第八六回	10 月号
第八七回	11 月号
第八八回	12 月号
第八九回	2016 年 1 月号
第九〇回	2 月号
第九一回	3 月号

② 尾池和夫 氷室 (氷室俳句会) 「京都の地球科学」	
第 252 回 中国貴州の地質公園 (五)	2015 年 4 月号
第 253 回 兵庫県南部地震から二〇年	5 月号
第 254 回 兵庫県南部地震から二〇年 (二)	6 月号
第 255 回 祇園祭と貞観地震	7 月号
第 256 回 上町断層と大阪の歴史	8 月号
第 257 回 上町断層と大阪の歴史 (二)	9 月号
第 258 回 上町断層と大阪の歴史 (三)	10 月号
第 259 回 内モンゴルの大草原	11 月号
第 260 回 内モンゴルの大草原 (二)	12 月号
第 261 回 北京原人の洞窟	2016 年 1 月号
第 262 回 ジオパークの現状	2 月号
第 263 回 ジオパークの現状 (二)	3 月号

③ 尾池和夫 氷室 (氷室俳句会) 「季語つれづれ番外」	
(二) 【桜】夜桜 里桜 薄墨桜	2015 年 4 月号
(四) 【夏の潮】夏潮 青葉潮	5 月号
(五) 【祇園祭】	7 月号
(六) 【紫陽花】あぢさゐ 四葩 七変化	7 月号
(七) 【猿酒】ましら酒	9 月号
(八) 【八朔】	10 月号
(九) 【鯨】勇魚 (いさな)	2016 年 2 月号
(一〇) 【捕鯨】勇魚取 捕鯨船	2 月号

④ 尾池和夫 俳人協会版下「季語つれづれ」	
第 19 回 【桜】夜桜 里桜 淡墨桜	2015 年 4 月号
第 20 回 【若楓】楓若葉 青楓	5 月号
第 21 回 【筍】笋 たかな	6 月号
第 22 回 【滝】瀑布 男滝 女滝 滝見	7 月号
第 23 回 【天の川】銀河 銀漢	8 月号
第 24 回 【不知火】竜灯,	9 月号

⑤ 尾池和夫 京都新聞 「天眼」	
「藝術立国之碑」	2015 年 4 月 12 日
「祇園祭と貞観の大災害」	6 月 28 日
「海城地震予報の成功から 40 年」	9 月 13 日
「マイコンからラインスタンプまで 40 年」	11 月 29 日

- ⑥ 松沢哲郎 日本経済新聞
「チンパンジーと博士の知の探検」
第1回 「外からの目でヒト探る」
平成27年5月17日
第2回 「『笑い』『ほほ笑み』異なる進化」
5月24日
第3回 「パリが教える学問の厚み」 5月31日
第4回 「『森の人』訪ねあの時代思う」
6月7日
第5回 「スマトラ島と日本の違い」 6月14日
第6回 「人はなぜ酒を飲めるか」 6月21日
第7回 「心に残る一度きりの授業」 6月28日
第8回 「ヒトは助け合える」 7月5日
第9回 「殺しを命じるのは人だけ」 7月12日
第10回 「平和な生活愛するボノボ」 7月19日
第11回 「人間観変える科学の『転回』」
7月26日
第12回 「野生馬に見た心の動き」 8月2日
第13回 「初登頂の精神、研究に通ず」
8月9日
第14回 「ドイツの人類学再生の道」 8月16日
第15回 「ひっそり暮らす森の哲人」 8月23日
第16回 「善悪判断科学で語れるか」 8月30日
第17回 「高水準の学問、国際化生む」
9月6日
第18回 「幸島のサルに文化の起源」 9月13日
第19回 「民間に育まれた霊長類学」 9月20日
第20回 「カメのあくび うつらない」
9月27日
第21回 「一生見たこと、忘れない」 10月4日
第22回 「ノーベル賞が伝えること」 10月18日
第23回 「活動記録から自分を知る」 10月25日
第24回 「ブータンが目指したこと」 11月1日
第25回 「親と離せば子育て不能に」 11月8日
第26回 「人と馬とオオカミの生態系」
11月15日
第27回 「韓国から日本の姿思う」 11月22日
第28回 「障害児育てるチンパンジー」
11月29日
第29回 「中国 霊長類学の芽吹き」 12月6日
第30回 「亜熱帯 西表島の自然見る」
12月13日
第31回 「馬の目が見る世界の形」 12月20日
第32回 「勃興 インドの学際研究」 12月27日
第33回 「草の冠かぶった子の学び」
平成28年1月3日
第34回 「助け合い子育てする人間」 1月10日
第35回 「元旦にニンバ山に登る」 1月17日
第36回 「危機迫るボッソウの群れ」 1月24日
第37回 「巨木伐採 多様性の根奪う」
1月31日
第38回 「人間を知るための『ウマ学』」
2月7日
第39回 「ヒマラヤ生態系 解明は未踏」
2月14日
第40回 「足跡が語る人類の進化」 2月21日
第41回 「あおむけ寝が進化育む」 2月28日
第42回 「推論 人間の言語の本質」 3月6日
第43回 「瞬間記憶と言語の発達」 3月13日
- 第44回 「弁証法で開く新たな科学」 3月20日
第45回 「科学の志 高校生に育む」 3月27日
- ⑦ 山極壽一 毎日新聞「時代の風」
「談論風発一傾聴できる議論重ねて」
平成27年4月3日
「不在を許す心ー過去含めた信頼関係を」 5月10日
「アートとサイエンスー息づいている共通の心」
6月14日
「インターネット講義『MOCC』
ー大学の国際化実現には」 7月19日
「ジャングルが生む魅力ー大学を探検する」
8月23日
「都市と故郷ー二重生活のススメ」 9月27日
「あらしのよるにー「敵」を作り出す人間」
11月1日
「現代の住まいー人間関係の再考を」 12月6日
「新しい知の共有ー学生の発想生かしたい」
平成28年1月17日
「留学生と学術外交ー活躍する機会提供を」
2月21日
「命つなぐ時間大切にーゴリラから教わったこと」
3月27日
- ⑧ 山極壽一 京都新聞（夕刊）『サロン「クワトロ」』
「大学の窓社会に通じる」 平成27年6月3日
「ボスよりリーダーたれー多様な価値混在する社会で」
7月29日
「今こそ法人化の原点にー夏休みに大学改革を考える」
8月26日
「研究者の矜持肝に銘ずー京大原爆調査班慰霊の集い
にて」 9月30日
「息づく京都学派の精神ー次代や政治に流されず」
10月28日
「目先の効用とらわれずーキーンさんを招いて」
11月25日
「サイエンスの楽しさをーサルを超えた人間の能力」
平成28年1月6日
「屋根をなくした日本人ー一見効率的な暮らしだが」
3月2日
「10年後あなたはどこにー青春と平和」 3月30日
- ⑨ 岩波書店『科学』
連載「ちびっこチンパンジーと仲間たち」
村松明穂, 松沢哲郎. (2015) アユムたちの数の勉強0
から19までと基数の学習 (第160回). 科学. 85:
372-373.
川上文人, 林美里, 友永雅己. (2015) チンパンジーに
学ぶヒトの笑顔の意味 (第162回). 科学. 85: 606-
607.
森村成樹, 松沢哲郎. (2015) カメラトラップーチンパ
ンジーを見守る“目”. 科学. 85: 796-797.
綿貫宏史朗, 落合知美, 岩原真利, 平田聡, 森村成樹,
友永雅己, 伊谷原一, 松沢哲郎. (2015) データベ
ースから考える、チンパンジーの幸せな暮らし. 科学.
85: 1108-1109.

打越万喜子. (2015) フクロテナガザルの人工哺育児を親元に戻す (第 168 回). 科学. 85: 1184-1185.

友永雅己. (2016) ウマの目からの眺め (第 170 回). 科学. 86: 164-165.

松沢哲郎. (2016) カメルーンからギニアへ—狩猟採集民と野生チンパンジーの暮らしの比較 (第 171 回). 科学. 86: 212-213.

⑩ 木村直人 中日新聞「愛ラブ自然」
「闇夜に素早い動作「ボト」(ボト)」

平成 27 年 4 月 1 日
「希少サルのペア見守って (ハヌマンラングール)」

6 月 10 日
「一人遊び始めた「マモル」(チンパンジー)」

8 月 26 日
「テナガザル保護考えて (シロテナガザル)」

11 月 11 日
「たき火にあたるサル人気 (ヤクニホンザル)」

平成 28 年 1 月 20 日
「リスザルの島に散策路 (ボリビアリスザル)」

3 月 23 日

⑪ その他記事

尾池和夫. (2015) 南海地震「2038 年」と予測研究成果、広く市民で共有を. 共同通信社情報企画本部. 4 月 20 日.

尾池和夫. (2015) 糸瓜. 俳句四季. 2015 年 9 月号.

尾池和夫. (2015) 2038 年南海トラフの巨大地震. 関西新聞 (中国): 9 月 15 日.

尾池和夫. (2015) APGN 山陰海岸シンポジウムへの期待. 日本海新聞 9 月 16 日

尾池和夫. (2015) 中国的地震予知. 関西新聞 (中国), 10 月 1 日.

尾池和夫. (2016) 冬うらら. 俳句四季. 2016 年 1 月号.

尾池和夫. (2016) 俳句. 俳句四季. 2016 年 3 月号.

尾池和夫. (2016) 中国の地震予知 温故知新の書. 京都新聞: 1 月 13 日.

尾池和夫. (2016) 世界ユネスコジオパークの発足. 2 月 14 日.

尾池和夫. (2016) 地震学「反省」の先に. 毎日新聞: 3 月 4 日.

山極壽一. (2015) 生還支える希望に一コンラッド「闇の奥」. 京都新聞: 8 月 16 日

山極壽一. (2015) 多様性が新しいものを生む. 朝日新聞: 11 月 18 日

山極壽一. (2016) 視線の作法を忘れた現代人. 読売新聞: 1 月 1 日

山極壽一. (2016) 分かち合い 人間の根本 (人間とは 1). 信濃毎日新聞: 1 月 1 日

(4) 総説ほか執筆

赤見理恵. (2015) サルたちの「種の誇り」「新世界ザルアマゾンの熱帯雨林に野生の生きざまを追う」伊沢紘生著, 山と溪谷. 2015(4): 196.

赤見理恵. (2015) サルとは何か? - 多様性とその進化 - 地球に生きる神秘的なサル, 池田書店. pp. 2-3.

石田崇斗. (2015) この個に注目 愛知県在住ジェフロイクモザルのフリオさん (♂). 市民 Zoo ネットワーク News Letter. 41: 13.

伊谷原一. (2015) 大型類人猿解説. 前川貴行写真集「Great Apes」一森に住む人々, 小学館. pp. 98-99.

五神真, 山極壽一. (2016) 東大・京大トップ激論. 週刊朝日. 1 月 29 日号: 128-132.

尾池和夫. (2015) 京都百万年の歴史. 日本都市学会年報. 48.

尾池和夫. (2015) 京都西山断層帯と竹の子の産地. 三洋化成ニュース. No.492.

尾池和夫. (2015) 海城地震の予報の成功から 40 年. 公益財団法人日本地球惑星科学連合.

尾池和夫. (2015) 北山の準平原. 三洋化成ニュース. No. 494.

尾池和夫. (2015) 南海トラフの巨大地震を予測する. 近畿化学工業界. 2015 年 7 月号.

尾池和夫. (2015) 地震を知って震災に備える. だいわかいニュース. 2015 年 7 月 1 日.

尾池和夫. (2015) 日本列島の自然. 京都洛中ロータリークラブ 35 周年記念誌.

尾池和夫. (2015) 社会人の学修需要. IDE- 現代の高等教育. 573: 30-33.

尾池和夫. (2015) 花折断層をたどる. 三洋化学ニュース, No. 496.

尾池和夫. (2015) 京都造形芸術大学紀要一八号 (2013) の発行にあたって. 京都造形芸術大学紀要. 18.

尾池和夫. (2015) APGN 山陰海岸シンポジウムへの期待.

尾池和夫. (2015) 20 世紀前半の地震に備える. 京都市防災センター開館 20 周年記念特別防災講演会講演録.

坂田省吾, 友永雅己, 村上郁也. (2015) 特集「時間認知の解明への学際的アプローチ」巻頭言. 基礎心理学研究. 34: 1.

高野智. (2015) 地球上に生きるサルたちのゆくえ. 地球に生きる神秘的なサル, 池田書店. pp. 122-123.

高野智. (2015) ニホンザルと人の関わり - 同じ列島にくらすものとして -. 東京新聞・中日新聞サンデー版, 世界と日本 大図解シリーズ No.1231 (2015 年 12 月 27 日).

友永雅己. (2015) 写真やテレビはどう見える? 日本動物心理学会 (監修), 藤田和生 (編著) 動物たちは何を考えている? 動物心理学の挑戦 (知りたいサイエンス), 技術評論社. pp. 53-56.

- 友永雅己. (2015) 顔はどんなふうに見える？ 日本動物心理学会 (監修), 藤田和生 (編著) 動物たちは何を考えている？動物心理学の挑戦 (知りたいサイエンス), 技術評論社. pp. 57-61.
- 友永雅己. (2015) ものの数はどれくらいわかる？ 日本動物心理学会 (監修), 藤田和生 (編著) 動物たちは何を考えている？動物心理学の挑戦 (知りたいサイエンス), 技術評論社. pp.134-138.
- 友永雅己. (2015) 動物って子どもの教育に熱心なの？ 日本動物心理学会 (監修), 藤田和生 (編著) 動物たちは何を考えている？動物心理学の挑戦 (知りたいサイエンス), 技術評論社. pp. 196-199.
- 友永雅己. (2015) 仲間の見分けはどうやって？ 日本動物心理学会 (監修), 藤田和生 (編著) 動物たちは何を考えている？動物心理学の挑戦 (知りたいサイエンス), 技術評論社. pp. 200-204.
- 友永雅己. (2015) あなたはだあれ？ 鏡に映った自分の姿. 日本動物心理学会 (監修), 藤田和生 (編著) 動物たちは何を考えている？動物心理学の挑戦 (知りたいサイエンス), 技術評論社. pp. 248-251.
- 友永雅己. (2015) 我慢はできる？ 日本動物心理学会 (監修), 藤田和生 (編著) 動物たちは何を考えている？動物心理学の挑戦 (知りたいサイエンス), 技術評論社. pp. 252-255.
- 友永雅己, 茂木一孝. (2015) 赤ちゃんから大人へ 心の発達. 日本動物心理学会 (監修), 藤田和生 (編著) 動物たちは何を考えている？動物心理学の挑戦 (知りたいサイエンス), 技術評論社. pp. 119-124.
- 山極壽一. (2015) 味方をつくらない. 世界を平和にするためのささやかな提案 (14 歳の世渡り術シリーズ). 河出書房新社. pp.118-124.
- 山極壽一. (2015) サルから考える人間のコミュニティの未来. 近藤淳也 (監修) ネットコミュニティの設計と力. 角川学芸出版. pp. 129-160.
- 山極壽一. (2015) 負けない構えの美しさをゴリラから学ぶ. 学燈, 112: 2-5.
- 山極壽一. (2015) 教育の原点と京都大学の国際戦略. NIKKEI. 65: 1-4.
- 山極壽一. (2015) 大人の品格はゴリラに学んだ. Fortuna, 2: 34-37.
- 山極壽一. (2015) 父という余分なもの. OSAKA ROTARY CLUB Weekly Bulletin, 2952: 1-2.
- 山極壽一. (2015) ゴリラが教えてくれたこと. 母の友. 745: 12-15.
- 山極壽一. (2015) ゴリラの国の歴史ー野生のゴリラから学ぶこと. どうぶつと動物園. 699: 36-37.
- 山極壽一. (2015) 『サル化』する人間社会. ひと・健康・未来. 5: 14-18.
- 山極壽一. (2015) 図書館と女性力. JWCS 通信. 75: 4-5.
- 山極壽一. (2015) 共感の行き場を間違えた人類. NHK 出版新書特別編集号: 17-22.
- 山極壽一. (2015) 国立大学改革の直面する課題. 青淵. 800: 6-7.
- 山極壽一. (2015) 人間のコミュニケーション力とは何か. 巻頭随想. 調査月報. 087: 2-3.
- 山極壽一. (2015) 考える力と大学教育. 公益財団法人山岡育英会会誌. 51: 34-35.
- 山極壽一. (2016) 笑うゴリラに学ぶ. The BIG ISSUE JAPAN. 278: 7-11.
- 山極壽一. (2016) 子守唄の起源ーゴリラから学ぶ. ららばい通信. 2016 新年号: 1-6.
- 山極壽一. (2016) 中年を迎えて. 月間みんぱく. 1月号: 1.
- 山極壽一. (2016) サルの時代へ. 公研, 629: 16-17.
- 山極壽一. (2016) 『制度ー人類社会の進化』をめぐるコメント. 基幹研究「人類学におけるミクローマクロ系の連関」『制度ー人類社会の進化』をめぐる. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. 55-66.
- 山極壽一. (2016) 子どもたちに伝えたい文化. MURYOJU. 100: 17-20.
- 山極壽一. (2016) 「おもろいこと」が世界を変える. 構想の庭. 2: 13-19.
- 山極壽一. (2016) 老年期の進化と人間社会の未来. Chubu Institute for Advanced Studies, Studies Forum Series. 95: 4-19.
- 山極壽一, 林真理子. (2015) 対談「なぜ人は家族をつくるのか」. 家の光創立 90 周年記念号. 91(5): 22-27.
- 山極壽一, 茂木健一郎. (2015) 人間のルーツ, ゴリラが教えてくれる: メスの本能. PRESIDENT 2015.3.2 号: 20-25.
- 山極壽一, 鷲田清一. (2015) ゴリラに学ぶリーダーシップ. KOTOBA. 2: 184-189.

(4) 書籍の監修

- ① 地球に生きる神秘的なサル (池田書店)
平成 27 年 11 月 30 日発行
- ② さる さる さる み～んなさる！
(サンチャイルド ビッグサイエンス 2016 年 1 月号)
(チャイルド本社) 平成 28 年 1 月 1 日発行

I-II 学会および研究会

1. 学会参加

- (1) Association for Chemoreception Science 32th Annual Meeting
日程：平成 27 年 4 月 22 日～4 月 25 日
会場：Hyatt Regency Coconut Point (アメリカ、フロリダ州) 早川卓志
- (2) 日本アフリカ学会第 52 回学術大会
日程：平成 27 年 5 月 23 日～5 月 24 日
会場：犬山国際観光センター「フロイデ」(愛知県犬山市) 伊谷原一、高野智、赤見理恵、新宅勇太、江藤彩子
- (3) NCS 現場の会 第 4 回研究会
日程：平成 27 年 7 月 1 日～7 月 3 日
会場：つくば国際会議場 (茨城県つくば市) 早川卓志
- (4) 第 23 回希少動物人工繁殖研究会
日程：平成 27 年 7 月 4 日～7 月 6 日
会場：神戸市立王子動物園 (兵庫県神戸市) 綿貫宏史朗
- (5) 第 31 回日本霊長類学会大会
日程：平成 27 年 7 月 18 日～7 月 20 日
会場：京都大学 (京都府京都市) 高野智、赤見理恵、新宅勇太、綿貫宏史朗、早川卓志、古賀典子、奥村文彦、根本慧、廣川百恵
- (6) The 4th International Symposium on Promatology and Wildlife Science (PWS Interim Symposium): Toward the Asian Federation for Primatology
日程：平成 27 年 7 月 21 日～7 月 22 日
会場：京都大学 (京都府京都市) 新宅勇太、綿貫宏史朗、早川卓志、古賀典子、廣澤麻里
- (7) 第 21 回日本野生動物医学会大会
日程：平成 27 年 7 月 31 日～8 月 2 日
会場：酪農学園大学 (北海道江別市) 綿貫宏史朗
- (8) 日本進化学会第 17 回大会
日程：平成 27 年 8 月 20 日～23 日
会場：中央大学 (東京都文京区) 早川卓志
- (9) 平成 27 年度日本学術振興会育志賞研究発表会
日程：平成 27 年 8 月 31 日
会場：京都大学 (京都府京都市) 早川卓志
- (10) マハレ 50 周年記念展・公開シンポジウム「野生チンパンジー学の 50 年」
日程：平成 27 年 9 月 19 日
会場：東京大学 (東京都文京区) 早川卓志
- (11) 第 63 回全国動物園技術者研究会
日程：平成 27 年 9 月 21 日～9 月 23 日
会場：オークラ千葉ホテル (千葉県千葉市)、千葉市動物公園 (千葉県千葉市) 伊谷原一、新宅勇太、綿貫宏史朗、鏡味芳宏、寺尾由美子、今井由香
- (12) 屋久島学ソサエティ第 3 回大会
日程：平成 27 年 11 月 5 日～11 月 8 日
会場：屋久島離島開発総合センター (鹿児島県屋久島町) 新宅勇太、早川卓志、荒木謙太、中尾汐莉

- (13) 第 18 回アフリカ・アジアに生きる大型類人猿を支援する集い (SAGA シンポジウム)
日程：平成 27 年 11 月 14 日～11 月 15 日
会場：京都市動物園 (京都府京都市) 赤見理恵、綿貫宏史朗、早川卓志、星野智紀、奥村文彦、中尾汐莉、山田将也、石田崇斗、杉浦直樹
- (14) 第 56 回日本動物園水族館教育研究会沖縄大会
日程：平成 27 年 11 月 27 日～28 日
会場：沖縄こどもの国 (沖縄県沖縄市) 高野智、赤見理恵、荒木謙太
- (15) 2015 年度勇魚会シンポジウム
日程：平成 27 年 11 月 28 日～29 日
会場：日本大学 (神奈川県藤沢市) 早川卓志
- (16) 第 22 回動物園水族館獣医師臨床研究会
日程：平成 28 年 2 月 17 日～18 日
会場：山口県山口市 岡部直樹
- (17) The 5th International Symposium on Primatology and Wildlife Science
日程：平成 28 年 3 月 3 日～3 月 6 日
会場：犬山国際観光センター「フロイデ」(愛知県犬山市) 高野智、赤見理恵、新宅勇太、綿貫宏史朗、早川卓志、古賀典子、江藤彩子、廣澤麻里、寺尾由美子、田中ちぐさ、奥村太基

2. 研究会の開催

- (1) 第 60 回プリマーテス研究会の開催
日程：平成 28 年 1 月 30 日・1 月 31 日
参加者：107 名 (所員含む)
会場：ビジターセンターホール (口頭発表)、セミナーハウス白帝 (ポスター発表)

発表賞

最優秀口頭発表賞：

山田将也 (公益財団法人日本モンキーセンター)

最優秀ポスター発表賞：

戸田和弥 (京都大学霊長類研究所)

優秀口頭発表賞：

酒井朋子 (慶應義塾大学医学部)

岡本宗裕 (京都大学霊長類研究所)

南山高等・中学校女子部 霊長類学入門

(メンバー：浅井梨那、大久保直美、小栗乃衣梨、

川嶋梨湖、黒木美里、近藤絢子、高木美智、寺澤奈那、

宮田花梨、山田若奈、主顧問：前川幸代)

優秀ポスター発表賞：

奥村太基 (公益財団法人日本モンキーセンター)

Jie Gao (Primate Research Institute, Kyoto University)

木下こづえ (京都大学霊長類研究所)

プログラム

2016年1月30日(土)

10:00 開会挨拶

10:15 ~ 11:15 口頭発表①

O-1 高磁場MRIによる霊長類の脳神経回路構造の比較研究
○酒井朋子¹、畑純一²、太田裕貴³、小川優樹³、新宅勇太⁴、大石健一⁵、森進⁵、岡野ジェイムス洋尚³、濱田穰⁶、岡野栄之^{1,2} (¹慶應義塾大学医学部生理学教室、²理化学研究所脳科学総合研究センター、³東京慈恵会医科大学再生医学研究部、⁴公益財団法人日本モンキーセンター、⁵Department of Radiology, Johns Hopkins University School of Medicine、⁶京都大学霊長類研究所)

O-2 飼育下のケナガクモザルで長期間維持されていたと考えられる蟻虫感染について
○岡本宗裕¹、木村直人²、岡部直樹²、廣川類²、根本慧²、新美幸¹、新宅勇太^{2,3}、早川卓志^{1,2}、伊谷原一^{2,3} (¹京都大学霊長類研究所、²公益財団法人日本モンキーセンター、³京都大学野生動物研究センター)

O-3 霊長類に特異的な遺伝子 PIPSL の起源と進化
○大島一彦、松村研哉 (長浜バイオ大学)

O-4 ABS 対応に向けた日本モンキーセンター所蔵の生物学資料の再評価
○新宅勇太 (公益財団法人日本モンキーセンター、京都大学野生動物研究センター)

11:15 ~ 11:30 休憩

11:30 ~ 12:15 口頭発表②

O-5 フクロテナガザル人工哺育仔の早期社会化のための群れ戻し
○石田崇斗¹、山田将也¹、根本慧¹、鏡味芳宏¹、綿貫宏史朗^{1,2}、打越万喜子^{1,2}、堀込亮意¹、木村直人¹、伊谷原一^{1,3} (¹公益財団法人日本モンキーセンター、²京都大学霊長類研究所、³京都大学野生動物研究センター)

O-6 高知県立のいち動物公園のチンパンジー集団における、二卵性のふたごととおとなとの近接関係の4年間の変化
○岸本健¹、安藤寿康²、多々良成紀³、山田信宏³、友永雅己⁴ (¹聖心女子大学、²慶應義塾大学、³高知県立のいち動物公園、⁴京都大学霊長類研究所)

O-7 「高い高い」にみる対面コミュニケーションの種間比較
○川上文人^{1,2}、Chloe Gonseth、市野悦子¹、平栗明実¹、林美里¹ (¹京都大学霊長類研究所、²日本学術振興会)

12:15 ~ 13:30 休憩 Break

13:30 ~ 14:30 口頭発表③ Oral Session 3

O-8 岡山県高梁市に残る魍魎信仰について
○川本芳¹、伊左治美奈²、田村啓介³、三戸幸久⁴、毛利俊雄¹ (¹京都大学霊長類研究所、²東北野生動物保護管理センター、³高梁市教育委員会、⁴相山女学園大学)

O-9 ボノボに対する食物禁忌はどのように守られてきたかーコンゴ民主共和国民族集団ボンガンドの調査からー
○横塚彩 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

O-10 毛小皮紋理の形態を用いた野生ヒョウに捕食される霊長類の比較解析
○仲澤伸子¹、新宅勇太^{1,2}、早川卓志^{2,3} (¹京都大学野生動物研究センター、²公益財団法人日本モンキーセンター、³京都大学霊長類研究所)

O-11 ヒト上科霊長類における歯周病
○矢野航¹、橋本千絵²、清水大輔³ (¹朝日大学歯学部、²京都大学霊長類研究所、³京都大学大学院理学研究科)

14:30 ~ 14:45 休憩

14:45 ~ 16:15 口頭発表④

O-12 ニホンザルにおける行為主体性にもとづいた追跡事象の知覚
○渥美 剛史、香田啓貴、正高信男 (京都大学霊長類研究所)

O-13 ニホンザルにおけるヘビ画像に対する注意バイアス
○佐藤まどか、香田啓貴、正高信男 (京都大学霊長類研究所)



O-14 テングザル：鼻の長いオスはモテるのか？

○松田一希¹、John Sha¹、Ismon Osman²、Sen Nathan³、清野悟⁴、香田啓貴¹（¹ 京都大学霊長類研究所、² シンガポール動物園、³ サバ州野生生物局、⁴ (公財) 横浜市緑の協会横浜動物園）

O-15 野生ジャワルトンの苦味受容体遺伝子の多様性解析

○鈴木 - 橋戸南美¹、早川卓志^{1,2}、Laurentia Henrieta Permita Sari Purba³、Sarah Nila³、Kanthi Arum Widayati³、Bambang Suryobroto³、今井啓雄¹（¹ 京都大学霊長類研究所、² 日本モンキーセンター、³ ボゴール農科大学）

O-16 Functional characterization of bitter taste perception in leaf-eating monkeys

○ Laurentia Henrieta Permita Sari Purba¹、Kanthi Arum Widayati¹、Sarah Nila¹、Kei Tsutsui²、Nami Suzuki-Hashido²、Takashi Hayakawa²、Bambang Suryobroto¹、Hiroo Imai²（¹ Department of Biology, Bogor Agricultural University, Indonesia、² Primate Research Institute, Kyoto University, Japan）

O-17 The vocal repertoire of Tibetan macaques (*Macaca thibetana*): A quantitative classification and a comparative perspective

○ Sofia K. Bernstein¹、Lori K. Sheeran^{2,3}、R. Steven Wagner^{3,4}、Jin-hua Li⁵、Hiroki Koda¹（¹ Primate Research Institute, Kyoto University, Japan、² Department of Anthropology and Museum Studies, Central Washington University, USA、³ Primate Behavior and Ecology Program, Central Washington University, USA、⁴ Department of Biological Sciences, Central Washington University, USA、⁵ School of Life Science, Hefei Normal University, China）

16:30 ~ 18:00 ポスターセッション

2016 年 1 月 31 日 (日)

10:00 ~ 10:45 口頭発表⑤

O-18 フサオマキザルにおける年齢カテゴリー弁別

○川口ゆり¹、黒島妃香²、藤田和生²（¹ 京都大学文学部、² 京都大学大学院文学研究科）

O-19 学校貸出し用事前学習教材の開発

○赤見理恵¹、高野智¹、江藤彩子¹、小比賀正規²（¹ 公益財団法人日本モンキーセンター、² 愛知教育大学大学院）

O-20 公益財団法人日本モンキーセンターの霊長類を対象とした科学研究実践活動

○大久保直美、○川嶋梨湖、○近藤絢子、浅井梨那、○高木美智、小栗乃衣梨、○山田若奈、○寺澤奈那、黒木美里、宮田花梨、前川幸代（南山高等・中学校女子部中高生の科学研究実践活動推進プログラム霊長類学入門）

10:45 ~ 11:00 休憩

11:00 ~ 12:00 口頭発表⑥

O-21 日本モンキーセンターでのヤクニホンザルのイモ洗い行動について

○山田将也¹、鏡味芳宏¹、石田崇斗¹、綿貫宏史朗^{1,2}、新宅勇太^{1,3}、堀込亮意¹、木村直人¹、伊谷原一^{1,3}（¹ 公益財団法人日本モンキーセンター、² 京都大学霊長類研究所、³ 京都大学野生動物研究センター）

O-22 オランダの動物園における霊長類の混合飼育実施状況について

○綿貫宏史朗^{1,2}、田中ちぐさ²、岩原真利¹（¹ 京都大学霊長類研究所、² 公益財団法人日本モンキーセンター）

O-23 身体障害をもつチンパンジーにおける認知課題を用いた歩行リハビリテーションの導入

○櫻庭陽子^{1,2}、友永雅己¹、林美里¹（¹ 京都大学霊長類研究所、² 日本学術振興会）

O-24 高知県立のいち動物公園における脳性麻痺チンパンジーへの発達支援へのとりくみ

○高塩純一¹、山田信宏²、高橋一郎³、下元佳子⁴、竹下秀子⁵、川上文人^{6,7}、林美里⁷、水野友有⁸、友永雅己⁷（¹ びわこ学園医療福祉センター草津、² 公益財団法人高知県のいち動物公園協会、³ オファーズ訪問看護ステーションおたすけまん、⁴ 生き生きサポートセンターうえるば高知、⁵ 滋賀県立大学人間文化学部、⁶ 日本学術振興会、⁷ 京都大学霊長類研究所、⁸ 中部学院大学子ども学部）

O-25 飼育下霊長類の社会性とストレス —チンパンジーとスローロリスを対象に—

○山梨裕美（京都大学野生動物研究センター）

ポスターセッション

P-1 Why did humans start wearing clothes?

○ Rachel Ahn（North London Collegiate School Jeju, Korea）

P-2 ヒト上科における肘関節の進化

○高野智（公益財団法人日本モンキーセンター）

P-3 屋久島のニホンザルにおける腸内細菌叢の季節変動

○澤田晶子¹、栗原洋介¹、早川卓志^{1,2}（¹ 京都大学霊長類研究所、² 公益財団法人日本モンキーセンター）

P-4 低順位のニホンザルは魚を食べられるか？

○高橋明子（京都大学野生動物研究センター）

P-5 ボノボの母と移出した娘の社会的関係

○戸田和弥、徳山奈帆子、Heunjin Ryu、坂巻哲也、古市剛史（京都大学霊長類研究所）

- P-6 繁殖期のワオキツネザルのオスは臭腺分泌物質をどのような目的で利用しているのか
○糸井川壮大¹、早川卓志^{2,3}、今井啓雄³（¹京都大学理学部生物科学専攻、²公益財団法人日本モンキーセンター、³京都大学霊長類研究所）
- P-7 アビシニアコロブス新生子に対する群れの養育行動の変化
○奥村太基¹、根本慧¹、廣川類¹、菊田恭介¹、打越万喜子^{1,2}、綿貫宏史朗^{1,2}（¹公益財団法人日本モンキーセンター、²京都大学霊長類研究所）
- P-8 カメラトラップで明らかになったリベリア共和国パラにおける野生チンパンジーの道具使用行動
○大橋岳（中部大学）
- P-9 居住空間の拡大によるチンパンジーの行動および滞在場所の変化
○林美里¹、Anne-Claire Artemis Idoux²、Raquel Costa³、前田典彦¹（¹京都大学霊長類研究所、²National Veterinary School of Toulouse、³Center of Investigation in Anthropology, CRIA/FCSH, Lisbon）
- P-10 チンパンジー集団を対象としたトークン使用の社会実験—チンパンジーは将来に備えて「投資」するか？
○黒澤圭貴¹、川上文人^{1,2}、友永雅己¹（¹京都大学霊長類研究所、²日本学術振興会）
- P-11 演題キャンセル
- P-12 The rock-paper-scissors game in chimpanzees (*Pan troglodytes*)
○Jie Gao¹、Yanjie Su²、Masaki Tomonaga¹、Tetsuro Matsuzawa¹（¹Primate Research Institute, Kyoto University、²Department of Psychology, Peking University）
- P-13 チンパンジーにおける音源弁別学習
○瀧山拓哉¹、服部裕子^{2,3}、松沢哲郎³（¹京都大学理学部、²京都大学野生動物研究センター、³京都大学霊長類研究所）
- P-14 Distractor effect of auditory rhythms on self-paced tapping in chimpanzees and humans
○Yuko Hattori^{1,2}、Masaki Tomonaga²、Tetsuro Matsuzawa²（¹Wildlife Research Center, Kyoto University、²Primate Research Institute, Kyoto University）
- P-15 Blushing and embarrassment signals in primate sociality
○Gaspard van Hamme（Jane Goodall Institute of South Africa - Chimpanzee Eden）
- P-16 Attentional capture and disengagement as a way of assessing emotional state in captive chimpanzees: A research plan
○Duncan Wilson、Masaki Tomonaga（Kyoto University Primate Research Institute）
- P-17 視線はコミュニケーション？視線を避けるサルの視線認識
○村井千寿子¹、友永雅己²（¹玉川大学脳科学研究所、²京都大学霊長類研究所）
- P-18 飼育下チンパンジーにおける母親の拍手行動の出現と減少
○平栗明実¹、川上文人^{1,2}、市野悦子¹、Chloe Gonseth、Anne-Claire Idoux³、林美里¹（¹京都大学霊長類研究所、²日本学術振興会、³National Veterinary School of Toulouse）
- P-19 飼育チンパンジーにおける性周期の認知実験参加への影響
○市野悦子、友永雅己（京都大学霊長類研究所）
- P-20 飼育下チンパンジー (*Pan troglodytes*) における出産後の性皮腫脹と性ステロイドホルモン濃度動態について
○木下こづえ¹、奥村文彦²、星野智紀²、廣澤麻里^{2,3}、中尾汐莉²、坂口真悟²、綿貫宏史朗^{1,2}、岡部直樹^{2,3}、木村直人²、伊谷原一^{2,3}、市野悦子¹、高島友子¹、林美里¹、岡本宗裕¹（¹京都大学霊長類研究所、²公益財団法人日本モンキーセンター、³京都大学野生動物研究センター）
- P-21 チンパンジー (*Pan troglodytes*) における精子運動率の時間変化に関する基礎的研究
○印藤頼子¹、奥村文彦²、早川卓志^{1,2}、伊谷原一^{2,3}、岡本宗裕¹、木下こづえ¹（¹京都大学霊長類研究所、²公益財団法人日本モンキーセンター、³京都大学野生動物研究センター）
- P-22 日本モンキーセンターにおける周産期新生仔期死亡について ～過去10年間の分析と今後の課題～
○木村直人¹、岡部直樹^{1,2}（¹公益財団法人日本モンキーセンター、²京都大学野生動物研究センター）
- P-23 レッサースローロリスの口内検診
○寺尾由美子¹、岡部直樹^{1,2}、廣澤麻里^{1,2}、木村直人（¹公益財団法人日本モンキーセンター、²京都大学野生動物研究センター）
- P-24 Making pellet diet taste better to marmosets (*Callithrix jacchus*)
○Claire F I Watson¹、Christine A Caldwell²（¹Primate Research Institute of Kyoto University、²University of Stirling, UK）
- P-25 モンキーセンターにおける飼料の変化 ～動物福祉を目指した飼料品目改善～
○安倍由里香、根本真菜美、今井由香、廣川百恵、大岡幸男（公益財団法人日本モンキーセンター）

- P-26 モンキーセンターにおけるワオキツネザルの血統とその管理
○田中ちぐさ、廣川百恵、中尾汐莉、杉浦直樹（公益財団法人日本モンキーセンター）
- P-27 飼育下霊長類のためのみどりある環境
○廣澤麻里（公益財団法人日本モンキーセンター、京都大学野生動物研究センター）
- P-28 ウガンダ西部における子どもたちの動物と森との関係性について
○有賀菜津美、橋本千絵（京都大学霊長類研究所）
- P-29 学ぶ！観る！リスザルのおやつ作り体験
○荒木謙太、三宅菜穂美、長谷川裕士、大島悠輝、三井桃依（公益財団法人日本モンキーセンター）
- P-30 国際テナガザル年-2015：日本モンキーセンターでの教育普及活動
○打越万喜子^{1,2}、綿貫宏史朗^{1,2}、山田将也¹、石田崇斗¹、高野智¹（¹公益財団法人日本モンキーセンター、²京都大学霊長類研究所）
- P-31 「理想の動物園」を目指す公益財団法人・日本モンキーセンターの現状への一考察
○柴田永治

3. 研究会の共催

(1) 動物園大学 6 in 犬山 ズーだなも。

主催：京都大学野生動物研究センター

日程：平成 28 年 3 月 20 日

参加者：324 名（所員含む）

会場：ビクターセンターホール（メイン会場）、
無料休憩所（ポスター発表）



4. 発表

(1) 学会・研究会での発表（プリマーテス研究会を除く）

赤見理恵. (2015) 霊長類から学ぶ小学 5 年生理科「人のたんじょう」. 第 18 回 SAGA シンポジウム. (京都府京都市)

赤見理恵. (2015) 学校貸出用事前学習教材の開発～博学連携の裾野を広げるために～. 第 56 回日本動物園水族館教育研究会. (沖縄県沖縄市)

荒木謙太, 中尾汐莉, 早川卓志, 新宅勇太. (2015) ヤクニホンザルの飼育施設モンキーバレイの歴史. 屋久島学ソサエティ第 3 回大会. (鹿児島県屋久島町)

荒木謙太, 山田将也, 赤見理恵, 木村直人, 伊谷原一. (2015) 学ぶ！観る！リスザルのおやつ作り体験. 第 56 回日本動物園水族館教育研究会. (沖縄県沖縄市)

福守朗, 森村成樹. (2015) 九州沖縄地域における飼育下チンパンジーのメスの繁殖状況. 第 18 回 SAGA シンポジウム. (京都府京都市)

Gao J, Tomonaga M, Matsuzawa T, Su Y. (2016) The rock-paper-scissors game in chimpanzees (*Pan troglodytes*). 第 31 回日本霊長類学会大会. (京都府京都市)

Gonseth C, Kawakami F, Ichino E, Tomonaga M. (2015) An experimental study of distance encoding mechanism in chimpanzees signaling. 第 31 回日本霊長類学会大会. (京都府京都市)

Gonseth C, Kawakami F, Ichino E, Tomonaga M. (2016) Distance-specific referential signals in chimpanzees (*Pan troglodytes*). The 5th International Symposium on Primatology and Wildlife Science/ Hominization Symposium. (愛知県犬山市)

Hagiwara S, Morimura N, Tanaka, M, Okamoto C, Ito S. (2015) Behavioral laterality in an Asian elephant (*Elephas maximus*) at Fukuyama Municipal Zoo, Japan. 49th congress of the International Society for Applied Ethology. (北海道札幌市)

萩原慎太郎, 森村成樹, 田中正之, 岡本智伸, 伊藤秀一. (2016) アジアゾウにおける行動の左右差に関するアンケート調査. 日本家畜管理学会・応用動物行動学会 2016 年度春季合同研究発表会. (東京都武蔵野市)

早川卓志. (2015) 野生霊長類における NGS を用いた行動・生態・進化の研究. NGS 現場の会第四回研究会. (茨城県つくば市)

早川卓志. (2014) 霊長類における苦味受容体遺伝子の比較集団遺伝解析. 第 31 回日本霊長類学会大会. (京都府京都市)

Hayakawa T. (2015) Dietary adaptation and bitter taste receptor gene evolution in primates. 日本進化学会第 17 回大会. (東京都文京区)

早川卓志. (2015) 霊長類における味覚受容体のゲノム進化と生態適応. 日本学術振興会育志賞研究発表会. (京都府京都市)

早川卓志. (2015) チンパンジーの味覚の進化論. マハレ 50 周年記念展・公開シンポジウム. (東京都文京区)

早川卓志. (2015) ワイルドライフゲノミクス～環境 DNA を用いた野生動物研究～. 屋久島学ソサエティ第 3 回大会. (鹿児島県屋久島町)

早川卓志. (2015) 比較ゲノム解析が明らかにする海生哺乳類の味覚の進化. 2015 年度勇魚会シンポジウム. (神奈川県藤沢市)

Hayakawa T, Inoue E, Matsuo H, Koops K, Murayama M, Hashimoto C, Matsuzawa T, Imai H. (2015) Genetic diversity and evolution of bitter taste receptor genes (*TAS2Rs*) in wild chimpanzees. Association for Chemoreception Sciences 37th Annual Meeting. (アメリカ, フロリダ)

- 早川卓志, 戸田安香, 今井啓雄. (2015) 群れ飼育の霊長類における味覚感受性テスト. 第 18 回 SAGA シンポジウム. (京都府京都市)
- 平賀真紀, 野口忠孝, 小倉典子, 井川亜久里, 須田朱美, 森村成樹. (2015) 飼育チンパンジーにおける行動調査に基づく繁殖個体の選定. 第 18 回 SAGA シンポジウム. (京都府京都市)
- 廣川百恵, 中尾汐莉, 田中ちぐさ, 杉浦直樹, 川本芳, 市野進一郎. (2015) 遺伝子分析を利用したワオキツネザルの父系判定の研究. 第 31 回日本霊長類学会大会. (京都府京都市)
- 廣澤麻里, 奥村太基, 根本慧, 廣川百恵, 坂口真悟. (2016) マンドリルへのおがくずを利用したエンリッチメントの取組み. 動物園大学 6 in 犬山 ず〜だなも. (愛知県犬山市)
- Imura T, Kawakami F, Shirai N, Tomonaga M. (2015) Visual processing of average size in chimpanzees. 38th European Conference on Visual Perception. (Liverpool, UK)
- 伊村知子, 川上文人, 白井述, 友永雅己. (2015). チンパンジーとヒトにおける平均サイズの知覚. 日本基礎心理学会第 34 回大会. (大阪府東大阪市)
- Inoue-Murayama M, Morimura N, Udono T, Idani G, Matsuzawa T, Wilson V, Weiss A. (2015) Polymorphism of the mu-opioid receptor gene (*OPRM1*) and arginine vasopressin receptor gene (*AVPR1a*) is associated with chimpanzee Conscientiousness. 日本霊長類学会第 30 回大会. (京都府京都市)
- 石田崇斗, 坂口真悟, 鏡味芳宏, 荒木謙太, 綿貫宏史朗, 新宅勇太, 赤見理恵. (2015) JMC におけるエンリッチメント体験を通じた教育活動. 第 110 回日本動物園水族館協会中部ブロック飼育技術者研修会. (静岡県賀茂郡東伊豆町)
- 石田崇斗, 山田将也, 根本慧, 鏡味芳宏, 堀込亮意, 木村直人, 綿貫宏史朗, 打越万喜子, 伊谷原一. (2015) フクロテナガザル人工保育仔の早期社会化のための群れ戻し. 第 18 回 SAGA シンポジウム. (京都府京都市)
- 菊池泰弘, 中野良彦, 中務真人, 國松豊, 清水大輔, 荻原直道, 辻川寛, 高野智, 石田英實. (2015) ケニア中期中新世の類人猿 *Nacholapithecus kerioi* における下位胸椎—椎体サイズと棘突起について. 第 31 回日本霊長類学会大会. (京都府京都市)
- Kim Y, Tomonaga M. (2015) Disadvantageous inequity influences chimpanzees' aversive reaction, but not their prosocial choice. 第 31 回日本霊長類学会大会. (京都府京都市)
- 菊田恭介, 根本慧, 廣川類, 奥村太基, 綿貫宏史朗, 打越万喜子. (2015) アビシニアコロブス新生子に対する群れの養育行動の変化. 第 111 回日本動物園水族館協会中部ブロック飼育技術者研修会. (愛知県岡崎市)
- 木下こづえ, 久世濃子, 小林智男, 宮川悦子, 成田浩光, 井上 - 村山美穂, 伊谷 原一. (2015) 近赤外分光法を用いたボルネオオランウータン (*Pongo pygmaeus*) の尿中エストロゲン代謝産物とクレアチニン濃度測定について. 日本霊長類学会第 30 回大会 (京都府京都市).
- 木下こづえ, 久世濃子, 小林智男, 宮川悦子, 成田浩光, 井上 - 村山美穂, 伊谷原一, Tsenkova R. (2015) フィルターペーパーを用いた近赤外分光法によるボルネオオランウータン (*Pongo Pygmaeus*) の尿中エストロゲン代謝産物濃度測定について. 第 31 回近赤外フォーラム. (茨城県つくば市)
- Kurosawa Y, Tomonaga M. (2015). Do chimpanzees try to increase their "assets"? 日本動物心理学会第 75 回大会. (東京都文京区)
- 黒澤圭貴, 川上文人, 友永雅己. (2016) チンパンジー集団を対象としたトークン使用の社会実験: チンパンジーは将来に備えて「投資」するか? 科学研究費補助金新学術領域「こころの時間学」2015 年度第 2 回班会議. (大阪府豊中市)
- 黒澤圭貴, 友永雅己. (2015) チンパンジーは「投資」をするのか? 第 31 回日本霊長類学会大会. (京都府京都市)
- 丸一喜, 森村成樹. (2015) 冷温帯で飼育されるチンパンジーの道具使用と気象条件の関係について. 第 18 回 SAGA シンポジウム. (京都府京都市)
- 水野佳緒里, Sharma N, Sukumar R, 伊谷原一. (2015) 野生アジアゾウの危険を伴う移動時に見られる行動: 道路渡りの事例から. 日本動物行動学会第 34 回大会. (東京都港区)
- Mizuno K, Sharma N, Sukumar R, Idani G. (2016) Moving in dangerous situations: What wild Asian elephants do when crossing roads? 日本生態学会第 63 回全国大会. (宮城県仙台市)
- Mizuno K, Yasui S, Tanaka M, Idani G. (2016) Individual identity of low-frequency calls in captive immature Asian elephants. The 4th Design Symposium on Conservation of Ecosystem (SEASTAR2000). (京都府京都市)
- 森村成樹. (2016) 飼育チンパンジーにおける電動ドアの自発的な操作. 日本家畜管理学会・応用動物行動学会 2016 年度春季合同研究発表会. (東京都武蔵野市)
- Morimura N. (2015) Green Corridor Project at Bossou-Nimba, Guinea. The 4th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (京都府京都市)
- Morimura N. (2015) Social life of captive chimpanzees: The two faces of behavioral freedom. The 49th Congress of the International Society for Applied Ethology. (北海道札幌市)
- Morimura N. (2016) Conservation of wild chimpanzees at Bossou, Guinea, The 5th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (愛知県犬山市).

- Morimura N, Mori Y. (2015) Interactive live-streaming video enrichment in captive male chimpanzees. 第31回日本霊長類学会大会. (京都府京都市).
- 森田菜摘, 前田洋一, 綿貫宏史朗, 竹田正人. (2015) 2015 国際テナガザル年の目的と取り組み. 第18回 SAGA シンポジウム. (京都府京都市)
- 森田菜摘, 前田洋一, 綿貫宏史朗, 竹田正人. (2016) 2015 国際テナガザル年の活動報告. 動物園大学 6 in 犬山 ず〜だなも. (愛知県犬山市)
- Motokawa M, Nakano T, Shintaku Y, Malaivijitnond S. (2015) Authorship for the species name of the Japanese macaque *Macaca fuscata*. Symposium on Primate Diversity in East and Southeast Asia. (Bangkok, Thailand)
- 野口忠孝, 平賀真紀, 小倉典子, 井川阿久里, 森村成樹. (2016) チンパンジーのヨシズ〜来園から初めての出産、その後〜. 動物園大学 6 in 犬山 ず〜だなも. (愛知県犬山市)
- 岡安直比, 伊谷原一, 木村大治, 杉浦直毅, 武内進一. (2015) エコツアーリズムを通じた中部アフリカ生物多様性保全とコミュニティ開発ーボノボ・エコツアーリズムの経済分析と日本市場マーケティングからの費用対効果の検証. 日本アフリカ学会第52回学術大会. (愛知県犬山市)
- 奥村文彦, 星野智紀, 坂口真悟, 綿貫宏史朗, 木下こづえ, 岡部直樹, 木村直人, 伊谷原一. (2015) 飼育下チンパンジーの授乳期における性皮腫脹. 第31回日本霊長類学会大会. (京都府京都市)
- 奥村太基, 根本慧, 廣川類, 菊田恭介, 打越万喜子, 綿貫宏史朗. (2016) アビシニアコロブス新生子に対する群れの養育行動の変化. 動物園大学 6 in 犬山 ず〜だなも. (愛知県犬山市)
- Permita LH, Widyati KA, Nila S, Tsutusi K, Suzuki-Hashido N, Hayakawa T, Suryobroto B, Imai H. (2015) Functional identification of gene encoding receptor of PTC bitter taste compound in leaf-eating monkeys. 第31回日本霊長類学会大会. (京都府京都市)
- 坂口真悟, 荒木謙太, 石田崇斗, 大島悠輝. (2016) 日本モンキーセンターにおける霊長類のより深い理解を目的とした体験型イベントの取り組み. 動物園大学 6 in 犬山 ず〜だなも. (愛知県犬山市)
- Saito M, Idani G. (2015) Giraffe mother-calf relationships in Miombo woodland, western Tanzania. Giraffe Indaba III. (Cape Town, South Africa)
- Saito M, Idani G. (2016) Comparison of proximity and social behavior between calf and juvenile in wild giraffe. Design Symposium on Conservation of Ecosystem. (京都府京都市)
- 櫻庭陽子, 友永雅己, 足立幾磨, 近藤裕治, 山本光陽, 林美里. (2016) 障害をもつチンパンジーの福祉とは?〜ヒトのリハビリテーションからヒントを得る〜. 人類学若手の会第4回総合研究集会. (福岡県福岡市)
- 新宅勇太. (2015) 飼育下ヤクニホンザルにおける繁殖パラメーターの時間的変化. 第31回日本霊長類学会大会. (京都府京都市)
- 新宅勇太. (2015) 屋久島を離れて60年: 日本モンキーセンターのヤクニホンザルに起きた形の変化. 屋久島学ソサエティ第3回大会. (鹿児島県屋久島町)
- 新宅勇太, 鏡味芳宏, 山田将也, 荒木謙太, 石田崇斗, 堀込亮意, 岡部直樹, 木村直人, 伊谷原一. (2015) 日本モンキーセンターの標本資料と飼育記録に基づく飼育下ヤクニホンザルの形態の変化. 第63回動物園技術者研究会. (千葉県千葉市)
- Shintaku Y. (2016) Reevaluation of primate specimen collection of Japan Monkey Centre as genetic resources. The 5th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (愛知県犬山市)
- 鈴木-橋戸南美, 早川卓志, 松井淳, 郷康広, 平井啓久, 颯田葉子, 今井啓雄. (2015) ニホンザルにおける PTC 味盲多型の急速な拡がり. 第31回日本霊長類学会大会. (京都府京都市)
- 高野智. (2015) 日本モンキーセンターの生息地研修とその展開. 第31回日本霊長類学会大会自由集会「野生への窓を開く動物園教育」. (京都府京都市)
- 高野智. (2015) 日本モンキーセンターにおける地域の学校との連携: 10年間の歩み. 第56回日本動物園水族館教育研究会. (沖縄県沖縄市)
- 田中ちぐさ, 綿貫宏史朗, 岩原真利. (2015) オランダの動物園における展示・飼育管理を見学して. 第18回 SAGA シンポジウム. (京都府京都市)
- 田中正之, 山梨裕美, 森村成樹. (2015) [宿題調査報告] 飼育下チンパンジーの生活スキルについて. 第63回動物園技術者研究会. (千葉県千葉市)
- 寺本研, 山梨裕美, 野上悦子, 森裕介, 森村成樹, 平田聡. (2015) チンパンジーのストレスホルモン長期モニタリング. 第18回 SAGA シンポジウム. (京都府京都市)
- 寺本研, 山梨裕美, 野上悦子, 森裕介, 森村成樹, 平田聡. (2015) 飼育チンパンジーの体毛中ストレスホルモンの長期モニタリング. 動物園大学 6 in 犬山 ず〜だなも. (愛知県犬山市)
- 友永雅己. (2015) 指定討論. 日本心理学会第79回大会公募シンポジウム「わたしたちがもっと見つめる先: 視線認知をめぐる先端研究 (三つ目がとおる)」(愛知県名古屋市)
- 友永雅己. (2015) イルカはヒトをどう見ているか. 日本心理学会第79回大会公募シンポジウム「異種間で伝達される社会的シグナルの探求」. (愛知県名古屋市)
- 友永雅己. (2015) (Do) chimpanzees see a face on Mars (?): Pareidolia, or perception of face-like stimuli in chimpanzees. 日本心理学会第79回大会公募シンポジウム「パレイドリア〜その先にあるもの」. (愛知県名古屋市)
- Tomonaga M, Kawakami F. (2015) How chimpanzees perceive human and chimpanzee eyes? 日本動物心理学会第75回大会. (東京都文京区)

- Tomonaga M. (2015) Social perception and cognition in chimpanzees. International Workshop “Hard-Wired, Soft-Wired and Re-Wired”. (Rome, Italy)
- Tomonaga M. (2016) Exploring the perceptual world from the comparative-cognitive perspective. The 5th International Symposium on Primatology and Wildlife Science/ Hominization Symposium. (愛知県犬山市)
- 友永雅己, 熊崎清則, Camus F, Nicod S, Pereira C, 松沢哲郎. (2016). Clever Hans 2016 —ウマにおけるタッチパネルを用いた相対的な数の大小判断. 日本家畜管理学会・応用動物行動学会 2016 年度春季研究発表会. (東京都武蔵野市)
- 友永雅己, 酒井基行, 田中由浩, 佐野明人. (2015) Feel the Force —チンパンジーにおけるトラックボールを用いた力覚弁別. 第 31 回日本霊長類学会大会. (京都府京都市)
- 友永雅己. (2016) 未来を予測するこころの進化：チンパンジー集団を対象としたトークン使用の社会実験. 科学研究費補助金新学術領域「こころの時間学」2015 年度第 2 回班会議. (大阪府豊中市)
- 辻内祐美, 野上悦子, 山梨裕美, 平田聡. (2016) 熊本サンクチュアリの雄チンパンジーの毎日～日替わりエンリッチメントの評価と社会交渉の調査～. 動物園大学 6 in 犬山 ず～だなも. (愛知県犬山市)
- 打越万喜子, 綿貫宏史朗, 山田将也, 石田崇斗, 高野智. (2015) 日本モンキーセンターの「国際テナガザル年」. 第 18 回 SAGA シンポジウム. (京都府京都市)
- 綿貫宏史朗, 奥村文彦, 打越万喜子, 友永雅己, 平田聡, 伊谷原一, 松沢哲郎. (2015) 国内飼育下フクロテナガザルにおける適切な個体群管理に向けた個体情報収集と評価. 第 31 回日本霊長類学会大会. (京都府京都市)
- 綿貫宏史朗, 奥村文彦, 打越万喜子, 友永雅己, 平田聡, 伊谷原一, 松沢哲郎. (2015) 国内飼育下フクロテナガザルにおける適切な個体群管理に向けた個体情報収集と評価. 第 21 回日本野生動物医学会大会. (北海道江別市)
- 綿貫宏史朗, 奥村文彦, 打越万喜子, 平田聡, 伊谷原一, 友永雅己, 松沢哲郎. (2015) 国内飼育下フクロテナガザルにおける適切な個体群管理に向けた個体情報収集と評価. 第 18 回 SAGA シンポジウム. (京都府京都市)
- 綿貫宏史朗, 鏡味芳宏, 奥村文彦, 伊谷原一. (2015) 霊長類コレクションの自己評価と今後の持続可能性. 第 63 回動物園技術者研究会. (千葉県千葉市)
- Wilson D, Vick S-J, Tomonaga M. (2015) Can eye preferences I response to emotional stimuli used as a welfare measure in captive capuchin monkeys? 第 31 回日本霊長類学会大会. (京都府京都市)
- 山田将也, 堀込亮意, 鏡味芳宏. (2016) 日本モンキーセンターでのヤクニホンザル群の歴史と特徴的な行動について. 動物園大学 6 in 犬山 ず～だなも. (愛知県犬山市)
- 山田将也, 石田崇斗, 根本慧, 鏡味芳宏, 綿貫宏史朗, 打越万喜子, 堀込亮意, 木村直人, 伊谷原一. (2015) フクロテナガザル人工哺育子の早期社会化のための群れ戻し. 第 63 回動物園技術者研究会. (千葉県千葉市)
- 山田将也, 鏡味芳宏, 石田崇斗, 堀込亮意, 木村直人, 綿貫宏史朗, 新宅勇太, 伊谷原一. (2015) 日本モンキーセンターでのヤクニホンザルのイモ洗い行動について. 第 18 回 SAGA シンポジウム. (京都府京都市)
- 山梨裕美, 寺本研, 森村成樹, 野上悦子, 平田聡. (2015) 飼育チンパンジーの長期的なストレスに影響を及ぼす要因の検討：攻撃・親和的社会行動に着目して. 第 31 回日本霊長類学会大会. (京都府京都市)
- 山梨裕美, 寺本研, 森村成樹, 野上悦子, 平田聡. (2015) 飼育チンパンジーの社会交渉：遊びは福祉の指標になるのか？ 日本家畜管理学会・応用動物行動学会 2016 年度春季合同研究発表会. (東京都武蔵野市)
- Yamanashi Y, Teramoto M, Morimura N, Hirata S, Inoue-Murayama M, Idani G. (2015) Long-term stress monitoring of captive chimpanzees in social housings: monitoring hair cortisol level and behaviors. 国際応用動物行動学会. (北海道札幌市)
- Yu L, Tomonaga M. (2015) Unidirectional tempo convergence in pairs of chimpanzees: an examination under face-to-face setup. 第 31 回日本霊長類学会大会. (京都府京都市)

5. 講演

- 赤見理恵. (2015) サルのはなし. 熱田神宮緑陰教室. (愛知県名古屋市中)
- 赤見理恵. (2015) 「知りたい！」をみんなのものに～研究から始まる動物園の知のサイクル. PWS 東京フォーラム 2015 ワイルドライフサイエンス：野生動物を知りたい、調べたい、守りたい！(東京都江東区)
- 赤見理恵. (2015) サルが教えてくれること. 半田市立幼稚園一斉研修講演会. (愛知県半田市)
- 星野智紀. (2015) マモルの成長を見守り、それを一緒に支える動物園ならではの研究者との連携. 動物園大学 6 in 犬山 ず～だなも. (愛知県犬山市)
- 伊谷原一. (2015) 教育・研究における動物園 / 水族館と大学の連携. 平成 27 年度日本動物園水族館協会総会課題講演 (兵庫県姫路市)
- 伊谷原一. (2016) ヒトとは何か？ボノボにみるヒト社会の起源. IBM ユーザー研究会招聘講演. (大阪府大阪市)
- 伊谷原一. (2016) アフリカ稀少類人猿・ボノボ. 広島市安佐動物公園・動物講演会. (広島県広島市)
- Matsuzawa T. (2015) The evolutionary origins of human cognitive development: insights from research on chimpanzees. Evolutionary psychology & primatology in the low countries. (Amsterdam, The Netherlands)
- Matsuzawa T. (2015) The evolutionary origins of human mind and culture: insights from research on Japanese monkeys and chimpanzees. Ape culture. (Berlin, Germany)

- Matsuzawa T. (2015) The evolutionary origins of human cognitive development: insights from research on chimpanzees. Copernicus Festival 2015: Genius. (Krakow, Poland)
- Matsuzawa T. (2015) The evolutionary origins of human cognition: insights from research on chimpanzees. II BioAnthropological Meeting: life, death and in between. (Coimbra, Portugal)
- Matsuzawa T. (2015) The evolutionary origins of human mind: insights from research on the great apes especially Orangutans. International conference on rainforest ecology, diversity and conservation in Borneo. (Kota Kinabalu, Malaysia)
- Matsuzawa T. (2015) Evolutionary origin of human language viewed from the study of chimpanzees. 8th World Congress of African Linguistics (WOCAL 8). (Kyoto, Japan)
- Matsuzawa T. (2015) The evolutionary origins of human mind viewed from the study of chimpanzees: the parallel efforts of conservation and welfare. The 6th European federation for primatology meeting. (Rome, Italy)
- Matsuzawa T. (2015) The evolutionary of the human mind can be understood through the study of chimpanzees in the wild and the laboratory. ABAI's the 8th international conference. (京都府京都市)
- Matsuzawa T. (2015) Tokens and tools: a parallel effort of lab work and field work by Claudia Sousa. Chimpanzees, people & nature: the legacy of Claudia Sousa. (Lisbon, Portugal)
- Matsuzawa T. (2015) 2015 Ewha EcoScience Symposium, Ewha woman University. (Seoul, Korea)
- Matsuzawa T. (2015) The evolutionary origins of human cognitive development: insights from research on chimpanzees. The 3rd International conference on human-agent interaction. (Daegu, Korea)
- Matsuzawa T. (2015) 从黑猩猩看人类心智起源. Guangdong Science Center. (Guangdong, China)
- Matsuzawa T. (2015) The evolutionary origins of human mind viewed from the study of chimpanzees. Consciousness, cognition and culture: implications for the 21st century. (Bengaluru, India)
- Matsuzawa T. (2016) The evolutionary origins of human mind viewed from the study of chimpanzees. Sorbonne conference on chimpanzees and horses. (Paris, France)
- Matsuzawa T. (2016) Primatologists in Discussion. The Netherlands meets Japan. (Leiden, The Netherlands)
- Matsuzawa T. (2016) Language and number in chimpanzees. Lorentz Center Workshop. (Leiden, The Netherlands)
- Matsuzawa T. (2016) Evolution of human mind viewed from the study of chimpanzees. The 8th Hope meetings. (茨城県つくば市).
- Matsuzawa T. (2016) The evolutionary origins of human cognitive development: insights from research on chimpanzees. ICN2016 Uruguay. (Montevideo, Uruguay)
- 松沢哲郎. (2015) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. 第 29 回日本医学会総会 2015 関西 2015. (京都府京都市)
- 松沢哲郎. (2015) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. 日本麻酔科学会第 62 回学術集会, (兵庫県神戸市)
- 松沢哲郎. (2015) チンパンジーの子育てからみた人間の育て「見習う学習、教えない教育」とそこからの一歩. 第 2 回未来教育シンポジウム. (東京都墨田区)
- 松沢哲郎. (2015) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. 第 5 回 CiNet シンポジウム 第 3 回大阪大学 COI シンポジウム：人間力・社会力の脳科学, (東京都千代田区)
- 松沢哲郎. (2015) ジェノサイド「大虐殺」の成り立ち. 講演会：法然院 夜の森の教室. (京都府京都市)
- 松沢哲郎. (2015) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. 第 21 回日本看護診断学会学術大会, (福井県福井市)
- 松沢哲郎. (2015) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. 第 5 回国際医療福祉大学学会学術大会. (栃木県大田原市)
- 松沢哲郎. (2015) 東京三菱調査懇談会 講演.
- 松沢哲郎. (2015) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. 豊島岡女子学園 講演. (東京都豊島区)
- 松沢哲郎. (2015) 人間とそれ以外の動物の赤ちゃんを比較する.『赤ちゃん学研究センター』キックオフシンポジウム. (京都府京田辺市)
- 松沢哲郎. (2015) 東大寺ミュージアム 講演. (奈良県奈良市)
- 松沢哲郎. (2015) 国際京都学協会 講演.
- 松沢哲郎. (2015) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間のこころ・ことば・きずな. 日本感覚統合学会. (広島県広島市)
- 松沢哲郎. (2015) 京都退職教職員のつどい 講演. (京都府京都市)
- 松沢哲郎. (2015) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. 旭リサーチセンター定例研究会. (東京都千代田区)
- 松沢哲郎. (2015) 広島京大会主催・京都大学共催市民公開講演会. (広島県広島市)
- 松沢哲郎. (2015) プータンに学ぶ国のありかた. 松本市立美術館 写真展「プータンの山と文化」開催記念講演. (長野県松本市)
- 松沢哲郎. (2015) 日本科学未来館 講演会. (東京都江東区)
- 松沢哲郎. (2015) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. 赤坂精神医学懇話会. (東京都港区)

- 尾池和夫. (2015) 日本学術会議の今後の取組み. 日本学術会議総会. (東京都港区)
- 尾池和夫. (2015) 地震を知って震災に備える. チェリーライオンズクラブ. (京都市中京区)
- 尾池和夫. (2015) 日本列島の自然. 洛中ロータリークラブ. (京都市中京区)
- 尾池和夫. (2015) ジオパークの目ざすもの. 日本綿業倶楽部. (大阪府大阪市)
- 尾池和夫. (2015) 地震を知って震災に備える. 大和会講演会. (東京都江東区)
- 尾池和夫. (2015) 日本列島と自然 - 大学で学ぶ意味とその魅力. 滋賀県立彦根東高校講演. (滋賀県彦根市)
- 尾池和夫. (2015) 地震を知って震災に備える. 防災士研修会 6 月 13 日.
- 尾池和夫. (2015) 地球は水の惑星. 大和文華館. (奈良県奈良市)
- 尾池和夫. (2015) 地震を知って震災に備える. 関西電気管理技術者協会京都支部. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2015) 地震を知って震災に備える. 防災士研修会 6 月 27 日.
- 尾池和夫. (2015) 自然環境と災害～南海トラフ地震の予測～. 神戸大学全学環境保全推進報告会. (兵庫県神戸市)
- 尾池和夫. (2015) 地震を知って震災に備える. (一財) 消防科学総合センター防災啓発研修. (東京都港区)
- 尾池和夫. (2015) 変動体の日本ジオパーク. 白山手取川ジオパーク水の旅特別講演. (石川県白山市)
- 尾池和夫. (2015) 地震を知って震災に備える. 生涯学習かめおか財団. (京都府亀岡市)
- 尾池和夫. (2015) 地震を知って震災に備える. 防災士研修会 7 月 18 日.
- 尾池和夫. (2015) 地震を知って震災に備える. 妙心寺派保育等研修会. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2015) 2038 年南海トラフの巨大地震. 青木脳神経外科・形成外科院内研修会.
- 尾池和夫. (2015) 日本列島の自然大地の仕組みと変動帯の文化. 京都市日本保育協会. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2015) 2038 年南海トラフの巨大地震. リーガロイヤルトークサロン. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2015) 21 世紀前半の地震に備える. 京都市市民防災センター特別防災講演会. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2015) 日本地質学会第 122 年学術大会, 文化と日本列島のジオ多様性. 日本地質学会第 122 年学術大会. (長野県長野市)
- 尾池和夫. (2015) 全国理数科教育研究大会, 日本列島の自然. 全国理数科教育研究大会. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2015) ジオパークの愉しみ. (一財) システム科学研究所情報化月間シンポジウム. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2015) 地震を知って震災に備える. 防災士研修会 10 月 10 日.
- 尾池和夫. (2015) 南海トラフの巨大地震と南大阪. 南大阪地域学会第 7 回大会. (大阪府堺市)
- 尾池和夫. (2015) 21 世紀の地震に備える. 防災・地震フォーラム in 京都. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2015) 地震を知って震災に備える. 近畿調停協会連合会調停委員大会. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2015) 2038 年南海トラフの巨大地震. 減災科学シンポジウム「南海トラフ巨大地震を迎え撃つ」. (徳島県徳島市)
- 尾池和夫. (2015) 沖縄自然史博物館を！シンポジウム, パネリスト. (沖縄県那覇市)
- 尾池和夫. (2015) ジオパークの現状. ジオパーク講演会. (高知県土佐清水市)
- 尾池和夫. (2015) 季語でめぐる日本列島. 京都ウイメンズクラブ. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2015) 地震を知って震災に備える. 防災士研修会 11 月 21 日.
- 尾池和夫. (2016) 137 億年の宇宙から見た京都. おおきに財団創立 20 周年記念式典. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2016) 21 世紀前半の地震活動. ゴールデン・エイジ・アカデミー. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2016) 季語でめぐる日本列島の自然. 近畿化学境界新春セミナー. (大阪府大阪市)
- 尾池和夫. (2016) 21 世紀前半の地震に備える. 第 1 回京都市下京消防団特別講演会. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2016) 2038 年南海トラフの巨大地震. 桂浜公園防災保安協会勉強会. (高知県高知市)
- 尾池和夫. (2016) 21 世紀前半の地震活動. 京都市土曜会. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2016) 季語でめぐる日本列島の自然. WIRED 日本のデザイン勉強会. (東京都港区)
- 尾池和夫. (2016) 地震を知って震災に備える. 防災士研修会 3 月 20 日.
- 尾池和夫. (2016) 季語でめぐる日本列島の自然. 日本化学会春季年会市民講座. (京都府京田辺市)
- 高野智. (2015) 新生代：霊長類の進化とヒトの誕生. あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク主催「さかえサイエンストーク」シリーズ「生命進化」キュレーターズ・トーク. (愛知県名古屋市)
- Tomonaga M. (2015) Chimpanzee mind: For the exploration of the origin of human mind. 北京大学招待講演. (中国, 北京)
- 友永雅己. (2015) チンパンジーから見るこころの進化と発達. 静岡県立磐田南高校スーパーサイエンスハイスクール講演. (愛知県犬山市)
- 友永雅己. (2015) チンパンジーからみたこころの進化. びっくり！エコ新聞「霊長類と環境について学ぶ旅」講演. (愛知県犬山市)

友永雅己. (2015) チンパンジーからみたこころの進化. 両国高校レクチャー. (愛知県犬山市)

友永雅己. (2015) 森のこころ、海のこころ ―野生の認知科学に向けて―. 公開シンポジウム「心の先端研究の現在とこれから」. (富山県富山市)

友永雅己. (2015) イルカから見た世界 2015：水族館との共同研究を通して. 公開シンポジウム『「イルカ学」水族館からのアプローチ』. (兵庫県神戸市)

山極壽一. (2015) 家族の由来と未来―ゴリラの社会から考える. 第 72 回日本生理人類学会大会特別講演. (北海道札幌市)

山極壽一. (2015) ゴリラの子育てから見た人間の子どもの不思議. 第 62 回日本小児保健協会学術集会特別講演. (長崎県長崎市)

Yamagiwa J. (2015). Gorilla research: Quest for origin of human family. Symposium “Human nature viewed from the long-term field studies of the great apes: chimpanzees, gorillas and orangutans” in the 31st Conference of Primate Society of Japan. (Kyoto, Japan)

山極壽一. (2015) こころの起源―共感から倫理へ. 京都こころ会議「こころと歴史性」. (京都府京都市)

山極壽一. (2015) 日本の類人猿学の挑戦―人類誕生の地 アフリカで見えてきたこと. マハレ 50 周年記念公開シンポジウム「野生チンパンジー学の 50 年」. (東京都文京区)

山極壽一. (2015) 食事は人間に何をもたらしたか. 食の文化シンポジウム「共食―あなたは誰と食事をしますか」基調講演. (東京都港区)

第 9 回：平成 27 年 10 月 28 日

会場：セミナーハウス白帝

演題：自己紹介と GAIN・KS での業務について

岩原真利 (京都大学霊長類研究所)

コンゴ・マレボの森のボノボ その保全に向けて

新宅勇太 (日本モンキーセンター／
京都大学野生動物研究センター)

第 10 回：平成 27 年 11 月 19 日

会場：セミナーハウス白帝

演題：タンザニア生息地研修報告

奥村文彦 (日本モンキーセンター)

オランダ動物園視察研修報告

綿貫宏史朗 (日本モンキーセンター／
京都大学霊長類研究所)

第 11 回：平成 27 年 12 月 22 日

会場：セミナーハウス白帝

演題：屋久島研修報告

荒木謙太 (日本モンキーセンター)

アフターダーク

～チンパンジーとスローロリスの夜更け～

山梨裕美 (京都大学野生動物研究センター)

ワークショップ：エンリッチメント実践 Part 4

橋本直子、藤森唯 (京都大学霊長類研究所)

(2) 職員向け「霊長類基礎セミナー」

第 1 回：平成 28 年 3 月 8 日

内容：霊長類学概論

高野智

6. セミナーの開催

(1) JMC 動物園学セミナー

第 6 回：平成 27 年 5 月 18 日

会場：セミナーハウス白帝

演題：宇陀市のサル被害と対策について

屏賀豪才 (奈良県宇陀市役所農林課)

サルとハチドリ味の味覚の遺伝子の進化

戸田安香 (キッコーマン株式会社／

東京大農学生命科学研究科)

アメリカ出張報告 ～ハーバード大学・比較動物学博物館で見てきたこと～

早川卓志 (京都大学霊長類研究所／
日本モンキーセンター)

第 7 回：平成 27 年 6 月 30 日

会場：セミナーハウス白帝

演題：類人猿今昔話

黒鳥英俊 (京都大学野生動物研究センター)

第 8 回：平成 27 年 7 月 23 日

会場：セミナーハウス白帝

演題：サルレトロウイルス 4 型によるニホンザル血小板減少症

岡本宗裕 (京都大学霊長類研究所)

I-III 生息地・施設研修



1. 幸島（京都大学野生動物研究センター幸島観察所）

第6班 平成27年4月7日～4月9日

星野智紀、荒木謙太、辻内祐美



幸島でのニホンザルの観察は全体的に大きさが小さく感じたことが印象的でした。また、高橋さんと幸島やその周辺の独特な植物を図鑑片手に調べながら歩くことがとても新鮮で植物にも興味がわきました。（星野）



幸島での研修では、半野生個体群であるニホンザルの観察、追跡調査、糞分析による食性調査、石波海岸樹林帯の植物調査、散策など多岐にわたり、大変充実した研修でした。自然豊かな幸島を肌で感じることができました。（荒木）



現在アルファのカバ。群れのアルファに一度なると死ぬまでアルファ。二位や三位は良く順位変動があり、一位が死んでいなくなった時に二位だった者がアルファになる。十年以上アルファの座にいる者もいるという。（辻内）

第7班 平成27年5月19日～5月21日

加藤章、廣川百恵、根本真菜美



台風が近づくなか、天気は良いのに渡れない日が続き、サルが見たい！気持ちばかりが募る最終日3日目、ようやく島に渡ることができました。幸島のサルたちは私たちを警戒することもなく、とても穏やかに暮らしている印象を受けました。（根本）



台風接近で海が荒れ島での行動がほとんどできず、古傷の膝痛まで重なり苦渋した数日でしたが、最終日の午前中だけ島に渡ることができました。猿害とは無縁ののんびり暮らすサルたちに会えました。(加藤)



本研修では、幸島周辺に植生する植物の種同定の方法を学びました。それまでは、特定の樹木の花や実、樹皮等の大きな特徴から調べていましたが、研修後は、葉の葉脈や茎、葉の縁の形等から図鑑を使い種同定ができるようになりました。(廣川)

第8班 平成27年6月9日～6月11日 鏡味芳宏、廣川類、大岡幸男



全日程が雨の中、なんとか渡れた大泊の浜で、広大な暖温帯熱帯雨林の迫力に圧倒され、のびのび暮らすサル達の姿に感動した。岩場から波打ち際に飛びこんで遊んでいた子ザル達が、気づけば今度は森の中で木々を揺らしバサバサと遊ぶ。野生に広がる無限の選択肢のいくつかでも飼育下に反映したいと強く思った。(鏡味)



日本霊長類発祥の地に行けて感動したのですが、砂浜では直接麦を口で食べたり、水の中に落ちた麦は手で拾って食べたりしていたのですが、一番驚いたのは、泳ぐことは知っていましたが、二ホンザルが海に潜ったことでした。(大岡)



幸島研修では、座学にて幸島の二ホンザルについて学ぶことができ、石波の海岸樹林にて植物の名前、特長を学ぶことができた。植物は、育つ環境により同じ種類でも違う種類に見えてしまうことがわかった。2日目は実際に幸島に渡り、二ホンザルを観察することができた。幸島という限られた空間、限られた食物資源の中、生きてきた二ホンザルはJMCで見る二ホンザルよりも体格が小さく年齢を判別するのは難しかった。幸島の二ホンザルは、子供達同士で遊び、水遊びもして、闘争もなく、のんびりと過ごしていた。その姿は、動物園で飼われている二ホンザルよりも幸せそうに見えた。今回の研修で、サルと植物は密接に関係していることがわかった。サル同様、植物の種類も学ばないといけないと感じた。(廣川)



ほぼ1年ぶりに訪れた幸島。天候に恵まれた中、今回は1頭をじっくりと集中して森の中で追いかけた。様々な行動を観察できた一方で、ほんの一瞬のすきに見失ってしまうなど、野外での行動調査の難しさにもふれることができた。(新宅)



野生動物の研究の基礎である動物観察を実際に行い、知ることを目的に研修に臨んだ。研修期間中2回渡島することができ、サルの観察を個体追跡と糞分析を行い、実りある研修となった。(江藤)



野生のニホンザルをこんなに近くで見ることができたのは初めてでした。野生の食性などを知ることができ、現場に戻った際に役立つことも多く学ぶことができました。行った季節が冬～春の移り変わりの季節でしたので、違う季節の時にも訪れたいです。(菊田)



4日間天候に恵まれ、海も風いでいて2日間幸島に渡ることができ、しっかりと観察することができました。ギシギシの葉やオガタマノキの葉を食べている姿を観察できました。ぜひ春・夏・秋・冬と幸島に行き、どのように食性が変わるのかを観察したいと思いました。(大島)



2回目の幸島生息地研修では、JMCで飼育しているヤクニホンザル群と幸島のニホンザル群との比較行いました。幸島群のイモ洗い行動や魚食、ムギ洗いなどについて話を聞くことができ、たくさんのことを学ぶことができました。(山田)



実際に幸島で自然の中にいるサルを見て、様々なことを感じました。サルを観察することで、サルを取り巻く環境に興味をひかれました。多くの植物、とても高い木の上で休んでいるサル、南国らしい植物の上で遊ぶサル、サルへ撒かれた麦をつつくトリ、サルとトリはお互いに無関心。野生の姿には実際に見なければわからない環境、状況があることを感じ、とても勉強になりました。この感じたことを伝える方法を考えていきます。(三井)



イモ洗いで有名な幸島には天候に阻まれ、なかなか足を踏み入れることはできなかった。だが、最終日に無事渡ることができ「ひげ洗い」を生で見て文化の伝承を肌で感じる事ができた。(奥村)



造園担当から初の研修ということで行かせていただきました。最終日以外は天候不良で幸島に渡ることができず不安でしたが無事わたることができ、野生のニホンザルを観察する事が出来ました。猿たちは日光浴をしながら、小麦を食したりグルーミングを行っているところを確認することができ、野生そのものの姿を感じる事が出来ました。(平倉)

2. 屋久島（京都大学野生動物研究センター屋久島観察ステーション）

第2班 平成27年11月5日～11月9日 新宅勇太、早川卓志、荒木謙太、中尾汐莉



ヤクスギランドへ向かう途中の道路沿い、雨の降る中出会った群れ。悪天候ながらも、寄り添ってグルーミングする姿を間近でしばらくの間見ることができた。(新宅)



第2回となる屋久島研修を実施しました。屋久島の西部林道で、野生のヤクニホンザルの採食や社会行動を観察しました。また、同時期に開催された屋久島学ソサエティ第3回大会にも合わせて参加しました。当園のモンキーバレイのヤクニホンザルの写真・映像を研究者や地元の皆様に紹介し、貴重な意見交換をすることができました。(早川)



屋久島の雄大な自然に囲まれた野性動物と植物を観察できたことは大変貴重な経験となりました。木々が生い茂り、苔の生えた岩や倒木がある環境の中で暮らすヤクニホンザルはとても神秘的に見えました。(荒木)



同じ屋久島に生息するヤクニホンザルでも、群れによる違いが印象的であった。人に警戒をする群れとそうでない群れ、畑の果物を食べて爆竹で追い払われる群れなど、様々な状況とそれぞれの場所で生きる野生の姿を観察することができた。(中尾)



少し寒い日だったので、日向ぼっこをしながら毛づくろいをするヤクザルたちの群れを見ながら、なんて穏やかな毎日を過ごしているのかとうらやましくなりました。ストレスのなさが、毛並みと艶でわかります。(今井)



屋久島研修では標高800メートル地点でヤクザルを観察することができました。西武林道で見たサルよりも毛が濃密で顔が埋もれてしまうほどでした。コケ蒸した岩や木が作り出す自然を背景に、サルたちが躍動する姿はとても幻想的でした。(安倍)

3. 京都大学野生動物研究センター熊本サントリアリ

第9班 平成27年4月14日～4月16日 加藤章、杉浦直樹



収穫多き時を過ごせました。特にボノボとの出会いは楽しいひと時でした。パズルにお付き合いしたり、木の枝を引っ張りっこしたり。疲れたのでしょうか、安心して寄り添うように眠りについた寝顔は大切な思い出です。(加藤)



私は熊本サントリアリの研修で多くのチンパンジーに出会いました。どの個体も個性があり、個体間のコミュニケーションを見ることが出来ました。また、人生初のボノボとの出会いは感動的でした。研修で学んでエンリッチメントをヒントにJMCでもサルたちへのエンリッチメント行っていきたいと強く感じました。(杉浦)

第10班 平成27年5月26日～5月28日 綿貫宏史朗、今井由香、古賀典子、江藤彩子



その日は晴れていて、ボノボがいる施設に午後行きました。すぐ下に海が光っていて、ガラス張りの、光があふれる横にも縦にも長い巨大な施設に4人のボノボが暮らしていました。自然には負けるのですが、環境の整った施設に圧倒されました。(古賀)



ボノボとの初めての出会いでした。チンパンジーと比べて小柄で声が高く、はしゃいでいる印象でした。愛らしい彼らをすぐに好きになりました。(今井)



霊長類を飼育する施設の職員として、過去に行われてきた事実を受け止め、飼育下の動物たちの今後を見つめなおす機会となった。また、野生動物の観察として天草で野生イルカの観察も行った。(江藤)



今回の研修ではオプションツアーとして、天草の海へ野生のイルカ（ミナミバンドウイルカ）の観察に行きました。友永学術部長が観察のフィールドにもされていますが、チンパンジー同様の高い社会性をもって暮らしているようすがよく分かりました。(綿貫)

第 11 班 平成 28 年 2 月 8 日～2 月 10 日 星野智紀、奥村太基、大島悠輝



今回の研修では、掃除や給餌の準備もすることができました。その中でも水曜日のエンリッチメント宅急便の準備は、チンパンジー達がどう開けて食べるのか自分達もワクワクしながら作っていました。(星野)



KS では様々なエンリッチメントを実施しておりとても勉強になりました。また、エンリッチメントを行う側もチンパンジー・ボノボたちもみんなが楽しんでいることが伝わってきました。今回の研修を糧に、私も担当の動物が毎日楽しめるように精進していきます。(大島)



放飼場の面積は限られているが、立体的に考えれば理論上、移動空間を無限に増やすことができる。飼育施設における空間の重要性を感じた。(奥村)



誕生日を迎えるアキナさんとコナンくんのために誕生日会の準備をしました。進行にあたりグループ内での力関係や個々の性格を熟知していることもポイントの一つです。また、見るからにテンションの上まっている彼らを見ていると自然と私たちもうれしくなりました。チンパンジーだけでなく飼育に携わる人にも良い刺激となることを実感しました。(奥村)



研修ではエンリッチメントは日々の作業に取り入れるべきものと教わり、今までの飼育の姿勢を改めて考えることができました。また初めてボノボを見ることができ、飼育員人生のなかでも忘れられない研修となりました。(菊田)



チンパンジー、ボノボと初めて間近で関わる機会でした。感情表現にも驚かされましたが、動物は多くの感情を持っていることがよくわかりました。サンクチュアリでのチンパンジー、ボノボのためへの仕事がとても勉強になりました。考え方ひとつで今すぐにでも動物を笑顔に出来ることはたくさんあると感じ、自分も担当の動物を笑顔にさせられるよう取り組みます。(三井)

熊本サンクチュアリでのエンリッチメントでは、チンパンジー達の誕生日だったので、マンゴーやミカン等の果実、桜の枝や野菜などの食材を使って雛壇を作り上げました。チンパンジーたちが喜んでマンゴーで出来た五人囃子や名前が掘ってあるミカン等を喜んで食べる姿が確認できました。(平倉)

4. マレーシア・ボルネオ島（ダナムバレー保護地域）

平成27年6月3日～6月9日

木村直人



私にとって、初めての海外生息地研修であった。霊長類では、オランウータン、レッドリーフモンキー、ギボン、カニクイザルを観察できた。そこで見た原生林での彼らの空間把握と樹間移動には圧倒的な迫力があり、動物園での動物福祉を考える貴重な機会となった。(木村)

5. タンザニア

第2班（ゴンベ国立公園、セルー動物保護区） 平成27年9月16日～9月25日

高野智、鏡味芳宏



ゴンベ国立公園では2日間にわたって野生チンパンジーを観察できました。シロアリ釣り、オスのディスプレイ、グルーミング、採食、ベッド作りなどさまざまな行動レパートリーを自分の目で見ることができ、感動しました。ゴンベ国立公園とセルー動物保護区を訪ね、チンパンジー以外にも6種の霊長類と多くの野生動物に出会い、有意義な研修となりました。（高野）



ゴンベ国立公園では2日間ともチンパンジー達に出会えた。アリ釣りや輪になって毛づくろいをする様子、オス同士のディスプレイを始め、実に多様な行動を観察できた。彼らが暮らす森で、彼らが通った道をついて歩く。大変貴重でかけがえのない体験ができた。宿泊施設の周辺では私が飼育を担当しているアヌビスヒヒが良く姿を見せた。10mを優に超える木々の上を移動し、湖の水を飲み、湖岸に寝そべる。図鑑には書かれていない彼らの暮らしを目の当たりにし、この場所ではしか知ることのできない多くの知識が得られた。（鏡味）

第3班（セレンゲティ国立公園、ゴンベ国立公園、カタヴィ国立公園） 平成28年2月15日～2月28日

寺尾由美子



タンザニア研修ではゴンベ、セレンゲティ、カタヴィの3つの国立公園を回らせていただきました。同じ動物種でも生息域によって様々な環境に適応していることがわかりました。そして潤った雨季の森で果物を食べながらのんびりと過ごすチンパンジーに出会うことができました。（寺尾）

6. オランダ（アーペンヒュール霊長類パークほか）

平成 27 年 9 月 29 日～ 10 月 6 日

綿貫宏史朗、田中ちぐさ



オランダでは、どの動物園でも、ほぼすべての動物種において、環境エンリッチメントが実施されていました。また、それをガイドに活かすなど（すべてオランダ語でまったく何を話しているか聞き取れませんでした）の教育的配慮も充分です。（綿貫）



霊長類に関する混合展示が多くみられたのが印象的です。この Beeksebergen サファリパークではニシゴリラとアビシニアコロブスが同居していましたが、ゴリラはよく混合展示される種類のように、他にもロエストモンキーやアレンモンキーと同居する例もありました。（綿貫）



保全に関する取り組みも、「さすがヨーロッパ」です。これはフィリピンの限られた島だけに生息する絶滅危惧種のシカ、アルフレッドサンバーです。ヨーロッパの複数の動物園で協力して保護増殖に取り組んでおり、今回もっとも見たかった種類の一つでした。（綿貫）



オランダの 6 カ所の動物園を訪問しました。多種の動物をみられる施設から、霊長類専門の施設、あるいは子供向けから生息地の再現にこだわった施設など、6 園それぞれに特色がありました。（田中）



豊かな植栽や広大な展示場が数多く見受けられ、動物たちが草原や木々で遊ぶ姿等を屋外・屋内に問わず観察することができました。また、オランダでは地域を問わない植生や混合展示がとても印象的でした。特に、霊長類に特化した Apeneul では飼育・展示方法など、参考になることが数多く得られました。（田中）



I-IV 保全活動

1. コンゴ民主共和国 Mbali 地域におけるボノボ保全活動

(1) 現地調査の実施

平成 27 年 8 月 25 日～9 月 15 日

伊谷原一、新宅勇太

(2) 三井物産環境基金活動助成

案件名：コンゴ民主共和国の稀少大型類人猿ボノボ

保全のための感染症モニタリングと普及啓発活動

申請代表者：木村直人

期間：平成 27 年 10 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日

金額：総額 13,998,000 円

現地調査：平成 28 年 3 月 15 日～3 月 29 日

新宅勇太



Mbali のボノボ（2015 年 8 月撮影）

2. スローロリス保全センターの立ち上げ

(1) キックオフミーティングの開催 平成 28 年 3 月 21 日

(2) 南米館旧夜行性飼育室の改装開始

I-V 普及教育活動

1. 企画展・特別展の開催

(1) 企画展「生息地研修パネル展」

会期：平成 26 年 10 月 11 日～平成 28 年 3 月 14 日

場所：ビジターセンター内

(2) 特別展「サル of “すごい” にせまる」

会期：平成 27 年 3 月 21 日～平成 27 年 8 月 31 日

場所：ビジターセンター

共催：京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院

後援：愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、犬山市、犬山市教育委員会



(3) 特別展「もうすぐ 60 周年！モンキーセンターのあゆみ」

会期：平成 27 年 9 月 19 日～平成 28 年 2 月 29 日

場所：ビジターセンター内 特別展示室

共催：京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院

後援：愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、犬山市、犬山市教育委員会

(4) 特集展示「申年縁起物展」

会期：平成 27 年 12 月 26 日～平成 28 年 2 月 29 日

場所：ビジターセンター内 企画展示室



(5) 特別展「霊長類の新常識！」

会期：平成 28 年 3 月 19 日～開催中

場所：ビジターセンター内 特別展示室

(6) 企画展「ジオアートワークス WILDLIFE ART」

（動物園大学 6 in 犬山と共同開催）

会期：平成 28 年 3 月 20 日～平成 28 年 4 月 19 日

場所：ビジターセンター内 企画展示室

2. 2015 年度京大モンキーキャンパスの開講

共催：京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院
後援：愛知県、岐阜県、愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、犬山市、犬山市教育委員会
受講費：15,000 円（全 6 回分、日本モンキーセンター友の会年会費 3,000 円を含む）
受講者数：103 名

プログラム：

- 第 1 回 平成 27 年 6 月 14 日
講師：関野吉晴（武蔵野美術大学造形学部）
「グレートジャーニー：人類の移動拡散と適応」
- 第 2 回 平成 27 年 7 月 12 日
講師：友永雅己（京都大学霊長類研究所）
「チンパンジーからみたこころの進化」
- 第 3 回 平成 27 年 8 月 9 日
講師：今井啓雄（京都大学霊長類研究所）
「受容体から想像するサルの味覚」
- 第 4 回 平成 27 年 9 月 13 日
講師：古市剛史（京都大学霊長類研究所）
「渡り歩くヒト科のメスたち：メスにとっての集団と地域社会」
- 第 5 回 平成 27 年 10 月 11 日
講師：小川秀司（中京大学国際教養学部）
「マカク属のサル：似ているようで、けっこう違うニホンザルの仲間たち」
- 第 6 回 平成 27 年 11 月 8 日
講師：依田憲（名古屋大学大学院環境学研究科）
「追跡できない動物は、いない：デジタル時代の動物行動学」



第 1 回（2015 年 6 月 14 日撮影）

3. 京大モンキーキャンパス研修旅行の開催

対象者：京大モンキーキャンパス受講者を対象
訪問先：京都大学野生動物研究センター熊本サンクチュアリ、熊本市動植物園
第 1 班：平成 28 年 3 月 25 日～3 月 26 日
参加者 7 名 綿貫宏史朗

4. 京大モンキー日曜サロンの開催

主催：公益財団法人日本モンキーセンター
京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院
京都大学霊長類研究所

- 第 12 回 平成 27 年 4 月 5 日
講師：有賀菜津美（京都大学霊長類研究所）
「ウガンダの子どもたちに聞いてみた、チンパンジーって知ってる？」
- 第 13 回 平成 27 年 4 月 19 日
講師：大石高生（京都大学霊長類研究所）
「早老症のサル、シワコの話」
- 第 14 回 平成 27 年 5 月 17 日
講師：坪川桂子（京都大学大学院理学研究科）
「アフリカの熱帯雨林でゴリラと暮らす」
- 第 15 回 平成 27 年 5 月 31 日
講師：若森参（京都大学霊長類研究所）
「サルのしっぽを比べてみよう！」
- 第 16 回 平成 27 年 6 月 28 日
講師：櫻庭陽子（京都大学霊長類研究所）
「障害をもつチンパンジーの幸せを考える」
- 第 17 回 平成 27 年 7 月 26 日
講師：張鵬（中国・国立中山大学）
「中国の猿まわしーその文化的背景と福祉」
- 第 18 回 平成 27 年 8 月 23 日
講師：ユリラ（京都大学大学院教育学研究科）
「同調する行動：チンパンジーを対象にしたタッピング実験の紹介」
- 第 19 回 平成 27 年 9 月 27 日
講師：松田一希（京都大学霊長類研究所）
「テングザル：ボルネオ島のジャングルにすむ不思議なサル」
- 第 20 回 平成 27 年 11 月 22 日
講師：渥美剛史（京都大学霊長類研究所）
「となりは何をする人ぞーアニメを見ることの進化と発達ー」
- 第 21 回 平成 28 年 3 月 13 日
講師：松本卓也（京都大学大学院理学研究科）
「人類進化の謎解きに出かけようーアフリカの森で、障害のあるチンパンジーの子育てと発達を追うー」
- 第 22 回 平成 28 年 3 月 27 日
講師：本郷峻（京都大学大学院理学研究科）
「マンドリルはいずこ：ど派手なサルのもう 1 つの顔」



第 22 回（2016 年 3 月 27 日撮影）

5. 講演会の開催

- (1) 日本モンキーセンター創設 59 周年記念講演会
「アマゾン熱帯雨林と新世界ザル」
講師：伊沢鉤生（宮城教育大学名誉教授）
日時：平成 27 年 10 月 17 日
場所：ビジターセンターホール



6. アニマルフォトコンテストの開催

- (1) 第 10 回モンキーセンターアニマルフォトコンテスト
優秀作品展の開催
期間：平成 26 年 11 月 3 日～平成 27 年 11 月 29 日
場所：ビジターセンター内
- (2) 第 11 回モンキーセンターアニマルフォトコンテストの開催
募集期間：平成 27 年 5 月 1 日～9 月 30 日
部門：一般部門、学生部門、科学写真部門、組み写真部門
応募点数：1,368 点（応募者数 496 名）
入選点数：40 点（特別賞 20 点、入選 20 点）
- 表彰式：平成 27 年 12 月 5 日
場所：ビジターセンターホール
参加者：受賞者およびその家族等、48 名
- (3) 第 11 回モンキーセンターアニマルフォトコンテスト
優秀作品展の開催
期間：平成 27 年 12 月 5 日～ 開催中
場所：ビジターセンター内

7. 写生大会の開催

- (1) 第 58 回中部ブロック動物園水族館協会写生コンクール参加
日本モンキーセンター写生大会 優秀作品展の開催
期間：平成 26 年 7 月 21 日～平成 27 年 7 月 24 日
場所：アフリカセンター内室内観覧通路

- (2) 第 60 回中部ブロック動物園水族館協会写生コンクール参加
日本モンキーセンター写生大会の開催
募集期間：平成 27 年 4 月 1 日～5 月 31 日
応募点数：239 点
入選点数：45 点（特別賞 14 点、特選 12 点、入選 20 点）

表彰式：平成 27 年 7 月 25 日
場所：ビジターセンターホール
参加者：受賞者およびその家族、およそ 95 名

- (3) 第 60 回中部ブロック動物園水族館協会写生コンクール参加
日本モンキーセンター写生大会 優秀作品展の開催
期間：平成 27 年 7 月 25 日～ 開催中
場所：アフリカセンター内室内観覧通路

8. ホームページの充実

Web サイトの更新件数：274 件
主な更新：飼育室リニューアル
トップページ写真、ニュース、飼育室、
獣医室等の定期的な更新

9. メールマガジン「新 JMC 通信」の発行

配信日：毎月 1 回、第 3 水曜日または木曜日
平成 27 年 3 月 31 日時点の登録数：4,878 件

10. フェイスブックを通じた情報発信

投稿数：102 件

11. YouTube 公式チャンネルからの配信

（動画・スライドショー）

2015 年度新規配信：25 件
協力：中村美穂（京都大学野生動物研究センター）

12. マスメディアへの情報提供

- (1) プレスリリース
「残暑を乗り切るために・サルにアイスフルーツを
プレゼントします！！」 平成 27 年 8 月 18 日配信
「動物慰霊祭と講演会「アマゾン熱帯雨林と新世界ザル」
の開催について」 平成 27 年 10 月 14 日配信
「大型類人猿の脱出を想定した対応訓練を実施します」
平成 27 年 11 月 26 日配信
「冬の風物詩「たき火にあたるサル」今年も 12 月 22 日
（冬至）より開催します」 平成 27 年 12 月 14 日配信
「申年のお正月を、世界最多種のサル類と祝おう！日本
モンキーセンターのお正月」 平成 27 年 12 月 24 日配信
「全国の動物園のうらばなしが聞ける！動物園大学 6
in 犬山 ず～だなも。」 平成 28 年 3 月 11 日配信
「リスザルの島と Wao ランド 人気の 2 施設が
リニューアル！」 平成 28 年 3 月 25 日配信

- (2) 新聞記事掲載 58 件

- (3) テレビ 44 件

- (4) ラジオ 6 件（うち 1 件は月 1 回の定期出演）

※確認できたもののみ

13. 学習利用

幼稚園・保育園・学校・社会教育団体等向けのレクチャー
や特別イベントの実施

(1) 団体入園者数 284 件・18,850 名

内訳：	幼稚園・保育園	68 件	8,559 名
	小学校	68 件	5,190 名
	中学校	10 件	630 名
	高等学校	23 件	1,304 名
	大学・専門学校	27 件	989 名
	特別支援・養護学校	4 件	55 名
	福祉・介護施設	25 件	537 名
	一般・その他	61 件	1,652 名

(2) 教育プログラム利用状況 総数 185 件・12,331 名

レクチャー：	161 件
紙芝居：	25 件
KIDSZOO 団体利用：	59 件
スポットガイド団体利用：	140 件
キュレーター等によるガイドツアー：	29 件
バックヤード見学：	16 件
その他、標本を活用した実習、行動観察、 ワークシート学習、特別撮影等	

14. 教員研修会の誘致

(1) 尾張教育研究会丹波支部理科研究部夏季研修会

日程：平成 27 年 8 月 7 日

参加者：28 名

内容：レクチャー、ワークシート学習、博学連携事例紹介

講師：高野智

(2) 愛知県総合教育センター 小・中学校 10 年経験者研修

日程：平成 27 年 8 月 20 日

参加者：38 名

内容：レクチャー、ワークシート学習、

園内ガイドツアー、博学連携事例紹介

講師：高野智・赤見理恵

(3) 春日井市理科研究会

日程：平成 27 年 8 月 21 日

参加者：16 名

内容：レクチャー、ワークシート学習、博学連携事例紹介

講師：高野智

15. 教育普及活動の充実につながる各種ツールの開発

(1) 学校団体向け利用の手引き（改訂）

改訂版を近隣小中高等学校 1,806 校に発送

平成 28 年 3 月 31 日

(2) ワークシートの開発

(3) オリジナルカンパジ（新作）

(4) 霊長類ガイドブックの活用

(5) 標本等を活用した教材開発

事前学習用貸出教材

「くらべてみよう サルとキミ」 10 セット完成

平成 28 年 3 月 31 日



等身大パネルなどからなる貸出教材

16. アウトリーチ活動

(1) 地元、近隣の学校などと連携した教育活動の実践における職員の講師派遣

① 金城学院大学

日程：平成 27 年 5 月 8 日

対象：現代子ども学科 1 年生 135 名

内容：人間科学基礎演習「行動観察実習の事前指導」

赤見理恵

② 犬山市立犬山北小学校

日程：平成 27 年 6 月 25 日

対象：6 年生 3 クラス 93 名

内容：理科授業「体のつくりとはたらき」の発展学習

高野智

③ 千葉県立千葉中学校

日程：平成 27 年 7 月 3 日

対象：全学年 240 名

内容：社会人講演会「自然と人をつなぐ ～動物園・博物館の役割」

新宅勇太

④ 犬山市立羽黒小学校

日程：平成 27 年 7 月 14 日

対象：6 年生 3 クラス 90 名

内容：理科授業「食性の異なるサルの消化管の違いとその特徴」

高野智

⑤ 犬山市立犬山西小学校

日程：平成 27 年 7 月 15 日

対象：6 年生 3 クラス 112 名

内容：理科授業「体のつくりとはたらき」の発展学習

高野智

⑥ 犬山市立城東小学校

日程：平成 27 年 9 月 2 日、9 月 4 日

対象：5 年生 5 クラス 150 名

内容：理科授業「人のたんじょう」の発展学習

赤見理恵

- ⑦ 犬山市立羽黒小学校
日程：平成 27 年 9 月 10 日
対象：5 年生 3 クラス 79 名
内容：理科授業「人のたんじょう」の発展学習
赤見理恵

- ⑧ 岐阜県立多治見西高等学校附属中学校
日程：平成 27 年 10 月 20 日
対象：2 年生 2 クラス 41 名
内容：理科授業「サルについて学ぶ意味」
「ヒトとチンパンジーの骨格標本からわかること」
高野智

- ⑨ 犬山市立犬山西小学校
日程：平成 27 年 10 月 21 日
対象：4 年生 3 クラス 103 名
内容：理科授業「ヒトとサルの骨格の違いとその特徴」
高野智

- ⑩ 犬山市立犬山北小学校
日程：平成 27 年 10 月 26 日
対象：2 年生 3 クラス 95 名
内容：国語授業「どうぶつ園のじゅうい」の発展学習
木村直人、赤見理恵

- ⑪ 犬山市立東部中学校
日程：平成 27 年 12 月 4 日
対象：2 年生 106 名
内容：所長講演「想像するちからーチンパンジーが
教えてくれた人間の心ー」
松沢哲郎、赤見理恵

- ⑫ 犬山市立犬山中学校
日程：平成 28 年 1 月 19 日
対象：1 年生約 220 名
内容：所長講演「想像するちからーチンパンジーが
教えてくれた人間の心ー」
松沢哲郎、赤見理恵

- ⑬ 犬山市立犬山東小学校
日程：平成 28 年 1 月 26 日
対象：1 年生 55 名
内容：国語授業「どうぶつのあかちゃん」の発展学習
赤見理恵

- ⑭ 犬山市立城東中学校
日程：平成 28 年 2 月 16 日
対象：3 年生約 200 名
内容：所長講演「想像するちからーチンパンジーが
教えてくれた人間の心ー」
松沢哲郎、赤見理恵

- ⑮ 東京農業大学
日程：平成 28 年 2 月 23 日、2 月 29 日
対象：学芸員養成課程受講の大学 3 年生 93 名
内容：博物館学講義「日本モンキーセンターの概要と
学芸員としての取り組み」
赤見理恵

- ⑯ 犬山市立南部中学校
日程：平成 28 年 3 月 15 日
対象：2 年生約 170 名
内容：所長講演「想像するちからーチンパンジーが
教えてくれた人間の心ー」
松沢哲郎、赤見理恵



南部中学校での所長講演

(2) キュレーターその他職員の一般会合等への講師派遣

- ① 大垣市環境フォーラムへのブース出展
日程：平成 27 年 6 月 6 日
場所：大垣市情報工房（岐阜県大垣市）
対象：一般市民
内容：講演「サルのお話とどうぶつクイズ」、
出張 KIDSZOO、パネル展「類人猿のいる風景」
赤見理恵、三宅菜穂美

- ② ユニー（株）「エコ博」へのブース出展
日程：平成 27 年 6 月 20 日
場所：リーフウォーク稲沢（愛知県稲沢市）
対象：一般市民
内容：講演「サルのお話とどうぶつクイズ」、
JMC 紹介パネル展、出張 KIDSZOO
赤見理恵、三宅菜穂美、廣澤麻里

- ③ ユニー（株）「エコ博」へのブース出展
日程：平成 27 年 7 月 4 日
場所：アクアウォーク大垣（岐阜県大垣市）
対象：一般市民
内容：講演「サルのお話とどうぶつクイズ」、
JMC 紹介パネル展、出張 KIDSZOO
赤見理恵、三宅菜穂美



- ④ サイエンストーク・蒲郡まつりスペシャル 2015
～SF 映画に乾杯
日程：平成 27 年 7 月 25 日
場所：蒲郡市生命の海科学館（愛知県蒲郡市）
対象：一般市民
内容：「サイエンストーク・蒲郡まつりスペシャル
2015」講師 高野智

- ⑤ 丸の内キッズジャンボリー 2015
日程：平成 27 年 8 月 11 日～8 月 14 日
場所：東京国際フォーラム（東京都千代田区）
対象：幼児、小学生、中学生および保護者
125,139 名（来場者総数）
内容：京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・
リーディング大学院と共同で「山の教室」出展
JMC 展示コーナーの設置、Wao キャップ作り、
ワークショップ「山の教室講座」
「歯と骨のヒミツを探そう！」（新宅）
「オリジナル！自分も入った霊長類図鑑を
つくろう！」（赤見）
松沢哲郎、赤見理恵、新宅勇太



ワークショップ「霊長類図鑑作り」

- ⑥ 平成 27 年度自然史学会連合講演会
日程：平成 27 年 11 月 22 日
場所：三重県総合博物館 MieMu（三重県津市）
対象：一般市民
内容：体験教室「骨パズル ～ヒトとチンパンジーの
骨格をくらべてみよう～」 高野智
- ⑦ いきもにあ ブース出展
日程：平成 27 年 12 月 12 日、12 月 13 日
場所：京都市勧業館みやこめっせ（京都府京都市）
対象：一般市民
内容：標本・資料・グッズの展示
新宅勇太、早川卓志

- (3) 地元、近隣の教育委員会や教員の集まりや研究会への参加
- ① 第 36 回数理の翼夏季セミナー 講師
日程：平成 27 年 8 月 15 日～8 月 19 日
場所：京都府京都市 早川卓志
- ② 半田市立幼稚園一斉研修講演会
日程：平成 27 年 11 月 20 日
対象：半田市の幼稚園職員
内容：講演「サルが教えてくれること」
赤見理恵

- ③ IBM ユーザー研究会
日程：平成 28 年 1 月 22 日
場所：大阪府大阪市
内容：講演「ヒトとは何か？ー類人猿ボノボにみる
ヒト社会の起源ー」 伊谷原一、赤見理恵

- (4) シンポジウム等の受け入れ
- ① 2015 年第二回動物園研究会「動物園という博物館の
あり方を考える」
日程：平成 27 年 9 月 12 日
講演「博物館としての動物園の機能」、
収蔵庫見学ツアー 高野智
- ② 一般社団法人日本相統学会第 3 回研究大会
日程：平成 27 年 11 月 12 日～11 月 13 日
開会挨拶 松沢哲郎
JMC タイム講演 高野智



- (5) シンポジウム等の共催
- ① 中部学院大学 公開講座
第 1 回：平成 26 年 7 月 30 日
「知の探検 さまざまなサル類の暮らしから人間を
考える」 松沢哲郎
第 2 回：平成 28 年 1 月 21 日
「森のころ 海のころ 草原のころ
ーチンパンジー、イルカ、ウマから見た世界ー」
友永雅己
- ② 日本アフリカ学会第 52 回学術大会 公開講演会
「アフリカの自然と人の共生をめざして」
日程：平成 27 年 5 月 24 日
会場：犬山国際観光センター フロイデ
- (6) 地元、近隣の学校訪問（誘致・広報活動）
犬山市を中心に、出前授業等の機会も利用して誘致の
呼びかけ
- (7) 社会貢献
- ① 日本人類学会 教育普及委員会委員 高野智
② あいちサイエンスフェスティバル 実行委員 高野智
③ 愛知県尾張北部地域生態系ネットワーク 幹事 高野智
④ 日本動物園水族館教育研究会 運営委員 赤見理恵
⑤ 愛知県高等学校キャリア教育推進事業地域推進会議
加藤章（～2015 年 10 月）
赤見理恵（2015 年 11 月～）
⑥ NPO 法人市民 ZOO ネットワーク 理事
綿貫宏史朗

- ⑦(公社)日本動物園水族館協会
総務委員会倫理福祉部員 木村直人
- ⑧(公社)日本動物園水族館協会 生物多様性委員会
フクロテナガザル種別計画管理者および
テナガザル類専門技術員 綿貫宏史朗
- ⑨(公社)日本動物園水族館協会 生物多様性委員会
クロシロエリマキキツネザル種別計画管理者および
クロキツネザル個体群管理者 鏡味芳宏
- ⑩(公社)日本動物園水族館協会 生物多様性委員会
チンパンジーおよびマンドリル専門技術員 奥村文彦

17. 他園館への博物館資料の貸出

(1) 国立科学博物館

目的：特別展「大アマゾン展」での展示
貸出資料：エンペラータマリン、クロホエザル、
マンクサキなど 剥製9点
期間：平成27年3月3日～平成27年6月19日

(2) 牛の博物館

目的：企画展「ウッキウキ！サル展」での展示
貸出資料：ワオキツネザルなど 写真資料21点
期間：平成27年11月28日～平成28年1月31日

(3) 多摩動物公園

目的：申年特別展「あなたもサルの仲間」での展示
貸出資料：ゴールデンライオンタマリンなど
写真資料12点
期間：平成27年12月3日～平成28年1月26日

(4) 神戸市立王子動物園

目的：干支展「くらべてみよう人とサル」での展示
貸出資料：写真資料 62点
期間：平成27年12月1日～平成28年5月31日

(5) 広島市安佐動物公園

目的：干支展「申・さる・サル～いろんなサルを見て
みよう～」での展示
貸出資料：写真資料 27点
期間：平成27年12月12日～平成28年1月11日

18. キュレーターによるレクチャー、ガイドツアーの実施

(1) 春季キュレーターズガイド

「しっぽの“すごい”を探しに行こう」
平成27年4月11日 新宅勇太
「新世界ザルの魅力」
平成27年4月4日、4月18日、5月2日、5月6日、
5月23日、6月27日 赤見理恵
「『日本でここだけ！』に会いに行こう」
平成27年4月12日、5月5日、6月20日 綿貫宏史朗
「サルの形と動きを調べよう」
平成27年4月26日、5月4日、5月10日 高野智
「テナガザルに親しもう」
平成27年4月29日、6月21日 綿貫宏史朗
「なぜその名前？ サルの学名の話」
平成27年5月3日、5月9日、5月30日、6月6日 新宅勇太
「見に行こう、サルたちの食卓」
平成27年5月16日、6月13日 早川卓志
「モンキーセンターの標本庫を探検してみよう」
平成27年5月24日、6月7日 高野智

(2) 夏季キュレーターズトーク

「骨から知る歯と食べ物の関係」
平成27年7月4日、8月13日、8月30日 高野智
「黄金のサル！？ ゴールデンライオンタマリンのおはなし」
平成27年7月5日、7月11日、8月22日、9月5日、
9月6日 赤見理恵
「サルって何の仲間？ 哺乳類の進化をたどる」
平成27年8月1日、8月15日、9月23日、9月26日 新宅勇太
「野生のサルが暮らす森で暮らす フィールド研究の
魅力を紹介します！」
平成27年8月2日、8月29日 早川卓志
「テナガザルよもやま話」
平成27年8月8日、8月14日、8月16日、9月19日、
9月20日 綿貫宏史朗
「好き嫌いの起源！？ サルの味覚の進化と遺伝子の関係」
平成27年9月21日、9月22日 早川卓志

(3) 秋季キュレーターズガイド・トーク

「骨から知るテナガザルのひみつ」
平成27年10月3日、10月11日、11月15日 高野智
「サルの赤ちゃんをさがそう！」
平成27年10月4日、10月31日、11月7日 赤見理恵
「カラフルなサル、地味なサル ～オナガザルの仲間の
多様性」
平成27年10月10日 新宅勇太
「コンゴ・マレボの森のボノボ」
平成27年10月18日、11月14日 新宅勇太
「『適応放散』とは何か？ ～新世界ザルから学ぶ
進化の不思議～」
平成27年10月25日、11月21日、11月23日 早川卓志
「テナガザルに親しもう」
平成27年11月3日、11月28日、11月29日 綿貫宏史朗

(4) 申年企画 キュレーターズトーク

「七福猿と三賢人リレートーク」
「ゴールデンマンガベイ ～謹賀新年！金色・銀色の
サル、珍しいサル～」
平成28年1月1日、2月11日 綿貫宏史朗
「ヨザル ～夜猿神社に祀られたサルのひみつ」
平成28年1月2日、2月14日 新宅勇太
「ワオキツネザル ～シマシマしっぽと不思議の島
マダガスカル～」
平成28年1月3日、2月7日 赤見理恵
「トクモンキー ～アジアに広がるマカクの仲間～」
平成28年1月9日、2月13日 新宅勇太
「ニシローランドゴリラ ～『お父さん』って何だろう？～」
平成28年1月10日、2月6日 高野智
「ハヌマンラングール ～ベジタリアンな戦士の素顔～」
平成28年1月11日 赤見理恵
「チンパンジー ～賢くて長生き！アフリカの進化の隣人～」
平成28年1月16日、2月21日 早川卓志

「ヤクニホンザル ～日本人の暮らしとともにある
ニホンザルの秘密～」

平成 28 年 1 月 17 日、2 月 20 日 早川卓志

「マントヒヒ ～草原を駆ける神聖なサル～」

平成 28 年 1 月 23 日、2 月 27 日 高野智

「フクロテナガザル ～受験シーズン到来！落ちない
サルの落ちないワケ～」

平成 28 年 1 月 24 日、2 月 28 日 綿貫宏史朗

(5) 平成 28 年度春季キュレーターズガイド
(平成 27 年度開催分)

「標本庫を探検してみよう」

平成 28 年 3 月 5 日、3 月 26 日 高野智

「テナガザルに親しもう」

平成 28 年 3 月 6 日、3 月 21 日 綿貫宏史朗

「アマゾンの新常識！？」

平成 28 年 3 月 19 日 赤見理恵

19. 動物園イベント

(1) 常時受け付けの体験イベント

① ペーパークラフト「Wao キャップ」

(2) 通年イベント

① エンリッチメント体験 (～平成 28 年 2 月)

土曜日に有料にて開催、フィーダーの作成と行動観察

② サルのおやつ作り体験 (～平成 27 年 12 月)

日曜・祝日に有料にて開催

③ 飼育員と一緒におやつを作ろう (平成 28 年 3 月～)

土曜・日曜・祝日に有料にて開催

④ スポットガイド 毎日数回開催

⑤ 飼育員と行動観察 不定期開催

⑥ 類人猿のディナータイム アフリカセンターにて
毎日夕方開催

(3) 日本モンキーセンター設立 60 周年記念イベント

① 「チャレンジ！Wao マスター ～ワオキツネザル
60 頭を覚えよう～」

ワオキツネザルの個体紹介イベント

開催日：平成 28 年 3 月～12 月の第 4 日曜日
14:00 ～

(4) 冬の風物詩 たき火にあたるサル

期間：平成 27 年 12 月 22 日～平成 28 年 2 月 28 日の
土・日・祝

時間：11:30 ～ 14:00

① ホカホカおイモタイム

日時：たき火にあたるサルの開催日 14:00 ～

② 日程限定！おイモの試食（来園者の方の試食会）

日程：平成 27 年 12 月 22 日、12 月 23 日、12 月 26 日、
12 月 27 日、12 月 31 日、

平成 28 年 1 月 1 日～1 月 11 日（13 日間）

時間：14:00 過ぎ（ホカホカおイモタイム終了後）



ホカホカおイモタイムの長蛇の列（2016 年 1 月 4 日撮影）

(5) 申年関連特別イベント・正月イベント

① 夜猿神社 七福猿と三賢人めぐり

ビジターセンター内に夜猿神社を設置

七福猿（ヨザル・ヤクニホンザル・マントヒヒ・

ゴールデンマンガベイ・ハヌマンラングール・

トクモンキー・ワオキツネザル）

三賢人（フクロテナガザル・ニシローランドゴリラ・

チンパンジー）を紹介

「キュレーターズトーク七福猿と三賢人リレートーク」
の実施



② 特集展示「申年縁起物展」

③ サルにお年玉 ～一頭一頭に小さな幸せ～
特製フィーダーなどを使ったお年玉

1 月 1 日 アフリカセンター

1 月 2 日 南米館屋内展示室

1 月 3 日 Wao ランド

1 月 4 日 リスザルの島

1 月 5 日 アフリカ館

1 月 6 日 マダガスカル館

1 月 7 日 モンキースクランブル

1 月 8 日 アジア館

1 月 9 日 Wao ランド mini

1 月 10 日 南米館屋外展示

1 月 11 日 ヒヒの城

④ さるみくじ

⑤ 縁起物「奇跡のミカン」の配布

日時：平成 28 年 1 月 1 日～1 月 3 日

場所：ビジターセンター前

10:00 より各日先着 50 個を配布

⑥ モンキーセンターからのお年玉♪

末尾「36」「8936」の年賀葉書持参者にプレゼント



1月3日 Wao ランドでのお年玉

(6) 特定日開催

- ① 公益財団法人化記念 無料開放日
平成 27 年 4 月 1 日
- ② チンパンジー「マモル」誕生日会
平成 27 年 7 月 25 日
- ③ シロテテナガザル「ジョージ」誕生日会
平成 27 年 8 月 8 日
- ④ フクロテナガザル「メロン」誕生日会
平成 27 年 9 月 5 日



平成 27 年 6 月に群れに戻ったメロン

- ⑤ ヤギのメエメエ（命名）式 平成 27 年 10 月 3 日
- ⑥ 動物慰霊祭 平成 27 年 10 月 17 日
- ⑦ 国際テナガザルの日 記念イベント
平成 27 年 10 月 24 日

トーク（担当：打越万喜子）
テナガザルものしり〇×クイズ
フクロテナガザル「スイカ」誕生日会



テナガザルものしり〇×クイズ

- ⑧ サルのおやつ作り体験（Wao ランド）

クリスマス Ver.	平成 27 年 12 月 23 日
バレンタイン Ver.	平成 28 年 2 月 14 日
ひな祭り Ver.	平成 28 年 2 月 28 日
ホワイトデー Ver.	平成 28 年 3 月 13 日
- ⑨ KIDSZOO 〇×クイズ
平成 28 年 3 月 19 日・3 月 20 日・
3 月 26 日・3 月 27 日

(7) 募集型イベント

- ① ワイルドサマーキャンプ（参加費 10,000 円）
日程：平成 27 年 7 月 28 日～29 日 1 泊 2 日
参加者：小学校 3 年生～中学校 2 年生 20 名
内容：レクチャー・ガイドツアー・飼育体験・
エンリッチメント体験・園内でのテント宿泊・
早朝動物観察など



- ② ユニー&モンキーセンター モンキーサマースクール
（株）ユニーとの共催
日程：平成 27 年 8 月 17 日～8 月 18 日 1 泊 2 日
参加者：小学校 4 年生～6 年生 24 名
内容：レクチャー・ガイドツアー・飼育体験・
エンリッチメント体験・石器作り体験など

1. 英文学術雑誌「PRIMATES」の発行

PRIMATES 編集委員会 (平成 28 年 3 月 31 日時点)

編集長

松沢哲郎 (京都大学、日本モンキーセンター)

編集委員

James R. Anderson (京都大学)

Fred Bercovitch (京都大学)

Warren Y. Brockelman (Mahidol University, タイ)

Susana Carvalho (University of Oxford, イギリス)

古市剛史 (京都大学)

半谷吾郎 (京都大学)

Alexander H. Harcourt (University of California, Davis, アメリカ)

Brian Hare (Duke University, アメリカ)

Eckhard W. Heymann (German Primate Center, ドイツ)

平田聡 (京都大学)

Michael A. Huffman (京都大学)

村山美穂 (京都大学)

石田貴文 (東京大学)

Patrícia Izar (University of São Paulo, ブラジル)

川本芳 (京都大学)

河村正二 (東京大学)

Phyllis Lee (University of Stirling, イギリス)

William C. McGrew (University of Cambridge, イギリス)

John C. Mitani (University of Michigan, アメリカ)

中川尚史 (京都大学)

中道正之 (大阪大学)

中村美知夫 (京都大学)

中村紳一朗 (滋賀医科大学)

中務真人 (京都大学)

清水慶子 (岡山理科大学)

David S. Sprague (農業・食品産業技術総合研究機構)

Karen B. Strier (University of Wisconsin, Madison, アメリカ)

高畑由起夫 (関西学院大学)

Peter S. Ungar (University of Arkansas, アメリカ)

Linda Vigilant

(Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology, ドイツ)

山極壽一 (京都大学、日本モンキーセンター)

アドバイザーボード

Kim A. Bard (University of Portsmouth, イギリス)

Josep Call (University of St. Andrews, イギリス)

Júlio César Bicca-Marques

(Pontifical Catholic University of Rio Grande do Sul, ブラジル)

Mukesh K. Chalise (Tribhuvan University, ネパール)

Frans B. M. de Waal (Emory University, アメリカ)

Dorothy M. Frigaszy (University of Georgia, アメリカ)

藤田志歩 (鹿児島大学)

Gottfried Hohmann

(Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology, ドイツ)

William D. Hopkins

(Yerkes Regional Primate Research Center, アメリカ)

五百部裕 (椋山女学園大学)

井上英治 (東邦大学)

Charles Janson (University of Montana, アメリカ)

Andreas Koenig (Stony Brook University, アメリカ)

Amanda Korstjens (Bournemouth University, イギリス)

杵掛展之 (総合研究大学院大学)

松田一希 (京都大学)

松本晶子 (琉球大学)

Katharine Milton (University of California, Berkeley, アメリカ)

室山泰之 (東洋大学)

John F. Oates (City University of New York, アメリカ)

荻原直道 (慶應義塾大学)

岡本宗裕 (京都大学)

Elisabetta Palagi (University of Pisa, イタリア)

Ryne A. Palombit (Rutgers University, アメリカ)

Mary S. M. Pavelka (University of Calgary, カナダ)

Andrew J. Plumptre (Wildlife Conservation Society, アメリカ)

Martha M. Robbins

(Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology, ドイツ)

Crickette Sanz (Washington University in St. Louis, アメリカ)

Gabriele Schino

(Institute of Cognitive Sciences and Technologies, CNR, イタリア)

Robert M. Seyfarth (University of Pennsylvania, アメリカ)

下岡ゆき子 (帝京科学大学)

Pascale Sicotte (University of Calgary, カナダ)

Joan Silk (Arizona State University, アメリカ)

David Glenn Smith (University of California, Davis, アメリカ)

Charles T. Snowdon (University of Wisconsin, Madison, アメリカ)

Joseph M. Soltis (Disney's Animal Kingdom, アメリカ)

Volker Sommer (University College London, イギリス)

Craig B. Stanford (University of Southern California, アメリカ)

杉浦秀紀 (京都大学)

高井正成 (京都大学)

竹ノ下佑二 (中部学院大学)

田中伊知郎 (四日市大学)

田中正之 (京都市動物園)

友永雅己 (京都大学)

辻大和 (京都大学)

David Watts (Yale University, アメリカ)

山越言 (京都大学)

山本真也 (神戸大学)

CONTENTS

Volume 56, Number 2, April 2015

Editorial

Tetsuro Matsuzawa: Seventy years after the end of World War II.
pp.105-106

News and Perspectives

William C. McGrew: Snakes as hazards: modelling risk by
chasing chimpanzees. pp.107-111

Gaku Ohashi: Pestle-pounding and nut-cracking by wild
chimpanzees at Kpala, Liberia. pp.113-117

Valeska Martins, Óscar M. Chaves, Mariana Beal Neves, Júlio César Bucca-Marques: Parturition and potential infanticide in free-ranging *Alouatta guariba clamitans*. pp.119-125

Charlie J. Gardner, Patrick Radolalaina, Mahandry Rajerison, Harry W. Greene: Cooperative rescue and predator fatality involving a group-living strepsirrhine, Coquerel's sifaka (*Propithecus coquereli*), and a Madagascar ground boa (*Acrantophis madagascariensis*). pp. 127-129.

Review Article

Ricardo Sampaio, Fábio Röhe, Gabriela Pinho, José de Sousa e Silva-Júnior, Izeni Pires Farias, Anthony B. Rylands: Re-description and assessment of the taxonomic status of *Saguinus fuscicollis cruzlimai* Hershkovitz, 1966 (Primates, Callitrichinae). pp.131-144

Original Article

Manuel Ruiz-García, Kelly Luengas-Villamil, Norberto Leguizamón, Benoit de Thoisy, Hugo Gálvez: Molecular phylogenetics and phylogeography of all the *Saimiri* taxa (Cebidae, Primates) inferred from *mt COI* and *COII* gene sequences. pp.145-161

David P. Watts: Mating behavior of adolescent male chimpanzees (*Pan troglodytes*) at Ngogo, Kibale National Park, Uganda. pp.163-172

Sara Alvarez, Anthony Di Fiore, Jane Champion, Mary Susan Pavelka, Johanna Pérez, Andrés Link: Male-directed infanticide in spider monkeys (*Ateles* spp.). pp.173-181

Noah Thomas Dunham: Ontogeny of positional behavior and support use among *Colobus angolensis palliatus* of the Diani Forest, Kenya. pp.183-192

Yena Kim, Laura Martinez, Jae Chun Choe, Dal-Ju Lee, Masaki Tomonaga: Orangutans (*Pongo* spp.) do not spontaneously share benefits with familiar conspecifics in a choice paradigm. pp.193-200

Marie Pelé, Odile Petit: Equal care for own versus adopted infant in tufted capuchins (*Sapajus* spp.). pp.201-206

Volume 56, Number 3, July 2015

Editorial

Tetsuro Matsuzawa: Sumatran orangutans and the World War II. pp.207-209

News and Perspectives

Michael Haslam, Tiago Falótico: Nasal probe and toothpick tool use by a wild female bearded capuchin (*Sapajus libidinosus*). pp.211-214

Review Article

Peng Zhang: Good gibbons and evil macaques: a historical review on cognitive features of non-human primates in Chinese traditional culture. pp.215-225

Original Article

Andrea Sanna, Arianna De Marco, Bernard Thierry, Roberto Cozzolino: Growth rates in a captive population of Tonkean macaques. pp.227-233

Shuji Takabayashi, Hideki Katoh: Noninvasive genotyping of common marmoset (*Callithrix jacchus*) by fingernail PCR. pp.235-240

Rachna B. Reddy, Evan L. MacLean, Aaron A. Sandel, Brian Hare: Social inhibitory control in five lemur species. pp.241-252

Gabriele Schino, Alessandro Alessandrini: Short-term costs and benefits of grooming in Japanese macaques. pp.253-257

Nicolaas H. Fourie, Clifford J. Jolly, Jane E. Phillips-Conroy, Janine L. Brown, Robin M. Bernstein: Variation of hair cortisol concentrations among wild populations of two baboon species (*Papio anubis*, *P. hamadryas*) and a population of their natural hybrids. pp.259-272

Jenna Kulp, Eckhard W. Heymann: Ranging, activity budget, and diet composition of red titi monkeys (*Callicebus cupreus*) in primary forest and forest edge. pp.273-278

Lucie Weiss, Pavel Brandl, Daniel Frynta: Fear reactions to snakes in naïve mouse lemurs and pig-tailed macaques. pp.279-284

Volume 56, Number 4, October 2015

Editorial

Tetsuro Matsuzawa: Sweet-potato washing revisited: 50th anniversary of the *Primates* article. pp.285-287

News and Perspectives

Jan A. R. A. M. van Hooff, Bas Lukkenaar: Captive chimpanzee takes down a drone: tool use toward a flying object. pp.289-292

Benjamin J. W. Buckley, Rosalie J. Dench, Helen C. Morrough-Bernard, Unyil Bustani, David J. Chivers: Meat-eating by a wild Bornean orang-utan (*Pongo pygmaeus*). pp.293-299

Chie Hashimoto, Mina Isaji, Kathelijne Koops, Takeshi Furuichi: First records of tool-set use for ant-dipping by Eastern chimpanzees (*Pan troglodytes schweinfurthii*) in the Kalinzu Forest Reserve, Uganda. pp.301-305

Charlie J. Gardner, Louise D. Jasper: Discovery of an island population of dwarf lemurs (Cheirogaleidae: *Cheirogaleus*) on Nosy Hara, far northern Madagascar. pp.307-310

Ben Garrod, Alice M. Roberts, Corinne Duhig, Debby Cox, William McGrew: Burial, excavation, and preparation of primate skeletal material for morphological study. pp.311-316

Review Article

James R. Anderson, Gordon G. Gallup Jr.: Mirror self-recognition: a review and critique of attempts to promote and engineer self-recognition in primates. pp.317-326

Original Article

Kazuo Wada, Baoguo Li, Kunio Watanabe: Affiliative interactions between one-male units in a band of Sichuan snub-nosed monkeys (*Rhinopithecus roxellana*) living in the Qinling Mountains, China. pp.327-337

Victor Narat, Flora Pennec, Bruno Simmen, Jean Christophe Bokika Ngawolo, Sabrina Krief: Bonobo habituation in a forest-savanna mosaic habitat: influence of ape species, habitat type, and sociocultural context. pp.339-349

Qingyong Ni, Meng Xie, Cyril C. Grueter, Xuelong Jiang, Huailiang Xu, Yongfang Yao, Mingwang Zhang, Yan Li, Jiandong Yang: Effects of food availability and climate on activity patterns of western black-crested gibbons in an isolated forest fragment in southern Yunnan, China. pp.351-363

Nicolaas H. Fourie, Trudy R. Turner, Janine L. Brown, James D. Pampush, Joseph G. Lorenz, Robin M. Bernstein: Variation in vervet (*Chlorocebus aethiops*) hair cortisol concentrations reflects ecological disturbance by humans. pp.365-373

Book Review

Crystal M. Riley: Anne E. Russon, Janette Wallis (eds): Primate tourism: a tool for conservation? pp.375-376

Announcement The *Primates* 2015 Most-Cited Paper Award is conferred upon Dr. Goro Hanya et al. pp.377

Acknowledgement pp.379-380

Books received pp.381

Volume 57, Number1, January 2016

Including Special Features on “Understanding the Variability of Gorilla Social Structure” and “Research and Conservation of Orangutans (*Pongo* sp.) in Malaysia”

Editorial

Tetsuro Matsuzawa: SAGA and GAIN for great apes. pp.1-2

News and Perspectives

Takuya Matsumoto, Noriko Itoh, Sana Inoue, Michio Nakamura: An observation of a severely disabled infant chimpanzee in the wild and her interactions with her mother. pp.3-7

Ariadna Rangel Negrin, Alejandro Coyohua Fuentes, Domingo Canales Espinosa, Pedro Américo Duarte Dias: The loss of behavioral diversity as a consequence of anthropogenic habitat disturbance: the social interactions of black howler monkeys. pp.9-15

Special Feature: Original Article

S. Rosenbaum, A. A. Maldonado-Chaparro, T. S. Stoinski: Group structure predicts variation in proximity relationships between male–female and male–infant pairs of mountain gorillas (*Gorilla beringei beringei*). pp.17-28

Thomas Breuer, Andrew M. Robbins, Martha M. Robbins: Sexual coercion and courtship by male western gorillas. pp.29-38

Lim Tze Tshen: Biogeographic distribution and metric dental variation of fossil and living orangutans (*Pongo* spp.). pp.39-50

Kodzue Kinoshita, Noko Kuze, Toshio Kobayashi, Etsuko Miyakawa, Hiromitsu Narita, Miho Inoue-Murayama, Gen'ichi Idani, Roumiana Tsenkova: Detection of urinary estrogen conjugates and creatinine using near infrared spectroscopy in Bornean orangutans (*Pongo Pygmaeus*). pp.51-59

Original Article

David P. Watts: Production of grooming-associated sounds by chimpanzees (*Pan troglodytes*) at Ngogo: variation, social learning, and possible functions. pp.61-72

Marine Levé, Cédric Sueur, Odile Petit, Tetsuro Matsuzawa, Satoshi Hirata: Social grooming network in captive chimpanzees: does the wild or captive origin of group members affect sociality? pp.73-82

Chuangbin Tang, Libin Huang, Zhonghao Huang, Ali Krzton, Changhu Lu, Qihai Zhou: Forest seasonality shapes diet of limestone-living rhesus macaques at Nonggang, China. pp.83-92

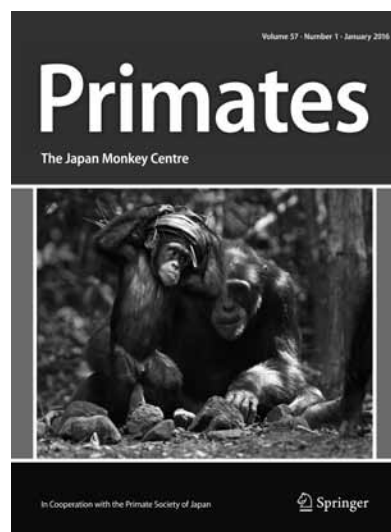
Janya Jadejaroen, Yoshi Kawamoto, Yuzuru Hamada, Suchinda Malaivijitnond: An SNP marker at the STAT6 locus can identify the hybrids between rhesus (*Macaca mulatta*) and long-tailed macaques (*M. fascicularis*) in Thailand: a rapid and simple screening method and its application. pp.93-102

Andrea Spence-Aizenberg, Anthony Di Fiore, Eduardo Fernandez-Duque: Social monogamy, male–female relationships, and biparental care in wild titi monkeys (*Callicebus discolor*). pp.103-112

Clara Corat, José Siqueira, Eduardo B. Ottoni: Sequential organization and optimization of the nut-cracking behavior of semi-free tufted capuchin monkeys (*Sapajus* sp.). pp.113-121.

Danilo Simonini Teixeira, Edmilson dos Santos, Silvana Gomes Leal, Andrea Karla de Jesus, Waldemir Paixão Vargas, Irapuan Dutra, Marília Barros: Fatal attack on black-tufted-ear marmosets (*Callithrix penicillata*) by a Boa constrictor: a simultaneous assault on two juvenile monkeys. pp.123-127

Zachary Yu-Ching Lin, Orie Hikabe, Sadafumi Suzuki, Takamasa Hirano, Haruhiko Siomi, Erika Sasaki, Masanori Imamura, Hideyuki Okano: Sphere-formation culture of testicular germ cells in the common marmoset, a small New World monkey. pp.129-135



2. 平成 26 年度財団法人日本モンキーセンター年報の発行

平成 28 年 1 月 25 日発行

3. 第 60 回プリマーテス研究会記録集の発行

平成 28 年 2 月 29 日発行

I-VII 飼育・展示および収集・保存

1. 各種環境エンリッチメントへの取り組み

2. 展示場の改修

(1) リスザルの島 アドベンチャーコース設置



(2) Wao ランド ワイルドゾーン設置



3. 解説看板の新設



モンキーバレイの新設看板

4. KIDSZOO でのふれあい展示等の開発

(1) 特別展示「夜の世界」

平成 27 年 7 月 19 日～9 月 27 日

(2) 新しいふれあい動物の導入



カイロキンイロトゲマウス



シバヤギ

5. 飼育動物一覧（平成 28 年 3 月 31 日現在）

(1) サル類

種名	学名	合計	オス	メス	不明
ワオキツネザル	<i>Lemur catta</i>	54	26	27	1
エリマキキツネザル	<i>Varecia variegata</i>	6	2	4	0
クロキツネザル	<i>Eulemur macaco</i>	2	0	2	0
ブラウンキツネザル	<i>Eulemur fulvus</i>	2	1	1	0
レッサースローロリス	<i>Nycticebus pygmaeus</i>	21	12	9	0
ポト	<i>Perodicticus potto</i>	5	4	1	0
ショウギャラゴ	<i>Galago senegalensis</i>	1	1	0	0
コモンマーモセット	<i>Callithrix jacchus</i>	10	6	2	2
クロミミマーモセット	<i>Callithrix penicillata</i>	16	10	3	3
シロガオマーモセット	<i>Callithrix geoffroyi</i>	2	0	2	0
サンタレムマーモセット	<i>Callithrix humeralifera</i>	1	1	0	0
ビグミーマーモセット	<i>Cebuella pygmaea</i>	5	3	2	0
アカタマリン	<i>Saguinus midas</i>	10	5	5	0
ムネアカタマリン	<i>Saguinus labiatus</i>	1	0	1	0
ワタボウシパンシェ	<i>Saguinus oedipus</i>	3	1	1	1
ヨザル	<i>Aotus trivirgatus</i>	14	5	8	1
ダスキーティティ	<i>Callicebus moloch</i>	1	1	0	0
シロガオサキ	<i>Pithecia pithecia</i>	1	1	0	0
クロヒゲサキ	<i>Chiropotes satanas</i>	3	1	2	0
ノドジロオマキザル	<i>Cebus capucinus</i>	6	2	3	1
シロガオオマキザル	<i>Cebus albifrons</i>	5	3	2	0
フサオマキザル	<i>Cebus apella</i>	25	10	12	3
ボリビアリスザル	<i>Saimiri boliviensis</i>	26	11	15	0
クロクモザル	<i>Ateles paniscus</i>	2	1	1	0
ケナガクモザル	<i>Ateles belzebuth</i>	8	5	3	0
ジェフロイクモザル	<i>Ateles geoffroyi</i>	8	3	5	0
コモンウーリーモンキー	<i>Lagothrix lagotrica</i>	5	3	2	0
バーバリーマカク	<i>Macaca sylvanus</i>	19	10	9	0
トクモンキー	<i>Macaca sinica</i>	31	11	19	1
ボンネットモンキー	<i>Macaca radiata</i>	14	6	8	0
シシオザル	<i>Macaca silenus</i>	8	3	5	0
ブタオザル	<i>Macaca nemestrina</i>	15	6	9	0
カニクイザル	<i>Macaca fascicularis</i>	100	39	61	0
アカゲザル	<i>Macaca mulatta</i>	5	1	4	0
タイワンザル	<i>Macaca cyclopis</i>	5	4	1	0
ベニガオザル	<i>Macaca arctoides</i>	1	1	0	0
チベットモンキー	<i>Macaca thibetana</i>	7	2	5	0
ニホンザル	<i>Macaca fuscata fuscata</i>	124	54	70	0
ヤクニホンザル	<i>Macaca fuscata yakui</i>	157	80	76	1
ゴールデンマンガベイ	<i>Cercocebus agilis chrysogaster</i>	1	1	0	0
アヌビスヒヒ	<i>Papio anubis</i>	85	32	52	1
ギニアヒヒ	<i>Papio papio</i>	1	1	0	0
マントヒヒ	<i>Papio hamadryas</i>	7	4	3	0
マンドリル	<i>Mandrillus sphinx</i>	14	7	7	0
クチヒゲグエノン	<i>Cercopithecus cephus</i>	1	0	1	0
サイクスモンキー	<i>Cercopithecus mitis albogularis</i>	1	0	1	0
ブラッサグエノン	<i>Cercopithecus neglectus</i>	2	1	1	0
シュミットグエノン	<i>Cercopithecus ascanius schmidtii</i>	5	0	5	0
バッチェコファグエノン	<i>Cercopithecus petaurista buettikoferi</i>	1	0	1	0
マルブラウクモンキー	<i>Chlorocebus pygerythrus cynosuros</i>	2	0	2	0
サバンナモンキー	<i>Chlorocebus aethiops</i>	9	4	5	0
タラポアン	<i>Miopithecus talapoin</i>	4	2	2	0
パタスモンキー	<i>Erythrocebus patas</i>	9	4	4	1
ハヌマンラングール	<i>Semnopithecus entellus</i>	2	1	1	0

種名	学名	合計	オス	メス	不明
シルバールトン	<i>Trachypithecus cristatus</i>	2	2	0	0
フランソワルトン	<i>Trachypithecus francoisi</i>	3	1	2	0
アビシニアコロブス	<i>Colobus guereza</i>	6	2	3	1
アンゴラコロブス	<i>Colobus angolensis</i>	1	1	0	0
シロテテナガザル	<i>Hylobates lar</i>	8	6	2	0
ボウシテナガザル	<i>Hylobates pileatus</i>	5	3	2	0
アジルテナガザル	<i>Hylobates agilis</i>	2	0	2	0
ミュラーテナガザル	<i>Hylobates muelleri</i>	1	0	1	0
フクロテナガザル	<i>Symphalangus syndactylus</i>	11	6	5	0
ニシゴリラ	<i>Gorilla gorilla gorilla</i>	1	1	0	0
チンパンジー	<i>Pan troglodytes</i>	8	5	3	0
計		920	418	485	17

(2) その他動物

種名	学名	合計	オス	メス	不明
ウサギ	<i>Oryctolagus cuniculus</i>	6	3	3	0
ジャンガリアンハムスター	<i>Phodopus sungorus</i>	1	0	1	0
デグー	<i>Octodon degus</i>	14	6	8	0
モルモット	<i>Cavia porcellus</i>	11	0	11	0
カイロキンイロトゲマウス	<i>Acomys cahirinus</i>	8	1	3	4
イヌ	<i>Canis familiaris</i>	2	0	2	0
シバヤギ	<i>Capra hircus</i>	2	1	1	0
ケヅメリクガメ	<i>Geochelone sulcata</i>	2	2	0	0
スペングラーマガメ	<i>Geoemyda spengleri</i>	2	1	1	9
パンケーキリクガメ	<i>Malacochersus tomieri</i>	1	0	1	0
ヒョウモンガメ	<i>Stigmochelys pardalis</i>	1	0	1	0
ホウシャガメ	<i>Astrochelys radiata</i>	2	0	2	0
ミツユビハコガメ	<i>Terrapene carolina triunguis</i>	1	0	1	0
グリーンイグアナ	<i>Iguana iguana</i>	1	1	0	0
ヒョウモントカゲモドキ	<i>Eublepharis macularius</i>	2	1	1	0
オオアオジタカゲ	<i>Tiliqua gigas</i>	1	0	1	0
アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	47	0	0	33
ブラックピラニア	<i>Serrasalmus rhombeus</i>	1	0	0	1
デンキウナギ	<i>Electrophorus electricus</i>	1	0	0	1
レッドコロソマ	<i>Piaractus brachipomum</i>	1	0	0	1
マダガスカルオオゴキブリ	<i>Gromphadorrhina portentosa</i>	67	3	2	62
ダイオウサソリ	<i>Pandinus imperator</i>	2	0	0	2
チリアンコモン	<i>Grammostola rosea</i>	1	0	0	1
総 計		163	19	39	105

6. プリーディングローン動物一覧（平成 28 年 3 月 31 日現在）

(1) 貸付動物

種名	個体数	出園日 / 誕生日	現飼育施設
ボルネオオランウータン <i>Pongo pygmaeus</i>	オス 1	1988 年 2 月 9 日 (横浜市野毛山動物園で出生)	千葉市動物公園
コモンウーリーモンキー <i>Lagothrix lagotricha</i>	オス 1	1998 年 1 月 7 日 (出園)	横浜市立よこはま動物園
コモンウーリーモンキー <i>Lagothrix lagotricha</i>	オス 1	1999 年 2 月 18 日 (横浜市立よこはま動物園で出生)	横浜市立よこはま動物園
シシオザル <i>Macaca silenus</i>	メス 1	2005 年 11 月 12 日 (出園)	東武動物公園
チベットモンキー <i>Macaca thibetana</i>	オス 1	2011 年 10 月 20 日 (出園)	横浜市立よこはま動物園
ブラッサグエノン <i>Cercopithecus neglectus</i>	メス 1	2003 年 5 月 4 日 (広島市安佐動物公園にて出生)	神戸市立王子動物園
ビグミーマーモセット <i>Cebuella pygmaea</i>	メス 1	2013 年 3 月 14 日 (出園)	静岡市立日本平動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 2 メス 3	2014 年 7 月 23 日 (出園)	旭川市旭山動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 7 メス 4	2014 年 10 月 21 日 (出園)	神戸どうぶつ王国
ブラッサグエノン <i>Cercopithecus neglectus</i>	メス 1	2014 年 10 月 23 日 (神戸市立王子動物園で出生)	神戸市立王子動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 2	2014 年 11 月 16 日 (出園)	熊本市動植物園
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	オス 1	2014 年 11 月 27 日 (出園)	鹿児島市平川動物公園
ボリビアリスザル <i>Saimiri boliviensis</i>	メス 1	2014 年 11 月 27 日 (出園)	鹿児島市平川動物公園
フサオマキザル <i>Cebus apella</i>	メス 3	2014 年 11 月 27 日 (出園)	鹿児島市平川動物公園
アビシニアコロブス <i>Colobus guereza</i>	メス 1	2014 年 11 月 27 日 (出園)	鹿児島市平川動物公園
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	メス 1	2015 年 6 月 23 日 (出園)	おびひろ動物園
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	オス 1	2015 年 6 月 23 日 (出園)	札幌市円山動物園
コモンマーモセット <i>Callithrix jacchus</i>	オス 1	2015 年 10 月 13 日 (出園)	浜松市動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 10	2015 年 10 月 19 日 (出園)	NIFREL
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	メス 1	2015 年 11 月 24 日 (出園)	浜松市動物園
シロガオマーモセット <i>Callithrix geoffroyi</i>	メス 1	2016 年 3 月 3 日 (出園)	静岡市立日本平動物園
アカテタマリン <i>Saguinus midas</i>	オス 1	2016 年 3 月 29 日 (出園)	市川市動物園
ビグミーマーモセット <i>Cebuella pygmaea</i>	メス 1	2016 年 3 月 31 日 (出園)	千葉市動物公園

(2) 借受動物

種名	個体数	来園日	来園元
ボウシテナガザル <i>Hylobates pileatus</i>	オス 1	1994 年 5 月 19 日	横浜市立野毛山動物園 (帰属は横浜市立よこはま動物園)
ポト <i>Perodicticus potto</i>	メス 1	2009 年 2 月 10 日	那須ワールドモンキーパーク
クロクモザル <i>Ateles paniscus</i>	メス 1	2010 年 12 月 16 日	愛媛県立とべ動物園
フランソワルトン <i>Trachypithecus francoisi</i>	オス 1	2010 年 10 月 30 日	到津の森公園 (帰属は西山動物園)
クロヒゲサキ <i>Chiropotes satanus</i>	メス 1	2013 年 3 月 14 日	名古屋市東山動物園
チンパンジー <i>Pan troglodytes</i>	メス 1	2013 年 6 月 6 日	豊橋市総合動植物公園

7. 動物の異動

(1) 出園

① サル類

ブリーディングローン 6 種 17 頭

内訳：おびひろ動物園

札幌市円山動物園

浜松市動物園

NIFREL

静岡市立日本平動物園

市川市動植物園

千葉市動物公園

交換 2 種 11 頭

内訳：伊豆シャボテン公園

名古屋市東山動物園

無償譲渡 3 種 13 頭

内訳：静岡市立日本平動物園

(所有権の移動は平成 26 年 12 月 1 日付)

宇部市ときわ動物園

千葉市動物公園

飼育寄託管理 保管換え 1 種 3 頭

内訳：大阪市天王寺動物園

名古屋市東山動物園

静岡市立日本平動物園

マンドリル *Mandrillus sphinx*

1 頭

マンドリル *Mandrillus sphinx*

1 頭

コモンマーモセット *Callithrix jacchus*

1 頭

マンドリル *Mandrillus sphinx*

1 頭

ワオキツネザル *Lemur catta*

10 頭

シロガオマーモセット *Callithrix geoffroyi*

1 頭

アカテタマリン *Saguinus midas*

1 頭

ピグミーマーモセット *Cebuella pygmaea*

1 頭

ワオキツネザル *Lemur catta*

10 頭

レッサースローロリス *Nycticebus pygmaeus*

1 頭

ニホンザル *Macaca fuscata fuscata*

2 頭

ワオキツネザル *Lemur catta*

10 頭

シロガオマーモセット *Callithrix geoffroyi*

1 頭

レッサースローロリス *Nycticebus pygmaeus*

1 頭

レッサースローロリス *Nycticebus pygmaeus*

1 頭

レッサースローロリス *Nycticebus pygmaeus*

1 頭

② その他動物

交換 1 種 1 頭

内訳：静岡市立日本平動物園

飼育寄託管理 保管換え 1 種 1 頭

内訳：世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ

フタユビナマケモノ *Choloepus didactylus*

1 頭

オオアタマガメ *Platysternon megacephalum*

1 頭

(2) 来園

① サル類

交換 1 種 1 頭

内訳：名古屋市東山動物園

無償譲渡 2 種 2 頭

内訳：宇部市ときわ動物園

千葉市動物公園

ブラッサグエノン *Cercopithecus negelectus*

1 頭

ハヌマンラングール *Semnopithecus entellus*

1 頭

ショウギャラゴ *Galago senegalensis*

1 頭

② その他動物

交換 1 種 2 頭

内訳：名古屋市東山動物園

無償譲渡 1 種 5 頭

内訳：個人

シバヤギ *Capra hircus*

2 頭

カイロキンイロトゲマウス *Acomys cahirinus*

5 頭

(3) 出産

種名	学名	出産	現存	死亡	繁殖区分
ワオキツネザル	<i>Lemur catta</i>	5	3	2	自然 3、人工 1
クロミマーモセット	<i>Callithrix penicillata</i>	3	3	0	自然
アカテタマリン	<i>Saguinus midas</i>	2	0	2	自然
ワタボウシパンシェ	<i>Saguinus oedipus</i>	3	1	2	自然 1、人工 2
フサオマキザル	<i>Cebus apella</i>	5	4	1	自然
ノドジロオマキザル	<i>Cebus capcinus</i>	2	1	1	自然
ボリビアリスザル	<i>Saimiri boliviensis</i>	2	1	1	自然
ジェフロイクモザル	<i>Ateles geoffroyi</i>	1	0	1	人工
バーバリーマカク	<i>Macaca sylvanus</i>	3	2	1	自然
トクモンキー	<i>Macaca sinica</i>	2	1	1	自然
ボンネットモンキー	<i>Macaca radiata</i>	3	3	0	自然
ヤクニホンザル	<i>Macaca fuscata yakui</i>	20	13	7	自然
アヌビスヒヒ	<i>Papio anubis</i>	15	7	8	自然
マンドリル	<i>Mandrillus sphinx</i>	4	2	2	自然
パタスモンキー	<i>Erythrocebus patas</i>	1	1	0	自然
アビシニアコロブス	<i>Colobus guereza</i>	2	2	0	自然
ボウシテナガザル	<i>Hylobates pileatus</i>	1	0	1	自然
計 17 種		74	44	30	

(4) 動物の死亡原因（サル類・その他動物の総計）

区分	飼育動物数		死亡動物数									飼育動物に 対する%
	年度末飼育頭数	年間死亡数	呼吸器系	消化器系	泌尿生殖器系	外傷	寄生虫症	感染症	神経系	その他	計	
哺乳類	964	73	15	5	2	12	0	0	1	38	73	7.0
鳥類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
爬虫類	13	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	7.1
両生類												
	977	74	15	5	3	12	0	0	1	38	74	7.0

*飼育動物に対する%＝年間死亡数÷（年度末飼育頭数＋年間死亡数）×100

8. 長年飼育動物（平成 28 年 3 月 31 日現在）

種 名	性別	年齢	飼育年数	摘要
ケナガクモザル <i>Ateles belzebuth</i>	メス		41 年 9 ヶ月	1974/6/27 入園
カニクイザル <i>Macaca fascicularis</i>	メス	34	34 年 11 ヶ月	1981/4/21 生
ボウシテナガザル <i>Hylobates pileatus</i>	オス		46 年	1969 年推定 2 歳で日本平へ入園 1994/5/19 モンキーセンターへ移入

9. 獣医療

診療内容	件数	診療内容	件数
入院	242	麻酔	547
検査入院	53	外科処置	290
		歯科処置	74
検便	288	避妊	83
尿検査	18	マイクロチップ挿入	47
血液検査	100		
エコー検査	49		
X 線撮像検査	22		

10. 動物の飼料

(1) 飼料の給餌量（園全体）

品 目	週間給餌量	品 目	週間給餌量
外葉	133kg	リンゴ	720kg
キャベツ	21 玉	バナナ	174kg
白菜	14 束	ミカン	74kg
人参	37kg	キウイ	126 個
トマト	22kg	パン	70 斤
チンゲンサイ	7 袋	卵	364 個
生サツマイモ	784kg	コオロギ	500 匹
蒸サツマイモ	207kg	固形飼料	220kg

この他に、小麦などを適宜給餌。

(2) 飼料の年間寄附受領量

	品目数	重量 (kg)
2015 年 4 月	5	—
5 月	4	—
6 月	5	492.5
7 月	12	506.0
8 月	6	557.1
9 月	5	1647.5
10 月	7	2628.0
11 月	6	3165.5
12 月	17	654.0
2016 年 1 月	6	577.5
2 月	4	511.5
3 月	1	464.5
年間計	28	11204.1

11. 博物館資料

(1) 骨格・液浸・剥製・毛皮標本

学名	和名	骨格	臓器 液浸	脳 液浸	全身 液浸	剥製	毛皮・ 仮剥製
Cheirogaleidae	コビトキツネザル科	4	7	7	1	4	0
<i>Microcebus murinus</i>	チビネズミキツネザル	4	7	7	1	4	0
Lemuridae	キツネザル科	60	59	48	67	9	5
<i>Eulemur fulvus</i>	ブラウンキツネザル	0	0	0	2	0	0
<i>Eulemur macaco</i>	クロキツネザル	6	8	6	8	0	0
<i>Eulemur mongoz</i>	マンガースキツネザル	6	7	4	0	3	2
<i>Lemur catta</i>	ワオキツネザル	31	27	21	30	4	3
<i>Varecia variegata</i>	エリマキキツネザル	16	17	17	27	2	0
Lemuridae sp.		1	0	0	0	0	0
Galagidae	ギャラゴ科	32	40	24	23	7	4
<i>Galago senegalensis</i>	ショウギャラゴ	26	28	20	17	4	3
<i>Galago demidoff</i>	コビトギャラゴ	0	2	0	0	0	0
<i>Otolemur crassicaudatus</i>	オオギャラゴ	5	9	4	6	3	1
Galagidae sp.		1	1	0	0	0	0
Lorisidae	ロリス科	65	76	54	35	9	4
<i>Loris tardigradus</i>	スレンダーロリス	7	9	6	1	3	0
<i>Nycticebus bengalensis</i>	ベンガルスローロリス	1	3	3	0	0	0
<i>Nycticebus coucang</i>	スローロリス	41	32	13	4	3	3
<i>Nycticebus pygmaeus</i>	レッサースローロリス	10	23	24	28	0	0
<i>Perodicticus potto</i>	ポト	5	9	8	2	3	1
Lorisidae sp.		1	0	0	0	0	0
Tarsiidae	メガネザル科	2	5	5	2	3	4
<i>Tarsius syrichta</i>	フィリピンメガネザル	2	5	5	2	3	4
Cebidae	オマキザル科	852	811	668	478	58	44
<i>Callimico goeldii</i>	ゲルジモンキー	15	18	13	13	2	3
<i>Callithrix argentata</i>	シルバーマーモセット	25	27	19	4	3	2
<i>Callithrix geoffroyi</i>	シロガオマーモセット	29	37	33	11	3	0
<i>Callithrix humeralifera</i>	サンタレムマーモセット	9	11	11	17	0	1
<i>Callithrix jacchus</i>	コモンマーモセット	137	114	89	65	2	7
<i>Callithrix penicillata</i>	クロミミマーモセット	35	43	42	35	2	1
<i>Calithrix</i> sp.		5	0	0	0	0	0
<i>Cebuella pygmaea</i>	ピグミーマーモセット	81	85	78	78	7	6
<i>Leontopithecus rosalia</i>	ゴールデンライオンタマリン	17	16	9	6	7	3
<i>Saguinus bicolor</i>	フタイロタマリン	2	2	2	0	1	0
<i>Saguinus fuscicollis</i>	サドルバックタマリン	7	5	1	3	1	0
<i>Saguinus geoffroyi</i>	ジェフロイタマリン	11	11	10	0	1	0
<i>Saguinus imperator</i>	エンペラータマリン	5	5	5	5	2	0
<i>Saguinus labiatus</i>	ムネアカタマリン	35	36	31	18	3	1
<i>Saguinus leucopus</i>	シロアシタマリン	8	9	6	0	3	0
<i>Saguinus midas</i>	アカテタマリン	13	15	15	5	2	0
<i>Saguinus mystax</i>	クチヒゲタマリン	30	33	31	23	2	2
<i>Saguinus nigricollis</i>	クロクビタマリン	62	53	47	22	1	0
<i>Saguinus oedipus</i>	ワタボウシパンシェ	101	93	80	50	2	4
<i>Saguinus weddelli</i>	ウェッデルタマリン	11	9	9	9	2	2
<i>Saguinus</i> sp.		8	0	0	0	0	0
<i>Cebus albifrons</i>	シロガオオマキザル	8	8	9	8	1	1
<i>Cebus apella</i>	フサオマキザル	17	16	9	19	2	0
<i>Cebus capucinus</i>	ノドジロオマキザル	10	11	15	7	1	1
<i>Cubus nigrivittatus</i>	ナキガオオマキザル	1	2	1	5	0	0
<i>Cebus</i> sp.		4	0	0	0	0	0

学名	和名	骨格	臓器 液浸	脳 液浸	全身 液浸	剥製	毛皮・ 仮剥製
<i>Saimiri boliviensis</i>	ボリビアリスザル	3	4	4	8	0	1
<i>Saimiri sciureus</i>	コモンリスザル	88	77	59	26	3	2
<i>Aotus trivirgatus</i>	ヨザル	72	71	40	41	5	7
<i>Cebidae</i> sp.		3	0	0	0	0	0
Atelidae	クモザル科	87	87	58	43	18	11
<i>Alouatta caraya</i>	クロホエザル	11	12	12	1	4	0
<i>Alouatta fusca</i>	カッシュクホエザル	1	1	1	0	2	0
<i>Alouatta seniculus</i>	アカホエザル	5	2	2	1	0	0
<i>Alouatta</i> sp.		6	1	1	0	0	0
<i>Ateles belzebuth</i>	ケナガクモザル	3	6	3	2	2	0
<i>Ateles geoffroyi</i>	ジェフロイクモザル	20	30	19	27	4	4
<i>Ateles paniscus</i>	クロクモザル	12	17	8	0	3	1
<i>Ateles</i> sp.		14	0	0	0	0	0
<i>Lagothrix lagotricha</i>	コモンウーリーモンキー	13	17	10	12	3	6
<i>Lagothrix cana</i>	ハイイロウーリーモンキー	1	1	2	0	0	0
<i>Lagothrix</i> sp.		1	0	0	0	0	0
Pitheciidae	サキ科	36	34	32	16	15	0
<i>Callicebus cupreus</i>	レッドティティ	2	1	2	0	2	0
<i>Callicebus donacophilus</i>	ドナコフィルスティティ	4	4	3	0	2	0
<i>Callicebus moloch</i>	ダスキーティティ	13	13	14	8	2	0
<i>Callicebus torquatus</i>	エリマキティティ	1	1	0	0	0	0
<i>Callicebus</i> sp.		2	1	1	0	1	0
<i>Cacajao calvus rubicundus</i>	アカウアカリ	3	2	1	0	2	0
<i>Chiropotes satanas</i>	ヒゲサキ	2	0	0	0	0	0
<i>Pithecia monachus</i>	マンクサキ	5	6	5	0	4	0
<i>Pithecia pithecia</i>	シロガオサキ	4	6	6	8	2	0
Cercopithecidae	オナガザル科	2773	1895	1400	755	92	140
<i>Macaca arctoides</i>	ベニガオザル	10	12	7	5	0	0
<i>Macaca assamensis</i>	アッサムモンキー	5	6	4	1	0	0
<i>Macaca cyclopis</i>	タイワンザル	63	62	50	26	2	2
<i>Macaca fascicularis</i>	カニクイザル	653	284	174	123	1	70
<i>Macaca fuscata fuscata</i>	ニホンザル	683	504	379	186	11	18
<i>Macaca fuscata yakui</i>	ヤクニホンザル	392	290	197	106	3	2
<i>Macaca fuscata</i>	(ニホンザル)	10	1	1	0	0	0
<i>Macaca maura</i>	ムーアモンキー	9	11	5	1	1	0
<i>Macaca mulatta</i>	アカゲザル	143	117	108	17	0	0
<i>Macaca nemestrina</i>	ブタオザル	33	32	29	22	1	0
<i>Macaca nigra</i>	クロザル	9	7	7	0	0	0
<i>Macaca ochreata brunescens</i>	ブトンモンキー	2	0	0	0	0	0
<i>Macaca radiata</i>	ボンネットモンキー	60	55	37	37	2	2
<i>Macaca silenus</i>	シシオザル	12	14	14	8	2	0
<i>Macaca sinica</i>	トクモンキー	8	10	8	11	0	1
<i>Macaca sylvanus</i>	バーバリーマカク	13	16	13	8	2	2
<i>Macaca thibetana</i>	チベットモンキー	3	3	3	1	0	0
<i>Macaca tonkeana</i>	トンケアンモンキー	2	0	0	0	0	0
<i>Macaca hybrid</i>		2	1	0	0	3	0
<i>Macaca</i> sp.		94	0	0	0	0	0
<i>Cercocebus atys</i>	スーティマンガベイ	5	5	3	2	1	1
<i>Cercocebus atys lunulatus</i>	シロカンムリマンガベイ	7	9	8	5	2	1
<i>Cercocebus agilis</i>	アジルマンガベイ	2	1	2	0	0	0
<i>Cercocebus agilis chrysogaster</i>	ゴールデンマンガベイ	2	4	4	1	0	0
<i>Cercocebus torquatus torquatus</i>	シロエリマンガベイ	4	5	2	1	1	0
<i>Cercocebus hybrid</i>		2	1	2	0	0	0
<i>Cercocebus</i> sp.		3	0	0	0	0	0

学名	和名	骨格	臓器 液浸	脳 液浸	全身 液浸	剥製	毛皮・ 仮剥製
<i>Lophocebus albigena</i>	ホオジロマンガベイ	2	2	1	0	2	0
<i>Mandrillus leucophaeus</i>	ドリル	12	12	3	5	3	1
<i>Mandrillus sphinx</i>	マンドリル	15	11	9	14	1	0
<i>Papio anubis</i>	アヌビスヒヒ	54	41	32	49	1	1
<i>Papio cynocephalus</i>	キイロヒヒ	17	15	6	0	0	0
<i>Papio hamadryas</i>	マントヒヒ	5	4	5	16	0	1
<i>Papio papio</i>	ギニアヒヒ	6	6	6	0	0	0
<i>Papio</i> sp.		14	0	0	0	0	1
<i>Theropithecus gelada</i>	ゲラダヒヒ	5	5	2	2	1	0
<i>Allenopithecus nigroviridis</i>	アレンズモンキー	1	1	1	1	1	0
<i>Cercopithecus albogularis</i>	サイクスモンキー	7	9	8	1	2	1
<i>Cercopithecus ascanius</i>	アカオザル	10	9	7	0	0	0
<i>Cercopithecus ascanius schmidtii</i>	シュミットグエノン	4	3	3	0	1	0
<i>Cercopithecus cephus</i>	クチヒゲグエノン	4	5	3	0	1	0
<i>Cercopithecus diana</i>	ダイアナモンキー	2	3	2	0	1	0
<i>Cercopithecus doggetti</i>	シルバーモンキー	2	1	0	0	1	0
<i>Cercopithecus hamlyni</i>	フクロウグエノン	1	3	2	0	2	1
<i>Cercopithecus lhoesti</i>	ロエストグエノン	3	5	5	1	1	0
<i>Cercopithecus mitis</i>	カンムリグエノン	2	2	1	0	0	1
<i>Cercopithecus mona</i>	モナモンキー	12	13	9	10	1	1
<i>Cercopithecus neglectus</i>	ブラッサグエノン	12	15	12	3	1	2
<i>Cercopithecus petaurista buettikoferi</i>	バッティコファークエノン	10	11	7	3	1	2
<i>Cercopithecus</i> sp.		3	1	1	0	0	1
<i>Chlorocebus aethiops</i>	サバンナモンキー	16	10	7	5	4	0
<i>Chlorocebus pygerythrus cynosuros</i>	マルブラウクモンキー	0	1	1	0	0	0
<i>Miopithecus talapoin</i>	タラポワン	13	14	12	2	4	0
<i>Erythrocebus patas</i>	パタスモンキー	124	80	66	21	2	5
<i>Cercopithecinae</i> sp.		21	0	0	0	0	0
<i>Colobus angolensis</i>	アンゴラコロブス	14	23	22	5	3	0
<i>Colobus guereza</i>	アビシニアコロブス	9	19	18	3	2	4
<i>Colobus polykomos</i>	キングコロブス	6	1	0	0	0	1
<i>Ptilocolobus badius</i>	アカコロブス	3	3	0	0	3	1
<i>Presbytis melalophos</i>	クロカンムリリーフモンキー	0	1	1	0	0	0
<i>Semnopithecus entellus</i>	ハヌマンラングール	48	51	36	17	4	11
<i>Trachypithecus cristatus</i>	シルバールトン	23	29	29	27	2	1
<i>Trachypithecus francoisi</i>	フランソワルトン	10	7	7	5	3	1
<i>Trachypithecus obscurus</i>	ダスキールトン	11	10	7	0	1	1
<i>Trachypithecus pileatus</i>	ボウシラングール	6	7	4	2	3	0
<i>Trachypithecus vetulus</i>	カオムラサキラングール	3	3	2	0	1	1
<i>Trachypithecus vetulus vetulus</i>	ニシカオムラサキラングール	1	1	0	0	1	1
<i>Presbytis</i> sp.		4	0	0	0	0	0
<i>Nasalis larvatus</i>	テングザル	6	7	6	2	5	1
<i>Pygathrix nemaeus</i>	ドゥ克蘭グール	1	0	0	0	1	0
<i>Colobinae</i> sp.		1	1	0	0	0	0
<i>Cercopithecidae</i> sp.		19	0	0	0	0	0
Hylobatidae	テナガザル科	81	49	38	9	12	17
<i>Hylobates agilis</i>	アジルテナガザル	9	8	6	2	2	0
<i>Hylobates klossii</i>	クロステナガザル	2	2	0	0	0	0
<i>Hylobates lar</i>	シロテナガザル	41	17	14	1	4	2
<i>Hylobates moloch</i>	ワウワウテナガザル	3	4	3	2	1	0
<i>Hylobates pileatus</i>	ボウシテナガザル	4	1	0	0	1	2
<i>Hylobates (moloch + lar)</i>		1	1	1	0	0	0
<i>Hylobates</i> sp.		8	0	0	0	0	13
<i>Hoolock hoolock</i>	フーロックテナガザル	2	2	2	0	0	0

学名	和名	骨格	臓器 液浸	脳 液浸	全身 液浸	剥製	毛皮・ 仮剥製
<i>Nomascus concolor</i>	クロテナガザル	3	2	4	0	1	0
<i>Symphalangus syndactylus</i>	フクロテナガザル	8	12	8	4	3	0
Hominidae	ヒト科	24	30	19	10	16	0
<i>Pongo pygmaeus</i>	ボルネオオランウータン	7	6	3	1	3	0
<i>Pan troglodytes</i>	チンパンジー	11	19	11	9	5	0
<i>Gorilla gorilla gorilla</i>	ニシローランドゴリラ	6	3	3	0	6	0
<i>Gorilla beringei beringei</i>	マウンテンゴリラ	0	2	2	0	2	0
Primates 科不明	霊長目 科不明	1	0	0	0	0	0
misc. Primates		1	0	0	0	0	0
Scandentia	ツパイ目	24	21	10	2	5	5
<i>Dendrogale melanura</i>	ミナミホソオツパイ	1	0	0	0	0	0
<i>Tupaia glis</i>	コモンツパイ	10	13	8	2	1	5
<i>Tupaia gracilis</i>	ホソツパイ	1	0	0	0	0	0
<i>Tupaia minor</i>	ショウツパイ	1	0	0	0	0	0
Tupaia sp.		10	8	2	0	4	0
<i>Ptilocercus lowii</i>	ハネオツパイ	1	0	0	0	0	0
Other mammals	その他の哺乳類	217	2	0	0	0	0
Artidactyla	偶蹄目	80	0	0	0	0	0
Carnivora	食肉目	67	0	0	0	0	0
Chiroptera	翼手目	1	0	0	0	0	0
Diprodontia	双前歯目	18	0	0	0	0	0
Dermoptera	皮翼目	1	0	0	0	0	0
Lagomorpha	兔形目	4	0	0	0	0	0
Perissodactyla	奇蹄目	4	0	0	0	0	0
Pilosa	有毛目	1	0	0	0	0	0
Rodentia	齧歯目	31	2	0	0	0	0
Soricomorpha	トガリネズミ形目	10	0	0	0	0	0
Others	その他	27	0	0	2	6	0
Aves	鳥類	19	0	0	0	6	0
Reptilia	爬虫類	8	0	0	1	0	0
Actinopterygii	硬骨魚類	0	0	0	1	0	0
霊長類 計		4016	3093	2353	1439	243	229
霊長類以外 計		268	23	10	4	11	5
総計		4284	3116	2363	1443	254	234
2015 年度 収集数		30	34	34	12	0	4

(2) 寄生虫標本

宿主		寄生虫			
学名	和名	線虫	条虫	吸虫	その他
Cheirogaleidae	コビトキツネザル科	0	1	0	0
<i>Microcebus murinus</i>	チビネズミキツネザル	0	1	0	0
Galagidae	ギャラゴ科	5	3	0	1
<i>Galago senegalensis</i>	ショウギャラゴ	2	1	0	0
<i>Otolemur crassicaudatus</i>	オオギャラゴ	3	2	0	1
Lorisidae	ロリス科	9	5	1	1
<i>Loris tardigradus</i>	スレンダーロリス	3	0	0	0
<i>Nycticebus coucang</i>	スローロリス	6	4	1	1
<i>Nycticebus pygmaeus</i>	レッサースローロリス	0	1	0	0
Tarsiidae	メガネザル科	0	1	0	0
<i>Tarsius syrichta</i>	フィリピンメガネザル	0	1	0	0
Cebidae	オマキザル科	109	5	1	6
<i>Callimico goeldii</i>	ゲルジモンキー	0	1	0	0
<i>Callithrix argentata</i>	シルバーマーモセット	4	0	0	1
<i>Callithrix geoffroyi</i>	シロガオマーモセット	3	0	0	0
<i>Callithrix jacchus</i>	コモンマーモセット	45	0	0	1
<i>Cebuella pygmaea</i>	ピグミーマーモセット	2	0	0	0
<i>Leontopithecus rosalia</i>	ゴールドデンライオンタマリン	0	0	0	2
<i>Saguinus fuscicollis</i>	サドルバックタマリン	1	0	0	0
<i>Saguinus labiatus</i>	ムネアカタマリン	2	0	0	0
<i>Saguinus leucopus</i>	シロアシタマリン	1	0	0	0
<i>Saguinus midas</i>	アカテタマリン	2	0	0	1
<i>Saguinus mystax</i>	クチヒゲタマリン	9	0	0	0
<i>Saguinus nigricollis</i>	クロクビタマリン	20	1	1	0
<i>Saguinus oedipus</i>	ワタボウシパンシェ	4	0	0	1
<i>Cebus capucinus</i>	ノドジロオマキザル	0	1	0	0
<i>Saimiri sciureus</i>	コモンリスザル	15	2	0	0
<i>Aotus trivirgatus</i>	ヨザル	1	0	0	0
Atelidae	クモザル科	11	3	0	1
<i>Alouatta caraya</i>	クロホエザル	0	2	0	0
<i>Alouatta</i> sp.		0	1	0	0
<i>Ateles geoffroyi</i>	ジェフロイクモザル	1	0	0	0
<i>Ateles paniscus</i>	クロクモザル	8	0	0	1
<i>Lagothrix lagotricha</i>	コモンウーリーモンキー	2	0	0	0
Pitheciidae	サキ科	2	2	0	0
<i>Callicebus cupreus</i>	レッドティティ	1	0	0	0
<i>Callicebus moloch</i>	ダスキーティティ	0	2	0	0
<i>Pithecia monachus</i>	マンクサキ	1	0	0	0
Cercopithecidae	オナガザル科	243	14	11	8
<i>Macaca cyclopis</i>	タイワンザル	5	1	0	0
<i>Macaca fascicularis</i>	カニクイザル	51	1	8	3
<i>Macaca fuscata fuscata</i>	ニホンザル	76	7	0	0
<i>Macaca fuscata yakui</i>	ヤクニホンザル	33	2	0	0
<i>Macaca maura</i>	ムーアモンキー	2	0	0	0
<i>Macaca mulatta</i>	アカゲザル	26	1	0	2
<i>Macaca nemestrina</i>	ブタオザル	1	0	0	1
<i>Macaca radiata</i>	ボンネットモンキー	2	0	0	0
<i>Macaca sylvanus</i>	バーバリーマカク	1	0	0	0
<i>Macaca thibetana</i>	チベットモンキー	1	0	0	0
<i>Macaca hybrid</i>		1	0	0	0
<i>Mandrillus sphinx</i>	マンドリル	1	0	0	0
<i>Papio anubis</i>	アヌビスヒヒ	1	0	0	0

宿主		寄生虫			
学名	和名	線虫	条虫	吸虫	その他
<i>Papio cynocephalus</i>	キイロヒヒ	6	1	0	0
<i>Papio hamadryas</i>	マントヒヒ	1	0	0	0
<i>Papio papio</i>	ギニアヒヒ	1	0	0	0
<i>Cercopithecus albogularis</i>	サイクスモンキー	1	0	0	0
<i>Cercopithecus ascanius</i>	アカオザル	0	1	0	0
<i>Cercopithecus mitis</i>	カンムリグエノン	1	0	0	0
<i>Cercopithecus mona</i>	モナモンキー	1	0	0	0
<i>Chlorocebus aethiops</i>	サバンナモンキー	1	0	0	0
<i>Miopithecus talapoin</i>	タラポアン	2	0	0	0
<i>Erythrocebus patas</i>	パタスザル	24	0	1	0
<i>Colobus guereza</i>	アビシニアコロブス	0	0	1	0
<i>Piliocolobus badius</i>	アカコロブス	1	0	0	0
<i>Semnopithecus entellus</i>	ハヌマンランゲール	2	0	0	2
<i>Trachypithecus francoisi</i>	フランソワルトン	0	0	1	0
<i>Trachypithecus obscurus</i>	ダスキールトン	1	0	0	0
Hylobatidae	テナガザル科	8	2	0	0
<i>Hylobates agilis</i>	アジルテナガザル	1	0	0	0
<i>Hylobates lar</i>	シロテナガザル	3	2	0	0
<i>Hoolock hoolock</i>	フーロックテナガザル	1	0	0	0
<i>Symphalangus syndactylus</i>	フクロテナガザル	3	0	0	0
Hominidae	ヒト科	15	0	0	0
<i>Pan troglodytes</i>	チンパンジー	15	0	0	0
Scandentia	ツパイ目	4	0	0	0
Tupaiaidae sp.		4	0	0	0
Others	その他	1	0	0	1
Aves	鳥類	1	0	0	1
霊長類 計		402	36	13	17
総計		407	36	13	18
2015 年度 収集数		0	0	0	0

(3) 複製資料

標本番号	学名	性別・部位等
KNM-CA 380	<i>Micropithecus clarki</i>	下顎骨
KNM-SO 700	<i>Rangwapithecus gordonii</i>	上顎骨
KNM-RU 1850	<i>Dendropithecus macinnesi</i>	上下顎骨
KNM-RU 2087	<i>Proconsul nyanzae</i>	下顎骨
KNM-RU 7290	<i>Proconsul heseloni</i>	頭骨
KNM-SO 396	<i>Proconsul major</i>	下顎骨
KNM-FT 46	<i>Kenyapithecus wickeri</i>	上顎骨片と犬歯
KNM-KP 29281, 29283, 28285B, 28285A	<i>Australopithecus anamensis</i>	上下顎, 脛骨
KNM-WT 40000	<i>Kenyanthropus platyops</i>	頭骨
KNM-WT 17000	<i>Paranthropus aethiopicus</i>	頭骨
KNM-ER 406	<i>Paranthropus boisei</i>	頭骨
KNM-ER 729	<i>Paranthropus boisei</i>	下顎骨
KNM-CA 732	<i>Paranthropus boisei</i>	頭骨
KNM-ER 999	<i>Homo habilis</i>	大腿骨
KNM-ER 1470	<i>Homo rudolfensis</i>	頭骨
KNM-ER 1472	<i>Homo habilis</i>	右大腿骨
KNM-CA 1802	<i>Homo habilis</i>	下顎骨
KNM-ER 1813	<i>Homo habilis</i>	頭骨
KNM-ER 3733	<i>Homo ergaster</i>	頭骨
KNM-WT 15000	<i>Homo ergaster</i>	全身骨格
KNM-WT 16999	<i>Afropithecus turkanensis</i>	頭骨
OH-2	<i>Australopithecus afarensis</i>	下顎骨
OH-5	<i>Paranthropus boisei</i>	頭骨
OH-7	<i>Homo habilis</i>	下顎骨
OH-8	<i>Homo habilis</i>	足骨
OH-13	<i>Australopithecus africanus</i>	上下顎骨
OH-24	<i>Australopithecus africanus</i>	頭骨
WN-64 (Peninj-160)	<i>Paranthropus boisei</i>	下顎骨
SK 48	<i>Paranthropus robustus</i>	頭骨
STS 5	<i>Australopithecus africanus</i>	頭骨
Taung Child	<i>Australopithecus africanus</i>	頭骨
Peking Man	<i>Homo erectus</i>	頭骨
Sangiran 17	<i>Homo erectus</i>	頭骨
Kabwe Skull	<i>Homo heidelbergensis</i>	頭骨
La Ferrassie 1	<i>Homo neanderthalensis</i>	頭骨
LB-1	<i>Homo floresiensis</i>	頭骨
CGM 40237	<i>Aegyptopithecus zeuxis</i>	頭骨
PIN 3381-236	<i>Parapresbytis eohuman</i>	下顎骨
GSP 15000	<i>Sivapithecus indicus</i>	頭骨
<i>A. afarensis</i> 復元頭蓋	<i>Australopithecus afarensis</i>	頭骨
Zos 50	<i>Gorilla gorilla</i>	オスの頭骨
Zos 53	<i>Pan troglodytes</i>	オスの頭骨
SH-10	<i>Homo sapiens</i>	男性の頭骨
JMC-Re-1	<i>Homo sapiens</i>	男性の全身骨格
JMC-Re-2	<i>Pan troglodytes</i>	オスの全身骨格
JMC-Re-3	<i>Homo sapiens</i>	アジア人男性の頭骨
JMC-Re-4	<i>Pan troglodytes</i>	オスの頭骨
JMC-Re-5	<i>Gorilla gorilla</i>	オスの頭骨
JMC-Re-6	<i>Homo sapiens</i>	女性の頭骨、骨盤、右上腕骨、右大腿骨
JMC-Re-7	<i>Homo sapiens</i>	子供（5歳）の頭骨、骨盤、右上腕骨、右大腿骨
JMC-Re-8	<i>Panthera leo</i>	頭骨
JMC-Re-9	<i>Daubentonia madagascariensis</i>	頭骨
JMC-Re-10	<i>Daubentonia madagascariensis</i>	右前肢

標本番号	学名	性別・部位等
JMC-Re-11	<i>Tarsius</i> sp.	頭骨
JMC-Re-12	<i>Cynocephalus volans</i>	頭骨
JMC-Re-13	<i>Castor canadensis</i>	頭骨
JMC-Re-14	<i>Phascolarctos cinereus</i>	頭骨
JMC-Re-15	<i>Homo sapiens</i>	胎児頭骨
JMC-Re-16	<i>Pan troglodytes</i>	胎児頭骨
JMC-Re-17	<i>Pan troglodytes</i>	骨盤

2015 年度収集数 2 点

(4) 分野別民俗資料点数 (猿二郎コレクション)

分類番号	種別	点数
00		
050	逐次刊行物	16
070	洋書	25
090	和書	9
200		
288.9	旗	1
300		
336.94	暖簾、看板	20
337.32	銀貨	1
337.4	補助貨幣 (銅貨など)	1
348.6	紙幣	2
375.9	タバコ関係	23
380	教科書	7
383.3	風俗、習慣、民俗	24
383.55	アクセサリー、マスコット、根付	118
383.9	髪飾、小間物 (くし、こうがい、かんざし)	3
386	居住、民具	6
386.8	祭礼	2
387.1	信仰、民間信仰と迷信	199
400		
458	岩石	11
470	植物	13
470.8	菌類	7
489.9	霊長類	1
499.88	薬用植物	1
500		
524.86	出入口 (窓、戸)	3
535.2	時計	2
545.28	電灯支持具、照明	4
545.5	灯具 (行燈、提灯、ランプ)	3
573.38	タイル	5
576.4	蠟燭	1
581	金属製品	4
581.1	鋳物製品	32
581.7	刃物類 (スプーン、 フォーク、ナイフ、鉄)	6
583	木製品	13
583.92	竹製品	3
583.94	蔓製品 (藤、籐、あけび)	3
583.96	藁製品	2
583.97	縄製品	1

分類番号	種別	点数
586.27	綿製品 (たおる、てぬぐい)	14
586.37	麻製品	4
586.78	織機	1
588.38	飴菓子	5
588.39	雑菓子	5
588.55	果実酒 (容器)	8
589.211	和服	5
589.215	子供服、T シャツ	2
589.224	ネクタイ	5
589.225	ハンカチ	6
589.23	靴下、足袋	4
589.24	マフラー、ネックチーフ	2
589.253	靴、スリッパ	1
589.27	ハンドバック、袋物 (財布)	17
589.28	ボタン、タイピン、カフス	3
589.3	傘、扇、団扇	14
589.4	洋傘	1
589.49	杖、ステッキ	1
589.5	ブラシ	1
589.7	文房具、運動具、貯金箱	85
594.1	モール	4
596.5	厨房具、食器	48
597	住居、家具、調度	37
597.2	カーテン、簾、タペストリー	16
597.7	床飾、インテリア	2
599.8	絵本	3
600		
629.61	灯籠	9
674.7	宣伝広告用印刷物、新聞、PR 誌、 シール、チラシ、案内状、シオリ	117
674.71	千社札	43
674.72	ポスター	123
674.73	カレンダー	15
675.18	包装、ラベル、容器	39
688.181	マッチラベル	275
693.5	観光みやげ物	199
693.8	切手、葉書、スタンプ	220
699.67	ラジオ、テレビ、演劇、娯楽	1
700		
711.9	仮面 (郷土玩具を除く)	14
713	木彫	149
714	石彫	61

分類番号	種別	点数
717	粘土彫刻、テラコッタ、蠟、石鹼	5
718.4	石仏、仏像	5
720	絵画	7
721.2	大和絵、絵巻物	23
721.3	水墨画	10
721.6	写生画	15
721.7	文人画、南画、俳画、色紙	63
721.8	浮世絵、錦絵、大津絵	48
724.8	ガラス絵	1
726.58	絵葉書	93
726.7	児童画	1
726.8	影絵（シュリエット）	1
728.8	書跡	8
729.3	墨	3
729.5	硯	7
729.6	文鎮	8
729.7	水差し	5
733	木版画、版木	26
739.1	印章材料	10
745	陽画（写真）	33
751.3	陶磁器（皿、絵皿）	405
751.31	灰皿	19
751.32	徳利、杯	15
751.33	急須、湯呑	17
751.4	埴輪、古瓦	16
751.5	ガラス工芸	17
751.9	プラスチック	43
752	漆工芸	1
753.7	刺繍	11
753.8	染物	1
754	木工芸	92

分類番号	種別	点数
754.7	竹工芸	36
754.9	紙工芸（折り紙、せん紙、ペーパークラフト）	38
755.4	牙角細工	12
755.5	革細工	3
755.6	貝細工	6
756.14	鍍金	12
756.6	刀剣、鐔	4
756.7	甲冑	1
759	人形、玩具	308
759.9	郷土玩具、郷土人形	16
759.91	土人形、土笛、土面	493
759.92	首人形	14
759.93	土鈴、陶鈴、鈴	122
759.94	張り子	95
759.95	凧	5
759.96	張り子面、土面子	159
759.97	紙塑	5
759.98	練り物	6
759.99	木、竹、その他	159
774	歌舞伎	2
777.1	人形浄瑠璃	6
777.8	影絵芝居、ギニョール、マリオネット	30
791.5	茶器、菓子器	20
792.6	香合、香炉	14
793.5	花器	7
900		
909.3	童話	10
合計		4,723 点
2015 年度 収集数		0 点

(5) 音響・映像資料

平成 28 年 3 月 31 日現在、42 点の映像資料、および以下の映像機器が登録されている。

ビデオデッキ		液晶プロジェクター	
SONY VHS SLV-F6	1	東芝 TLP781J	1
カラービデオカメラ		EPSON EMP1710	1
SONY CCD-G5	1	EPSON EH-TW5200	1 (PWS)
デジタルビデオカメラ		CD/DVD プレーヤー / レコーダー	
Panasonic NV-GS50	1	SONY DVP-NS53P	1
SONY DCR-PC5	1	Panasonic DVD-S39	1
SONY DCR-HC62	1	Victor SR-DVM700	1
デジタルハイビジョンビデオカメラ		CCD-001	1
Panasonic HDC-HS100	2	テレビモニター	
8mm 映写機		TOSHIBA REGZA 37C7000	1
エルモ E80	1	By D:sign d:4222GJV3	1
16mm 映写機		Panasonic VIERA TH-37TX50	1
BELL & HOWELL	1	I・O Data LCD-MF223FBR-T	1 (PWS)
スライドプロジェクター		Panasonic TH-42AS600	1 (PWS)
ファミリーキャビン	1	TV 会議システム	
Master Lux	1	Polycom HDX6000-720	1 (PWS)
オーバーヘッドプロジェクター	1		

(6) 図書資料

平成 27 年度に受け入れた資料は、次のとおりである。

図書	18 点
定期刊行物（雑誌類等）	701 点

平成 28 年 3 月 31 日現在、保有する登録図書資料（製本分を含む）は、次のとおりである。

和書	5,936 点
洋書	3,736 点
計	9,762 点

逐次刊行物を受贈した機関は次のとおりである。

〈一般および研究関係等〉

Bombay Natural History Society	京都大学	成田山名古屋別院大聖寺
Elsevier	京都大学アフリカ地域研究センター	日本エコツアーリズム協会
Montbell	京都大学生態学研究センター	日本学術振興会
Naturalis Biodiversity Center	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科	日本自然保護協会
Springer	京都大学野生動物研究センター	日本心理学会
University of Notre Dame	京都大学霊長類研究所	日本人類学会
WWF ジャパン	公益財団法人崋山会	日本動物愛護協会
愛銀教育文化財団	公益社団法人 Knots	日本動物心理学会
愛知学院大学歯学会	國學院大学博物館学研究室	日本ユネスコ協会連盟
愛知県生涯学習推進センター	国立感染症研究所	日本霊長類学会
愛知県立大学多文化共生研究所	国立極地研究所	農林水産省動物検疫所
石川県白山自然保護センター	国連生物多様性の 10 年日本委員会事務局	ビッグイシュー日本
稲盛財団	市民 ZOO ネットワーク	ひと・健康・未来研究財団
犬山城白帝文庫	小学館	日吉大社
岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター	飼料の研究社	ファームエイジ株式会社
岩波書店	全日本写真連盟	平凡社
栄研化学株式会社	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	三重県林業研究所
大阪自然環境保全協会	東京新聞	三井物産環境基金
大阪大学大学院人間科学研究科	東京農業大学学術情報通信課程	美濃加茂市民ミュージアム
科学技術振興機構	同志社大学博物館学芸員課程	武庫川女子大学附属中学校・高等学校
神奈川大学日本常民文化研究所	東洋大学	明治大学学芸員養成課程
可児市ひとづくり課	畜産草地研究所	百瀬製作所
川村学園女子大学	中野公認会計士事務所	野生生物保全論研究会
環境省自然環境局生物多様性センター	名古屋国際センター	野生動物保護管理事務所
岐阜県獣医師会	名古屋市立大学医学部	山階鳥類研究所
京都学園大学人間文化学会	名古屋大学	リコー経済社会研究所
		立教大学学校・社会教育講座

〈博物館等〉

American Museum of Natural History	刈谷市美術館	トヨタ博物館
Museu de Zoologia da Universidade de Sao Paulo	北九州市立自然史・歴史博物館	豊橋市自然史博物館
愛知県陶磁美術館	北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会	豊橋市視聴覚教育センター
愛知県博物館協会	京都大学総合博物館	豊橋市地下資源館
秋吉台科学博物館	群馬県立自然史博物館	豊橋市美術博物館
熱田神宮宝物館	国立科学博物館	名古屋市科学館
一宮市尾西歴史民俗資料館	国立科学博物館付属自然教育園	名古屋市市政資料館
稲沢市荻須記念美術館	国立民族学博物館	名古屋市博物館
岩手県立博物館	杉本美術館	日本博物館協会
魚津水族博物館	全国科学博物館協議会	半田市立博物館
江戸東京博物館	たばこと塩の博物館	平塚市博物館
大阪市立自然史博物館	中部大学民族資料博物館	福井市自然史博物館
大阪歴史博物館	知多市歴史民俗博物館	鳳来寺山自然科学博物館
大府市歴史民俗資料館	千葉県立中央博物館	北海道開拓記念館
大町山岳博物館	東海大学博物館	北海道博物館
岡崎市美術博物館	藤村記念館	みよし市立歴史民俗資料館
帯広百年記念館	徳島県立博物館	ミュージアムパーク茨城県自然博物館
春日井市道風記念館	栃木県立博物館	山口県立山口博物館
神奈川県立生命の星・地球博物館	富山市科学博物館	和歌山県立自然博物館
蟹江町歴史民俗資料館	豊田市郷土資料館	

〈動物園・水族館等〉

Zoo Köln	アクア・トト ぎふ	東京都恩賜上野動物園
Zoo Zurich	京都市動物園	鳥羽水族館
青森県浅虫水族館	釧路市動物園	豊橋総合動植物公園
秋田市大森山動物園	熊本市動植物園	長崎ペンギン水族館
アクアマリンふくしま	高知県立のいち動物公園	長野市茶臼山動物園
アクアワールド茨城県大洗水族館	神戸市立王子動物園	名古屋港水族館
旭川市旭山動物園	神戸市立須磨海浜水族園	名古屋市東山動植物園・東山の森
熱川バナナワニ園熱帯動植物友の会	こどもどうぶつえん	日本動物園水族館協会
アドベンチャーワールド	札幌市円山動物園	のとじま水族館
いしかわ動物園	静岡市立日本平動物園	浜松市動物園
大分マリーンパレスうみたまご	しまね海洋館アクアス	日立市かみね動物園
大阪・海遊館	周南市徳山動物園	姫路市立動物園
岡崎市東公園動物園・岡崎市動物総合センター	仙台市八木山動物公園	広島市安佐動物公園
葛西臨海水族園	高崎山自然動物園	福山市立動物園
鴨川シーワールド	多摩動物公園	碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館
鹿児島市平川動物公園	天王寺動物園	宮崎市フェニックス自然動物園
岐阜県世界淡水魚園水族館	東京動物園協会	横浜市動物園友の会
	東京動物園ボランティアーズ	横浜市立よこはま動物園

I-VIII 連携研究・研修の受け入れ

1. 連携研究の受入

連携研究番号 2014018 (平成 27 年度実施分)

申請者：早川卓志 (京都大学)・今井啓雄 (京都大学)・
戸田安香 (東京大学)

題目：新世界ザルにおける核酸のうま味感受性の種差
に関する行動実験

霊長類の味覚には種差があり、それは葉食・果実食・昆虫食など、さまざまな食性を持つ種に適応放散したことが関係していると考えられている。5 種類ある味覚 (甘味・旨味・苦味・塩味・酸味) のうち、旨味は食物中のアミノ酸や核酸を検出する嗜好性のある感覚であり、動物食の進化と関係していると考えられている。霊長類におけるアミノ酸 (特にグルタミン酸) に対する嗜好性に関しては先行研究があるが、核酸についてはあまり知見がなかった。そこで、本研究では、さまざまな食性を持つ種が分化している新世界ザルを対象として旨味感受性の種差について調査した。リスザルの島のボリビアリスザルおよび南米館・モンキースクランブルのジェフロイクモザルに対して、複数の核酸および比較対象としてグルタミン酸の溶液を提示し、水に対してどれだけ好むかを調査した。その結果、ボリビアリスザルにおいて核酸の旨味感受性の閾値を調べることができた。

連携研究番号：2015001

申請者：山梨裕美 (京都大学)

題目：飼育下単独性霊長類における仲間の存在が福祉
に及ぼす影響 ～スローロリスを対象として～

社会性の強い動物にとって、飼育下でも仲間との暮らしは必須であり良い効果を及ぼすことが知られている。単独性の強い動物においても、飼育下では同種他個体と近い距離で生活する場合があるが、その効果はわかっていない。今回対象とするスローロリスは単独性の強い原猿であるが、時に社会交渉をおこなったり、休息を共にするなどの社会性も報告されている。しかし夜行性動物であることもあり、その詳細や他個体の受容性などはあまりわかっていない。本研究は、同種他個体の存在がスローロリスの行動やストレス状態にどのように影響を与えるのかを調べることをおこなうものである。今年度は新規個体を導入しやすいケージを作製するなど研究環境の準備をおこなった。またストレスの指標として使用する糞中コルチゾルを酵素免疫測定法をもとに安定的に測定できる方法を確立するとともに、社会条件で糞サンプルを収集しやすいようなマーカーの検討をおこなった。

連携研究番号：2015002

申請者：仲澤伸子 (京都大学)

題目：タンザニア・マハレ山塊国立公園における
ヒョウの食性に関する研究

タンザニア・マハレ山塊国立公園に生息するアフリカヒョウの糞には、ヒョウが食べた動物の骨片や、毛が含まれている。糞の内容物を用いたヒョウの食性調査は、これらをリファレンスと見比べ、動物種を同定する方法が一般的である。骨片の同定が可能であるのは、関節部位や、歯、指骨など、特定の部位について

のみであり、必ずしも糞から同定可能な部位が得られるとは限らない。一方、毛は糞から大量に得られ、さらにそのキューティクルの模様は消化や剥製術によって破壊されないため、種同定を行う上で重要な指標となる。しかし、マハレに生息する霊長類 7 種の毛のリファレンスや同定方法については記載が存在しなかったため、食性調査を行うためにはリファレンスを作成する必要がある。そこで、日本モンキーセンターに保管されている剥製のうち、マハレに生息する霊長類と同じまたは近縁の 7 種の毛を採取し、そのうち 5 種について同定の指標を作成した。

連携研究番号：2015003 (2014004 の継続)

申請者：山下友子・平松千尋・杉野強・飯田州人
(九州大学)

題目：霊長類における音声コミュニケーションの
進化および発達過程の研究

2014 年度以来の共同利用研究において、モンキーセンターにてテナガザル類 3 種、ワオキツネザル、ヤクニホンザル、リスザルの音声録音した。明瞭に録音された音声に対し、まずケプストラム分析によって、音声から調波構造の影響を極力減らし、1/2 オクターブ程度の狭帯域フィルター群を用い、各フィルターにおけるパワー変化を变量として相関係数行列にもとづいた因子分析を行った。また、霊長類の音声における帯域ごとの相関係数行列について、各霊長類間でユークリッド距離を算出した。ヒト (成人および乳幼児) の音声から得られた因子構造と比較した結果、ヒト以外の霊長類から得た因子構造は、ヒトの因子構造とは異なることが明らかとなり、進化と発達とを共通の尺度で捉える可能性が示された。種の違いによりサイズの違う個体のあいだに共通点を明らかにする必要のあることから上記の多変量解析の方法について今後、数理的手法の改良を進めていく予定である。

連携研究番号：2015004 (2014008 の継続)

申請者：林美里 (京都大学)・川上文人 (京都大学)・
Claire Watson (京都大学)・Anne-Claire
Idoux (Ecole Nationale Veterinaire de
Toulouse)・市野悦子 (京都大学)・
平栗明美 (京都大学)・有賀菜津美 (京都大学)・
友永雅己 (京都大学)

題目：飼育下チンパンジーにおける子どもの発達
および母子関係について

野外放飼場を使用するチンパンジー 3 個体 (マモル、マルコ、ツトム) を対象にビデオカメラを用いた観察を 1 時間、週に 2 回行い、笑顔と拍手行動を中心に分析した。生後 6 か月間で唯一笑顔が生じた、母親による高い高い場面に着目すると、1 回の高い高いで乳児の笑顔は 0.19 回であったのに対し、母親は一度も笑顔を見せなかった。これはヒト保育者の高い高いと異なる結果であった (乳児の笑顔：0.68 回、保育者：0.84 回)。チンパンジーでは母子間でも笑顔の伝染が少ないのかもしれない。

母親から乳児への拍手行動は、母子間に身体的距離が出現した生後 3 か月に初出し、乳児が自ら動くようになった 5 か月頃に頻発した後、減少した。母親が乳児から後ずさりしながらおこなう拍手や、乳児を抱き上げる直前におこなう拍手は、乳児の発達段階との関連が

示唆される。乳児が発達し、ひとりで動き回る時間が増加したことが拍手の減少に影響した可能性がある。

連携研究番号：2015005

申請者：諏訪忍（日本獣医生命科学大学）

題目：飼育下のチンパンジーの飼料消化率と

尿中成分による栄養判定法の検討

動物のエネルギー摂取量とタンパク質がしめる割合の不均衡は肝臓や腎臓疾患の原因となる。そのため、展示動物でも摂取カロリータンパク比の評価が可能な方法が開発されている。チンパンジー（*Pan troglodytes*）でも評価が可能であるか検討した。

単飼育メス1頭、単飼育オス1頭、群飼育オス2頭のチンパンジー全4頭を用いた。通常飼育下の7日間の食餌内容と摂取量を記録し、糞、尿、飼料および残餌を採材した。尿中クレアチニン量と尿素窒素量を測定し、エネルギーとタンパク質摂取量を調べた。

全個体の尿中クレアチニン量および尿素窒素量の相関に高い正の相関がみられた（ $r=0.677$; $p<0.05$ ）。また、飼育場ごとに評価すると相関係数は0.730から0.858と全個体を同時に評価した場合より高い相関係数が得られ、チンパンジーでも部分尿で栄養モニタリングが可能であると考えられた。

連携研究番号：2015006

申請者：斎藤成也（国立遺伝学研究所）・

Nadeeka Hettiarachchi（総合研究大学院大学）

題目：Toque Macaque のゲノム解析

日本モンキーセンターより、トクモンキー組織標本（エタノール浸潤）から抽出されたDNAサンプルを分与され、それをつかって、国立遺伝学研究所人類遺伝研究部門（井ノ上逸郎教授）で使われているヒトのエクソーム解析プラットフォームを利用して、トクモンキーのエクソーム配列データを生成した。現在配列を解析中だが、ヒトとトクモンキーは2500万年前後の分岐年代があるので、およそ80%のトクモンキーエクソームが得られたもようである。今後、カニクイザルのエクソームデータ（未発表）やゲノムデータ（既発表）と比較して、トクモンキーの系統的位置を推定する予定である。

連携研究番号：2015007

申請者：糸井川壮大（京都大学）

題目：ワオキツネザルの繁殖期における嗅覚コミュニケーションの解明

ワオランドで飼育されているワオキツネザル2群を対象に定点法による全生起サンプリングでオスメス双方の匂い付け行動（マーキング）とメスの匂い嗅ぎ行動を記録した。

その結果、繁殖群ではオスの臭腺分泌物に対するメスの匂い嗅ぎ時間が非交尾期に対して交尾期で有意に増加した。また、メスの臭腺分泌物に対するメスの匂い嗅ぎ時間は繁殖群では非交尾期に対して交尾期で増加の傾向が見られたが、非繁殖群では非交尾期と交尾期で有意に差はなかった。

以上の結果から、オスの臭腺分泌物に対するメスの匂い嗅ぎ時間が増加するのは臭腺分泌物の組成変化に由来することが示唆された。また、メスにとって

交尾期のオスの匂いは魅力的であり、関心が高まることも示唆された。一方、メスの臭腺分泌物に対するメスの匂い嗅ぎ行動の観察から、交尾期にオスが群れに在籍していることはメスが匂いに敏感になる要因の一つとなることが示唆された。

連携研究番号：2015008

申請者：川口ゆり（京都大学）

題目：フサオマキザルにおける他種の幼児顔に対する知覚

京都大学文学部で飼育しているフサオマキザル（*Cebus apella*）を対象に同種の顔刺激に対する年齢弁別を行った。具体的には、実験参加個体はモニターに表示される新奇なフサオマキザルの「オトナ」と「コドモ」の顔刺激に対して、タッチパネルでそれぞれ異なる幾何図形を選択することにより回答することがもとめられた。参加個体に対し、給水・給餌制限は行わなかった。実験を行うに当たり、貴センターから提供していただいたフサオマキザルの写真を刺激として用いる予定であった。しかし、実験をすすめていくうえで、訓練に用いる刺激数が予定に比べ大幅に減少した。そのため、提供をうけた写真を実際に用いることはなかった。しかし、今後も同様の実験を行う可能性があるため、貴センターからの資料を活用することも含め検討したい。

連携研究番号：2015009

申請者：伊藤毅（琉球大学）

題目：ヒビ族霊長類における頭蓋形態の進化的意義に関する研究

本研究は、頭蓋の内外の構造の比較解析を通して、ヒビ族霊長類における形態的多様性の進化的意義を明らかにすることを目的とする。本年度は、顕著な種間差を示すタイワンザルとニホンザルの上顎洞形態に焦点を絞り、その発達過程を評価した。具体的に今回の連携研究では、タイワンザル（*Macaca cyclopis*）7個体の骨格標本を借用し、京都大学霊長類研究所においてCT撮像した。画像解析ソフトウェアを用いて、得られたCT画像を解析し、ニホンザルのデータと比較したところ、既にコドモ期の段階で上顎洞に顕著な種間差が存在することが分かった。この結果から、当該形態の種間差は、生後の成長速度の違いによって形成されるのではなく、発達段階の初期に生じていると推測された。今後、定量的な解析によって、上顎洞形態の成長軌跡を検討する必要がある。

連携研究番号：2015010

申請者：木下こづえ・伊藤頼子（京都大学）

題目：チンパンジー（*Pan troglodytes*）における精子運動率の時間および季節変化に関する基礎的研究

オランウータンの精液における液状部および凝固部の精子性状の時間変化に関する研究を行ったところ、凝固部の精液や運動性に新たな知見が得られた。それは、オランウータンの繁殖特性や社会構造に起因するものと考えられた。チンパンジーの精液も同様に液状部と凝固部からなるが、社会構造の違いから精子性状も異なることが推測された。そこで、本研究ではオランウータンとの種間比較を目標に同様の方法で凝固部および液状部の精子性状（液量、精子濃度、精子生存率、および精子運動率）

を調べた。日本モンキーセンターで飼育されているオスチンパンジー（アキラ）が用手法により地面に射出した精液を液状部と凝固部に分けて回収した。それぞれを25℃と37℃下で静置して、精子性状を調べた。結果、長時間の運動性の維持はオランウータンの結果と同様25℃の方が適していることが示された。また、37℃では25℃よりも液化が早く進むことが確認された。

連携研究番号：2015011

申請者：清水大輔（京都大学）・矢野航（朝日大学）

題目：チンパンジーにおける口腔細菌叢の伝播

近年、野生霊長類の体内細菌叢に関する関心が高まっているが、特に口腔細菌叢は齲蝕や歯周病の原因菌を含み、口腔疾病に影響するため、にわかに注目を集めている。骨格標本の研究から野生チンパンジーの場合に高頻度で口腔疾病に罹患していることが示され、その感染経路として食物分配が示唆されている。本研究では、その真偽を検証するため、飼育下チンパンジーのワッジを回収し、それを用いて口腔細菌叢のメタゲノム解析を行い個体間で比較することを目的としている。また、野生チンパンジーとの比較し、飼育下のチンパンジーの特徴を見出すことにより、飼育下のチンパンジーの口腔疾患への罹患のリスクの軽減を目指している。2016年度はモンキーセンターで飼育されている1個体のチンパンジーからワッジを回収することができた。また、野生群の調査地（ウガンダ、カリンズ森林）で2個体のチンパンジーからワッジを回収したが、現在輸入許可申請中である。

連携研究番号：2015012

申請者：岡本宗裕（京都大学）

題目：ケナガクモザル由来ギョウチュウの分子系統解析

日本モンキーセンターの南米館で飼育されているケナガクモザル（*Ateles belzebuth*）に線虫類の濃厚感染が認められた。ギョウチュウ類は宿主特異性が極めて高とされており、検出された蟯虫も過去に報告のある *Trypanoxyuris atelis* である可能性が高いと考えられた。しかし、ケナガクモザルが同センターに導入されてから20年以上が経過しており、本来他の霊長類を固有宿主としているギョウチュウやネズミ類のギョウチュウが寄生している可能性も否定できなかった。駆虫により得られた虫体の多くは形態的特徴が乏しいメス虫体であったため、形態による同定は困難であった。そこで、ケナガクモザル由来ギョウチュウのミトコンドリア COI 遺伝子の塩基配列を調べ、系統的位置を推定した。その結果、寄生していた線虫はすべて *T. atelis* であり、飼育下におかれて以降相当長期間に渡ってギョウチュウの生活環が維持されていたことが明らかとなった。

連携研究番号：2015013

申請者：一柳健司（九州大学）

題目：霊長類における生殖細胞小分子 RNA の進化

次世代にゲノム情報を伝える生殖細胞では、その忠実性を守るために生殖細胞特異的な小分子 RNA である piRNA が産生され、主に転移因子の抑制に関わることがマウスやショウジョウバエの実験から知られている。マウスでは胎生期と成獣期で異なる piRNA レパートリーが産生されるが、霊長類では成獣期の piRNA し

かこれまでに解析されていない（ヒト、チンパンジー、マーモセット）。本研究ではボウシテナガザル早産死個体の精巣を分与頂き、他の動物園から分与頂いた幼少期および成獣期テナガザルの精巣と合わせ、piRNA を比較解析して、霊長類における piRNA プロファイルの変遷を世界で初めて明らかにすることを目的とした。精巣サンプルから RNA の抽出を行い、続いて piRNA を濃縮するための化学的操作を行って、大規模シーケンシング用のライブラリーを作成したが、目的のものを得ることができなかった。現在、サンプル量が多い成獣由来の RNA を用いて条件を検討しているところである。

連携研究番号：2015014

申請者：黒田敏数（愛知文教大学）

題目：デグー（*Octodon degus*）を対象とした実験的行動分析

KIDSZOO ではこれまで動物の本能的行動を展示してきた。しかしヒトと同じように環境変化により動物も新しい行動を学習する。本研究では KIDSZOO で飼育されているデグー（*Octodon degus*）の学習能力を展示することを目的とする。スキナー箱を2月より製作を開始し3月中旬に終え、KIDSZOO のトレーラー内に設置した。デグーについてはセッションで用いる 25 mg サイズのペレットを摂取することを確認した後、基本的な生態と KIDSZOO での飼育状況を基に1日分のカロリー摂取量を割り出し、セッション中に与えられるペレットのカロリーが普段の飼育にほとんど影響を与えないことを確認した。セッション実施については操作が容易なプログラムとマニュアルを作成し、飼育員への負担が極力少なくなるよう努めた。3月下旬より雌4匹で給餌訓練を開始した。

連携研究番号：2015015

申請者：Richard Meindl (Kent State University)

題目：Appendicular and axial skeletal anatomy of atelid and colobine primates

Ceboid and cercopithecoid semi-brachiator primates demonstrate modified caudal axial morphology compared to the more generalized species in these two clades. This includes lumbar numbers, morphology, and mobility, and sacral expansion as well. Therefore, the distributions of thoracic, transitional, lumbar, and sacral vertebra of various species of catarrhine primates were determined, and their sacral-lumbar-superior-pelvis anatomy photographed and described. The second part of the project involved caliper measurement of forelimb dimensions including phalangeal and metacarpal bone lengths and breadths, particularly contrasting the 1st with the rays 2-5, several radius and ulna dimensions, particularly with respect to the nutrient foramina to indicate growth trajectories. Photographs included assembled metacarpal arrays, MC-capitate articulation angles, and the articular morphology of wrist and elbow. The JMC kindly provided access to seven skeletons of colobine primates, for photographs and direct measurements.

These expanded the generalized samples obtained from the Primate Research Institute.

With implications for human locomotor origins this project also marks the beginning of our attempts to chart the relaxation of restrictions on lumbar mobility in the specialized suspensory atelids and colobines, compared to generalized ceboid and cercopithecine species. It also begins our inquiries into forelimb and hand elongation at the expense of thumb length, a negative covariation (following the actions of HoxD11 and HoxD13) we hope to identify both within (future studies) and among species (present study).

連携研究番号：2015016

申請者：大島一彦・松村研哉（長浜バイオ大学）
題目：霊長類のみに存在する新規遺伝子 PIPSL の
進化や機能の解明

PIPSL は、RNA を介してエキソンが混成しそれに遺伝子重複が連動するという、極めて新奇なメカニズムで誕生した霊長類特異的な遺伝子である。PIPSL はヒト上科の 5 系統、ヒト、チンパンジー、ゴリラ、オランウータン、テナガザルのみに存在する。これまでに、ヒトとチンパンジーで PIPSL の RNA 発現が調べられ、両種とも精巣で強く発現することが示されている。ボウシテナガザル胎児の精巣の提供を 2 月に受け、現在は PIPSL の RNA 発現を確認するための準備を進めている。PIPSL 誕生後に最初に分岐した系統であるテナガザルにおいて、PIPSL の発現がどのような状況であるのか興味深い。

連携研究番号：2015017

申請者：橋戸南美（京都大学）
題目：コロブス亜科における味覚受容体の遺伝的多様
性解析

葉食に特化した食性を示すコロブス亜科がどのような味覚を示すかを明らかにすることを目的としており、日本モンキーセンターに保管されているコロブス亜科の味覚受容体遺伝子解析を行う予定である。本年度はその予備実験として、報告者がすでに所有しているコロブス種のサンプルを用いて、DNA 抽出法・PCR 法の検討を行った。また、公開されているキンシコウのゲノム配列情報をもとに、目的とする味覚受容体遺伝子解析用のプライマー配列の設計を行った。次年度は、日本モンキーセンターの試料を用いて、本実験を行う予定である。

連携研究番号：2015018

申請者：今井啓雄（京都大学）・Hee-Eun Lee（釜山国立大学）
題目：ヒト内在性レトロウイルスの分子生物学

Human endogenous retroviruses (HERVs) and related sequences account for ~8% of the human genome. It is thought that HERVs are derived from exogenous retrovirus infections early in the evolution of primates. Among the three HERV classes, class II HERVs exist in the lowest frequency in the human genome, but they include the HERV-K family, which is the youngest family and is known to have actively mobilized since the divergence of humans and chimpanzees. For

better understanding the regulatory mechanism, RT-PCR for HERV-K expression in Bushbaby samples were performed. First we tried RT-PCR with human reference gene; GAPDH, chimpanzee reference gene; EEF2, and HERV-K env. The table indicates what each numbers represents. The figure shows the RT-PCR results. Bushbaby cDNA samples were synthesized well and their concentration was set by 500ng/ul. By EEF2 result, Bushbaby samples are not interacting well with chimpanzee reference gene primer. On the other hand, human reference gene primer GAPDH shows expression evenly and clearly. It is hard to see few bands from this figure, but there were few tissues that showed bands from EEF2 primer. And finally, HERV-K ENV did not show any expression in all tissue samples. In the further study, not only HERV-K but will try RT-PCR for other families of HERV.

連携研究番号：2015019 (2014013 の継続)

申請者：酒井朋子（慶應義塾大学）・畑純一（理化学研究所）・太田裕貴（東京慈恵会医科大学）・小川優樹（東京慈恵会医科大学）

題目：拡散スペクトラム MRI を用いた霊長類の神経回路構造の比較研究

本研究では、貴センターが所有するマーモセット、ヨザル、ヤクシマザル、テナガザルの死後脳標本を対象に、9.4 テスラの高磁場 MRI 装置を用いて、脳解剖画像および拡散 MRI 画像を非破壊的に撮像することに成功した。これにより、従来の MRI 撮像技術では不可能であった、脳構造全体の高精細な再構築が可能となった（解像度 20 ~ 50 μ m）。さらに、これらの脳画像をもとに、前頭眼窩皮質、前部島皮質、側頭極、扁桃体を結ぶ神経線維束である鈎状束の解剖学的特徴について、種間比較を行った。鈎状束はヒトの高度な心的機能である「共感性」において重要な役割を担うことが報告されていることから、本研究の知見が、ヒトの共感性の由来をたどるうえでの足がかりとなることが期待される。これらの研究成果について、国内の研究会および国際シンポジウム等で発表を行った。第 60 回プリマーテス研究会では優秀口頭発表賞を受賞し、学術雑誌への投稿に向けての準備を進めている。

連携研究番号：2015020

申請者：矢野航（朝日大学）・清水大輔（京都大学）
題目：単独性原猿類スローロリスにおける歯周病菌
感染経路の解明

歯周病の広範な発症が見られた JMC で飼育中のレッサースローロリス (*Nycticebus pygmaeus*) の歯周病菌感染経路を解明するため、JMC で飼育されているレッサースローロリスの口腔内から歯垢（上下顎 8 箇所）、唾液、舌苔の採取を行った。また、口腔外からは唾液接触のある上腕部の腺液、接触のない耳垢を採取した。試料採取は JMC における定期健診時に 2 回、4 個体（サクラ、オリーブ、ヒイラギ、ヤシ）から採取を行った。

また、生態学的観点からレッサースローロリスの罹患要因を探求する目的で、成体における同種の歯周病の痕跡を用いて、現在近縁 2 種（スレンダーロリス (*Loris tardigradus*)、スローロリス (*Nycticebus coucang*)）と JMC 所蔵の骨格標本比較を行った。

2. 標本資料の貸出（連携研究）

連携研究番号：2014013 ならびに 2015019
 貸出標本：ニホンザル、ピグミーマーモセットほか、
 脳標本 4 点
 期間：平成 26 年 12 月 9 日～平成 27 年 12 月 10 日
 貸出標本：トクモンキー、ヨザルほか、脳標本 4 点、
 全身液浸標本 1 点
 期間：平成 28 年 2 月 15 日～貸出中
 連携研究番号：2015009
 貸出標本：タイワンザル 骨格標本 7 点
 期間：平成 27 年 9 月 16 日～9 月 22 日

3. 京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院実習・セミナー

- (1) インターラボ
 内容：レクチャー、バックヤード見学、園内見学
 平成 27 年 4 月 11 日 33 名
- (2) 動物園・博物館実習
 内容：レクチャー、エンリッチメント実習、飼育実習、
 解剖見学、標本実習、教育プログラム見学、
 来園者調査 など
 前期：平成 27 年 6 月 14 日～6 月 17 日 12 名
 後期：平成 28 年 2 月 6 日～2 月 9 日 4 名



解剖見学（前期）

4. 京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院 高大連携プロジェクト現地実習

- (1) 愛知県立明和高等学校
 内容：キュレーターによる少人数実習
 平成 27 年 7 月 16 日 20 名
- (2) 岐阜県立関高等学校
 内容：レクチャー、ロコモーション観察実習
 平成 27 年 8 月 11 日 14 名
- (3) 関西大倉高等学校・大阪府立北野高等学校
 内容：園内施設見学
 平成 27 年 8 月 17 日
 関西大倉高校 5 名、北野高校 4 名

5. 飼育研修の受け入れ 計 9 名

- (1) 大宮国際動物専門学校 国際海洋飼育学科
 平成 27 年 5 月 31 日～6 月 20 日 2 年生 1 名
- (2) 海遊館（NIFREL）
 平成 27 年 6 月 25 日～6 月 29 日 1 名
- (3) 酪農学園大学 獣医学部獣医学科
 平成 27 年 8 月 27 日～9 月 9 日 2 年生 1 名
- (4) 岐阜大学 生産環境科学課程応用動物科学コース
 平成 27 年 9 月 14 日～9 月 27 日 3 年生 1 名

(5) 海遊館（NIFREL）

平成 27 年 10 月 18 日～10 月 19 日 1 名

(6) 名古屋コミュニケーションアート専門学校 動物園公務員専攻

平成 27 年 12 月 7 日～12 月 20 日 2 年生 1 名

(7) 名古屋コミュニケーションアート専門学校 動物園・動物飼育専攻

平成 28 年 2 月 22 日～3 月 6 日 1 年生 1 名

平成 28 年 3 月 3 日～3 月 15 日 1 年生 1 名

(8) Hansenberg Agricultural College

平成 28 年 3 月 14 日～4 月 21 日 3 年生 1 名

6. 職場体験・インターンシップの受け入れ 計 14 件 69 名

- (1) 東京横浜独逸学園
 平成 27 年 4 月 10 日 1 名
- (2) 大口町立大口中学校 職場体験
 平成 27 年 5 月 25 日～5 月 26 日 1、2 年生 8 名
- (3) 犬山市立東部中学校 職場体験
 平成 27 年 5 月 27 日～5 月 29 日 2 年生 8 名
- (4) 犬山市立城東中学校 職場体験
 平成 27 年 6 月 18 日～6 月 19 日 2 年生 8 名
- (5) 扶桑町立扶桑中学校 職場体験
 平成 27 年 8 月 4 日～8 月 6 日 2 年生 5 名
- (6) 愛知県立古知野高等学校 インターンシップ
 平成 27 年 8 月 20 日～8 月 21 日 2 年生 8 名
- (7) 岐阜県立加茂農林高等学校 インターンシップ
 平成 27 年 8 月 22 日～8 月 23 日 2 年生 3 名
- (8) 愛知県立犬山南高等学校 職場体験
 平成 27 年 8 月 24 日 1、2 年生 6 名
- (9) 岐阜県立土岐紅稜高校 職場体験
 平成 27 年 10 月 7 日～10 月 9 日 1 年生 1 名
- (10) 犬山市立犬山中学校 職場体験
 平成 27 年 10 月 21 日～10 月 22 日 2 年生 5 名
- (11) 西尾市立福地中学校 職場体験
 平成 27 年 10 月 21 日、10 月 23 日 2 年生 2 名
- (12) 各務原市立中央中学校 職場体験
 平成 27 年 10 月 28 日～10 月 29 日 2 年生 8 名
- (13) 各務原市立緑陽中学校 職場体験
 平成 27 年 11 月 5 日～11 月 6 日 2 年生 5 名
- (14) 豊田市立猿投台中学校 職場体験
 平成 27 年 11 月 11 日～11 月 13 日 2 年生 1 名

7. 博物館実習の受け入れ 計 4 校 13 名

- (1) 岐阜大学
 平成 27 年 7 月 22 日～8 月 2 日 4 年生 1 名
- (2) 名古屋芸術大学
 平成 27 年 8 月 22 日～9 月 4 日 4 年生 2 名
- (3) 愛知教育大学
 平成 27 年 9 月 3 日～9 月 14 日 4 年生 2 名
 平成 27 年 10 月 8 日～10 月 18 日 4 年生 3 名
 平成 27 年 10 月 22 日～11 月 日 4 年生 2 名
 平成 27 年 11 月 5 日～11 月 20 日 4 年生 2 名
- (4) 帝京科学大学
 平成 27 年 10 月 1 日～10 月 12 日 4 年生 1 名

I-IX 会議・研修

1. (公社) 日本動物園水族館協会

(1) 平成 27 年度 通常総会

日程：平成 27 年 5 月 28 日～5 月 29 日

会場：姫路市立動物園

伊谷原一

(2) 総務委員会倫理福祉部会

① 平成 27 年度第 1 回倫理福祉部会

日時：平成 27 年 6 月 17 日

会場：日本動物園水族館協会会議室（東京都台東区）

木村直人

② 平成 27 年度第 2 回倫理福祉部会

日時：平成 27 年 9 月 2 日

会場：日本動物園水族館協会会議室（東京都台東区）

木村直人

③ 平成 27 年度第 3 回倫理福祉部会（拡大会議）

日時：平成 28 年 1 月 27 日

会場：日本動物園水族館協会会議室（東京都台東区）

木村直人

(3) 生物多様性委員会

① テナガザル合同計画推進会議

日時：平成 27 年 7 月 30 日

会場：横浜市立金沢動物園（神奈川県横浜市）

打越万喜子、綿貫宏史朗、廣澤麻里

② 霊長類作業部会ならびにチンパンジー計画推進会議

日時：平成 27 年 10 月 20 日～10 月 21 日

会場：恩賜上野動物園（東京都台東区）

綿貫宏史朗、鏡味芳宏、奥村文彦

③ オランウータン計画推進会議

日時：平成 28 年 2 月 9 日

会場：名古屋市東山動物園（愛知県名古屋市）

綿貫宏史朗

(4) 第 19 回種保存会議

日時：平成 27 年 11 月 6 日～11 月 8 日

会場：熊本市動植物園（熊本県熊本市）

綿貫宏史朗、鏡味芳宏

2. (公社) 日本動物園水族館協会 中部ブロック協議会

(1) 中部ブロック園館長会議

① 平成 27 年度第 2 回中部ブロック園館長会議

日程：平成 28 年 2 月 3 日～2 月 4 日

会場：あわしまリパーク（静岡県沼津市）

伊谷原一

(2) 中部ブロック獣医師研究会

① 第 140 回獣医師研究会

日程：平成 27 年 6 月 10 日～6 月 11 日

会場：いしかわ動物園（石川県能美市）

発表：症例報告、検査報告、剖検報告、

動物の異動報告

岡部直樹

② 第 141 回獣医師研究会

日程：平成 27 年 9 月 9 日～9 月 10 日

会場：名古屋港水族館（愛知県名古屋市）

発表：症例報告、検査報告、剖検報告、

動物の異動報告

岡部直樹

③ 第 142 回獣医師研究会

日程：平成 27 年 12 月 9 日～12 月 10 日

会場：名古屋市東山動物園

発表：症例報告、検査報告、剖検報告、

動物の異動報告

岡部直樹

④ 第 143 回獣医師研究会

日程：平成 28 年 3 月 9 日～3 月 10 日

会場：越前松島水族館（福井県坂井市）

発表：症例報告、検査報告、剖検報告、

動物の異動報告

岡部直樹

(3) 飼育技術者研修会

① 第 110 回中部ブロック飼育技術者研修会

日程：平成 27 年 6 月 8 日～6 月 9 日

会場：熱川バナナワニ園（静岡県賀茂郡東伊豆町）

石田崇斗

② 第 111 回中部ブロック飼育技術者研修会

日程：平成 27 年 12 月 10 日～12 月 11 日

会場：岡崎市図書館交流プラザ（愛知県岡崎市）

菊田恭介

3. 愛知県博物館協会

(1) 平成 27 年度愛知県博物館協会総会

日程：平成 27 年 6 月 26 日

会場：愛知県陶磁美術館（愛知県瀬戸市）

高野智

(2) 平成 27 年度愛知県博物館協会職員等研修会

日程：平成 27 年 11 月 11 日

会場：リニア・鉄道館（愛知県瀬戸市）

高野智

(3) 平成 27 年度愛知県博物館協会保存・修復部門研修会

日程：平成 27 年 12 月 12 日

会場：名古屋市博物館（愛知県名古屋市）

江藤彩子

4. KS-PRI-JMC 獣医師合同カンファレンス

(1) 第 8 回合同カンファレンス

日程：平成 27 年 4 月 28 日

場所：京都大学霊長類研究所（TV 会議）

症例紹介：アビシニアコロプスの胎子死亡、リスザルの外傷・頭皮欠損、クチヒゲグエノンのエルシニア症、エンペラータマリンの胸水、サンタレムマーモセットの慢性化膿性胆嚢炎 等

木村直人、岡部直樹

(2) 第 9 回合同カンファレンス

日程：平成 27 年 6 月 4 日

場所：京都大学霊長類研究所（TV 会議）

症例紹介：サンタレムマーモセットの多発性骨折、ワオキツネザルの貧血、クロキツネザルの眼振

岡部直樹

(3) 第 10 回合同カンファレンス

日程：平成 27 年 7 月 23 日

場所：京都大学霊長類研究所（TV 会議）

症例紹介：クロキツネザルの肝腫瘍、ワオキツネザルの溶血性貧血

木村直人、岡部直樹

- (4) 第 11 回合同カンファレンス
日程：平成 27 年 8 月 28 日
症例紹介：チンパンジーの頬の腫瘤
木村直人、岡部直樹
- (5) 第 12 回合同カンファレンス
日程：平成 27 年 10 月 21 日
症例紹介：ケナガクモザルの蟻虫寄生
木村直人、岡部直樹
- (6) 第 13 回合同カンファレンス
日程：平成 27 年 12 月 4 日
症例紹介：ワオキツネザルの鞭虫とダニ寄生、パタスモン
キーの寄生虫卵、ケナガクモザルの蟻虫寄生
木村直人、岡部直樹
- (7) 第 14 回合同カンファレンス
日程：平成 28 年 1 月 21 日
症例紹介：マンドリルの出血性腸炎、レッサースローロ
リスの歯科治療 木村直人、岡部直樹
- (8) 第 15 回合同カンファレンス
日程：平成 28 年 3 月 30 日
症例紹介：ヤクザルの大動脈拡張・血管壁肥厚・粥状硬化、
アビシニアコロボスの歯槽骨崩壊・根尖膿瘍 等
木村直人、岡部直樹

5. PRI-JMC 検討委員会

- (1) 第 17 回 PRI-JMC 検討委員会 平成 27 年 4 月 7 日
松沢哲郎、伊谷原一、打越万喜子、
高野智、赤見理恵、早川卓志
- (2) 第 18 回 PRI-JMC 検討委員会 平成 27 年 7 月 1 日
松沢哲郎、伊谷原一、打越万喜子、高野智、赤見理恵
- (3) 第 19 回 PRI-JMC 検討委員会 平成 27 年 10 月 6 日
松沢哲郎、伊谷原一、打越万喜子、
高野智、赤見理恵、早川卓志
- (4) 第 20 回 PRI-JMC 検討委員会 平成 27 年 12 月 1 日
松沢哲郎、伊谷原一、打越万喜子、
高野智、赤見理恵、早川卓志

- (5) 第 21 回 PRI-JMC 検討委員会 平成 28 年 2 月 2 日
松沢哲郎、伊谷原一、打越万喜子、高野智、赤見理恵

6. その他

- (1) 第 2 回京都大学野生動物研究センター連携園館チンパ
ンジー将来計画会議
日程：平成 27 年 8 月 20 日
会場：京都大学野生動物研究センター（京都市左京区）
伊谷原一、綿貫宏史朗、奥村文彦
- (2) 第 8 回京都大学野生動物研究センター連携園館連絡会議
日程：平成 27 年 10 月 2 日
会場：京都大学野生動物研究センター（京都市左京区）
伊谷原一、赤見理恵
- (3) 動物取扱責任者研修会
日程：平成 27 年 11 月 17 日
会場：北名古屋市勤労文化会館（愛知県北名古屋市）
木村直人
- (4) 生物多様性条約・ABS セミナー
日程：平成 27 年 12 月 8 日
会場：京都大学霊長類研究所（愛知県犬山市）
高野智、赤見理恵、新宅勇太、木村直人
- (5) 輸入サルの手扱い者に対する検疫・安全講習会
日程：平成 27 年 12 月 17 日
会場：関西国際空港（泉佐野市） 木村直人
- (6) 第 32 回全国飼育の集い
日程：平成 28 年 1 月 17 日～1 月 19 日
会場：多摩動物公園（東京都日野市）
田中ちぐさ、奥村太基

I-X 友の会

平成 26 年 4 月 1 日より募集開始
 会員数：733 名（平成 28 年 3 月 31 日時点）
 会員番号 1227 まで発行

年会費：大人（高校生以上） 3,000 円
 小中学生 2,000 円
 幼児（3 才以上） 1,500 円

1. モンキーセンター友の会 NEWS LETTER の発行

Vol. 2-1（通巻第 3 号） 平成 27 年 9 月 15 日 発行
 Vol. 2-2（通巻第 4 号） 平成 28 年 3 月 1 日 発行

2. 友の会のつどいの開催

(1) 第 3 回

日程：平成 27 年 10 月 11 日 13:00～16:00
 内容：講演「サルと歩いた日本、ゴリラと歩いた
 アフリカ」 山極壽一（博物館長、京都大学総長）
 秘蔵映像上映会＆トーク
 モンキーセンター活動報告
 「ボルネオ生息地研修」 木村直人
 「人工保育のシャマンが親元に帰るまで」 山田将也
 「コンゴ民主共和国・マレボ地域のボノボの
 保全に向けて ～調査報告と今後の計画～」 新宅勇太

蔵出しオークション

参加者：約 80 名



山極博物館長講演

I-XI 寄附活動

1. 平成 27 年度寄附受領

寄附金

法人からの寄附 6 件 163,350,000 円
 個人からの寄附 3,315,857 円

物品寄附

個人・法人からの寄附 90 件以上
 —果物や野菜など動物の飼料、消防ホース、写真等

そのほか、葉野菜やおが粉の定期的な受領

30,000 円以上の寄附を頂いた方々
 （許可を頂いた方のみ掲載）

麻生保	尾池和夫	中村美穂
天野源之	金矢真美	松林公蔵
飯吉厚夫	坂倉雅子	御手洗陽
糸魚川直祐	竹下秀子	
伊村知子	中川織江	（五十音順、敬称略）

多くの御寄附に職員一同、心より御礼申し上げます。

日本モンキーセンターでは法人・個人の方からの寄附を受け付けています。頂いた寄附は特に老朽化した施設の改修を中心とした飼育下動物の福祉向上のほか、野生動物の生息地保全をはじめとする、日本モンキーセンターの公益活動に活用させていただきます。

2. 受領した寄附による活動

- ① 誕生日イベントの開催
- ② 植樹（アフリカセンターチンパンジー放飼場、
アフリカセンター周辺、入園ゲート前など）



アフリカセンター植樹（平成 28 年 3 月 8 日・9 日）

I-XII 施設整備

1. 京都造形芸術大学と連携した無料休憩所改装

① プレゼンテーションと園内見学

平成 27 年 6 月 28 日

② ワークショップ（無料休憩所の内装塗り替え・

ピザ釜作成）

平成 28 年 2 月 9 日

③ 無料休憩所の内装塗り替え

平成 28 年 3 月 16 日



ワークショップ（平成 28 年 2 月 9 日）

2. 施設改修・新規設置

① ビジターセンター トイレ改修・屋上防水工事 （竹中工務店）

平成 27 年 7 月 6 日～8 月 17 日



平成 27 年 7 月 9 日撮影

② KIDSZOO スーパーハウスとカーポート（屋根）設置 （何でも屋今井）

平成 27 年 11 月 24 日～12 月 29 日

③ バックヤード 焼却炉設置（DAITO）

平成 27 年 12 月 9 日～平成 28 年 1 月 19 日

④ リスザルの島 アドベンチャーコース設置

平成 28 年 1 月 5 日～1 月 6 日

⑤ 駐車場ライン引き（グリーンテック若山）

平成 28 年 1 月 26 日～2 月 10 日

⑥ Wao ランド ワイルドゾーン設置

平成 28 年 2 月 1 日～2 月 27 日

⑦ インターネット光回線工事（メイエレック）

平成 28 年 2 月 8 日～2 月 25 日

⑧ ビジターセンター裏 井戸掘削（所沢建築）

平成 28 年 2 月 26 日～3 月 28 日

3. その他施設修繕

1 アジア館寝室 蛍光灯修理（文化電気）

平成 27 年 4 月 3 日

2 エコドーム 小窓設置・天井柵修理（増田鉄工）

4 月 8 日～4 月 9 日

3 市水ポンプ修理（村上設備）

4 月 10 日

4 KIDSZOO シバヤギ飼育施設準備

4 月 16 日～4 月 18 日

5 Wao ランド 観覧デッキ修理

4 月 17 日、4 月 26 日～4 月 28 日

6 モンキーバレイ 金網フェンス・パネル板点検・

土止め補修

4 月 19 日

7 無料休憩所前 屋根補修

4 月 19 日～4 月 22 日

8 バックヤード警報機修理（ALSOK）

4 月 20 日

9 クモザルの池 電柵張り替え

4 月 22 日

10 アジア館 ニホンザル扉ガラス修理（橋爪ガラス）

4 月 27 日

11 バックヤード 乾燥炉修理（エコ技研）

4 月 29 日～

12 南米館 配水管修理（村上設備）

4 月 29 日、5 月 1 日

13 ヒヒの城 寝室内蛍光灯交換

5 月 4 日

14 テナガ舎 寝室天井溶接修理

5 月 8 日

15 マダガスカル館 日除けやぐら設置

5 月 9 日

16 Wao ランド パラソル修理

5 月 9 日

17 Wao ランド mini デッキ修理

5 月 10 日

18 クモザルの島 池周辺人止め柵補修

5 月 13 日

19 KIDSZOO デッキ・受付台・柵の塗装

5 月 19 日、5 月 28 日～5 月 29 日

20 モンキーバレイ 土止め

5 月 20 日、5 月 22 日

21 市水ポンプ電気制御板点検調整（村上設備）

5 月 21 日

22 アフリカ館 溶接修理（増田鉄工）

5 月 25 日

23 無料休憩所 看板撤去

5 月 27 日

24 セミナーハウス白帝 蛍光灯配線工事（文化電気）

6 月 1 日

25 アジア館・ヒヒの城 溶接修理（増田鉄工）

6 月 2 日

26 ビッグループ 雲梯危険箇所取り外し

6 月 3 日

27 アフリカ館 ダクト溶接修理（増田鉄工）

6 月 8 日

28 南米館哺育室 給湯器リモコン修理（犬山燃料）

6 月 17 日

29 アジア館下 配水管修理（村上設備）

6 月 17 日

30 Wao ランド前 休憩所設置

6 月 27 日

31 アフリカセンター チンパンジー放飼場やぐら

撤去（何でも屋今井）

6 月 30 日

32 電気キュービクル点検

7 月 8 日

33 ビジターセンター裏 市水管破裂修理（竹中工務店）

7 月 30 日

34 ケヤキの森 市水管破裂修理（村上設備）

7 月 31 日

35 アフリカ館 溶接修理

8 月 24 日

36 無線機修理（メイエレック）

8 月 24 日

37 バックヤード 隔離舎前蛍光灯交換

8 月 30 日

38 ギボンハウス 放飼場フェンス金網張り

8 月 30 日

39 ヒヒの城 シュート修理

8 月 30 日

40	バックヤード 収容棟蛍光灯、アフリカセンター 蛍光灯、南米館（哺育室） 蛍光灯スイッチ 取り替え（文化電気）	9月1日	75	アジア館 シュート修理	12月3日、12月6日
41	電線に掛かった枝の撤去（台風被害） （NTT・シーキューブ）	9月9日	76	ビジターセンター 雨漏り跡補修（竹中工務店）	12月8日～12月9日
42	ビジターセンター裏 市水管破裂修理（竹中工務店）	9月10日	77	ケージ溶接（ハセハウス）	12月15日
43	エコドーム 溶接補強	9月13日	78	アフリカセンター・南米館 地下タンク定期点検・ 機密検査	12月22日
44	アフリカセンター チンパンジー放飼場やぐら 撤去	9月15日	79	火災報知器点検（ALSOK）	12月22日
45	ヒヒの城 シュート補修	9月15日	80	ビジターセンター前 市水管漏水修理	平成28年1月9日
46	ビジターセンター裏 市水管補強（竹中工務店）	9月16日	81	モンキーバレイ 金網溶接	1月15日
47	Wao ランド 観覧デッキ修理	9月16日、9月22日、10月3日	82	南米館旧夜行性室 整備（ガラス割り）	1月19日
48	FA 暖房点検（今井設備・マルヨ）	9月16日、9月29日～9月30日	83	ビジターセンター裏 雨樋工事（竹中工務店）	1月26日～1月28日
49	南米館 温水ボイラー点検（若松物産）	9月18日	84	ヒヒの城下 バンブースライダー設置	1月27日～1月28日
50	山水ポンプ小屋 周辺電気点検（中部電力）	9月19日	85	KIDSZOO カーポート雨漏り修理（何でも屋今井）	1月31日
51	アフリカセンター・南米館 エアーハンドリング ユニット清掃（今井設備）	9月29日	86	楽猿 改修（竹中工務店）	2月1日～2月4日
52	アフリカセンター 温水ボイラー点検（今井設備、 昭和江ネス）	9月30日	87	ビジターセンター 床のワックス掛け （カバーオール）	2月3日
53	外周通路 電気メーター撤去（トーエネック）	10月2日	88	リスザルの島 柵の付け替え	2月3日～2月4日
54	ビジターセンター前 タイル補修	10月4日	89	南米館 バコティンヒーター定期点検	2月4日
55	ビジターセンター裏 アスファルト張り （竹中工務店）	10月5日	90	バックヤード 収容棟屋外コンセント取り替え （文化電気）	2月10日
56	テナガ舎 溶接補強	10月9日	91	市水タンク清掃（名鉄環境造園）	2月10日
57	アジア館 シュート修理	10月10日	92	ビジターセンター裏 ポンプ修理（有川設備）	2月10日
58	モンキーバレイ 樹木周り電気柵補修	10月11日	93	ビジターセンター パーティション設置 （竹中工務店）	2月17日
59	KIDSZOO デッキ階段修理	10月11日	94	警備システム交換（ALSOK）	2月18日、2月19日、2月23日、2月24日
60	リスザルの島 観覧デッキ修理	10月18日	95	ニホンザルの丘 フェンス補強	2月19日
61	ビジターセンター裏 市水管破裂修理（竹中工務店）	10月22日	96	テナガ舎 溶接補強	2月19日
62	外周通路（白帝前） 水道管修理（村上設備）	10月26日	97	バックヤード 屋外収容棟ネット補強	2月21日
63	オオスズメバチ駆除（白川住宅設備、マルヨ工業）	10月28日	98	ビジターセンター裏 ポンプ修理	2月24日
64	バックヤード屋外収容棟 ストープ修理（ナフコ）	11月5日～11月18日	99	KIDSZOO 蛍光灯・コンセント修理、ニホンザルの 丘 電灯修理（文化電気）	2月26日
65	モンキーバレイ 放飼場内・周辺のアスファルト舗装	11月7日	100	ギボンハウス前 トウクトウク停留所サークル 工事（グリーンテック若山）	3月1日、3月2日
66	Wao ランド デッキ修理	11月8日～11月9日	101	ビジターセンター裏 ポンプ交換（有川設備）	3月1日～3月3日
67	リスザルの島 デッキ修理	11月9日、 11月13日～11月16日、11月20日	102	アフリカセンター 植樹（小嶋造園）	3月8日、3月9日
68	無料休憩所 蛍光灯点検	11月11日	103	南米館旧夜行性室 エアコン撤去・蛍光灯交換 （文化電気）	3月11日
69	アジア館 シュート修理	11月14日	104	アジア館 シュート溶接	3月13日
70	モンキーバレイ 電柵補修	11月19日	105	ビジターセンター裏 ポンプ設置	3月13日～3月15日
71	ビジターセンター 自動扉点検整備	11月25日	106	ギボンハウス横 トウクトウク停留所作成	3月13日～3月31日
72	ビジターセンター裏 配水ポンプ調整（村上設備）	12月1日	107	浄化槽清掃	3月15日
73	クモザルの島 池中電気柵修理	12月1日	108	アフリカ館 バッティコファエグエノン放飼場改修	3月15日
74	バックヤード 浄化槽清掃	12月1日	109	温水ボイラー点検（今井設備）	3月22日
			110	KIDSZOO カーポート雨漏り修理（何でも屋今井）	3月30日

4. 土地・主な施設および設備の一覧と変動

〈土地〉 (平成 28 年 3 月 31 日現在)

地区名	面積 (m ²)
官林地区	173,480.04
栗栖地区	6,153.62
小野洞地区	759,061.22

〈施設・設備〉 (平成 28 年 3 月 31 日現在)

施設名	構 造	面積 (m ²)	建設・変動年
動物園管理事務所	鉄筋コンクリート2階造	565.5	平成15年
飼料調理倉庫	鉄骨造	64.8	平成15年
マダガスカル館	鉄筋コンクリート造	193	平成13年
マダガスカル館島	芝張り、硝子、電気柵	235	平成13年
アフリカ館	鉄骨ブロック造	446	昭和39年
ボイラー室と変電室 (旧モンキーアパート関係)	鉄骨ブロック造	49	昭和38年
ビジターセンター	鉄筋コンクリート造	860	平成元年
駐車場			平成15年
ニホンザルの丘	放養式フェンス、電気柵造	1,647	平成23年
南米館	鉄筋コンクリート2階造	480	昭和41年
リスザルの島	鉄筋コンクリート水張り造	1,507	昭和37年
ヒヒの城	放養式鉄筋コンクリート造	415	平成15年
休憩所	木造コロニアル葺造	81	平成15年
エコドーム	アイアンフレーム組SUSメッシュ張造	523	平成3年
エコドーム寝室	鉄筋コンクリート造	45	平成3年
休憩所 (エコドーム横)	鉄筋組ルーフデッキ葺造	85.8	平成3年
アジア館	鉄筋コンクリート造	375	昭和53年
アフリカセンター	鉄筋コンクリート造	2,240	昭和55年
テナガ・クモザルの島	鉄筋コンクリート石積水張造一部電柵併用	1,500	平成9年
ギボンハウス	鉄筋強度度セメント中空押出整形張 ALC葺シート防水SOS メッシュ張造2棟	164.4 ×2棟	平成6年
セミナーハウス白帝	鉄筋コンクリート平屋建造	261	昭和39年
トイレ1 (休憩所横)	ブロック積コロニアル葺造	20	昭和60年
トイレ2 (KIDSZOO横)	鉄筋コンクリートコロニアル葺造	36	昭和61年
トイレ3 (アフリカセンター)	鉄筋コンクリート造	60	昭和55年
障害者用トイレ (アフリカセンター前)	鉄筋ALC張切板葺	10.2	平成15年
動物園出改札詰め所	鉄骨造	50.4	平成15年
モンキーバレイ	放養式フェンス電気柵造	3,321.7	平成9年
診療及び資料棟	ブロック積鉄柱梁組サイディングボード張 ルーフデッキ葺造	217.74	平成9年
検疫棟	ルーフデッキ葺造	91.08	平成9年
収容棟	ルーフデッキ葺造	71.28	平成9年
標本作成棟	ルーフデッキ葺造	18.5	平成9年
屋外ケージ	鉄骨金網張り造	129.6	平成9年
炭化装置	ブロック積鉄柱梁組スレート張りスレート造	12.5	平成15年
資材倉庫	プレハブ造	17	平成9年
乾燥炉	プレハブ造	22.74	平成25年
焼却炉	プレハブ造	7.3	平成27年
ベビールーム	ブロック積鉄柱梁組サイドボード張 コロニアル葺造	16.24	平成10年
南米館用バコティン ヒーター室	上屋鉄骨組ルーフデッキ葺 サイディングボード張りスレート葺造	9.25	平成10年
Waoランド	木造 ブロック積 水張り 電柵併用	1,000	平成17年
モンキースクランブル	鉄木材複合構造 水張り 電柵併用 総延 長300m		平成18年
Waoランドmini	ステンレス檻 木造寝室 木造デッキ	35.1	平成21年
KIDSZOO	透水式路面工法 トレーラーハウス30m ² カーポート付デッキ100m ² 軽量鉄骨造休憩室15.9m ²	568	平成27年

5. 施設配置図（平成 28 年 3 月 31 日現在）



- | | | |
|----------------|--------------|---------------|
| 1 管理事務所 | 16 アフリカセンター | 31 猿塚 |
| 2 飼料倉庫 | 17 トイレ | 32 ポンプ場 |
| 3 資材倉庫 | 18 セミナーハウス白帝 | 33 ニホンザルの丘 |
| 4 ガレージ | 19 駐車場 | 34 ヒヒの城 |
| 5 ポンプ場 | 20 倉庫 | 35 駐車場 |
| 6 モニュメント | 21 倉庫 | 36 エコドーム |
| 7 動物園正門出札 | 22 ポンプ場 | 37 リスザルの島 |
| 8 ビジターセンター | 23 屋外収容棟 | 38 テナガ・クモザルの島 |
| 9 Wao ランド mini | 24 収容棟 | 39 ギボンハウス 2 |
| 10 マダガスカル館 | 25 診療棟および資料棟 | 40 ギボンハウス 1 |
| 11 アフリカ館 | 26 検疫棟 | 41 トイレ |
| 12 南米館 | 27 乾燥炉 | 42 楽猿（レストラン） |
| 13 ボイラー室 | 28 資料作成室 | 43 無料休憩所 |
| 14 アジア館 | 29 炭化装置 | 44 モンキーバー（軽食） |
| 15 Wao ランド | 30 焼却炉 | 45 KIDSZOO |
| | | 46 トイレ |

I-XIII その他

1. 学術部

- (1) 教材開発のためのヒアリング（千葉県千葉市・千葉市動物公園、東京都多摩市・多摩動物公園）
平成 27 年 6 月 15 日～6 月 16 日 赤見理恵

2. 附属動物園部（飼育）

- (1) 動物愛護管理法関係（愛知県動物保護管理センター）
- ① 特定動物飼養・保管増減届出書（平成 26 年度 1 月～3 月分）、特定動物飼養・保管許可申請書（35 種分）、ならびに 特定動物飼養・保管変更許可申請書（アフリカ館）の提出 平成 27 年 4 月
 - ② 特定動物飼養・保管増減届出書（平成 27 年度 4 月～6 月分）の提出 平成 27 年 7 月
 - ③ 特定動物飼養・保管及び動物取扱業変更届出書の提出 平成 27 年 8 月
 - ④ 特定動物取扱責任者の氏名変更に伴う届出の提出 平成 27 年 8 月
 - ⑤ 特定動物飼養・保管増減届出書（平成 27 年度 7 月～9 月分）の提出 平成 27 年 10 月
 - ⑥ 特定動物飼養・保管増減届出書（平成 27 年度 10 月～12 月分）の提出 平成 28 年 1 月
 - ⑦ 特定動物飼養・保管許可申請書の提出（2 種） 平成 28 年 3 月
- (2) 外来生物法関係（環境省中部地方環境事務所）
- ① 特定外来生物飼養状況届出書の提出 平成 27 年 7 月
- (3) その他
- ① 防火管理者変更届ならびに消防計画書の届出 平成 27 年 5 月 26 日 根本慧
 - ② 宮島・野生サル調査（広島県廿日市市） 平成 27 年 6 月 3 日～6 月 5 日 根本慧、山田将也
平成 27 年 10 月 27 日～10 月 29 日 根本慧、菊田恭介
 - ③ シバヤギ移動（愛知県名古屋市中・東山動物園） 平成 27 年 9 月 18 日 堀込亮意、根本慧
 - ④ 京都市動物園視察（京都府京都市） 平成 27 年 10 月 9 日 奥村文彦

- ⑤ NIFREL 内覧会（大阪府吹田市）

平成 27 年 11 月 16 日

綿貫宏史朗、田中ちぐさ

- ⑥ 京都大学霊長類研究所 脱出時対策訓練見学（愛知県犬山市）

平成 27 年 11 月 27 日

木村直人、坂口真悟、根本慧、杉浦直樹

- ⑦ 動物移動（千葉県千葉市・千葉市動物公園）

平成 27 年 12 月 21 日～12 月 22 日 綿貫宏史朗

3. 附属動物園部（動物病院、獣医療関係）

(1) 獣医療関係

- ① 動物病院遺漏エックス線線量当量率測定の実施（テクノ中部）

平成 27 年 8 月・平成 28 年 2 月

(2) 麻薬及び向精神薬取締法関係

- ① 年間麻薬譲渡譲受届の提出（麻薬研究者分・麻薬施用者分）（愛知県健康福祉部健康担当局医薬安全課および江南保健所） 平成 27 年 10 月・11 月
- ② 年間向精神薬輸入・輸出・製造届の提出（愛知県江南保健所） 平成 28 年 1 月

(3) 銃砲刀剣類所持等取締法関係

- ① 鉄砲所持許可申請書の提出（麻酔銃）（犬山警察署生活安全課保安係） 平成 27 年 4 月
- ② 銃砲刀剣類所持許可証等返納届出書、譲渡等承諾書、ならびに鉄砲所持許可申請書の提出（麻酔銃）（犬山警察署生活安全課保安係） 平成 27 年 9 月
- ③ 産業用鉄砲保管状況報告書の提出（麻酔銃保管場所変更）（犬山警察署生活安全課保安係） 平成 27 年 9 月
- ④ 麻酔銃検査（犬山警察署生活安全課保安係） 平成 28 年 3 月

(4) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律関係

- ① 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出（株式会社イープラネット） 平成 27 年 6 月

4. 事務部

- (1) 科学研究費助成事業公募要領等説明会（愛知県名古屋市中・名城大学）
平成 27 年 9 月 3 日 根本真菜美

II 収益事業

II-I 動物園付帯事業の経営

1. ミュージアムショップの運営

場所：ビジターセンター内

取扱商品：書籍、民俗民芸品、美術作品、オリジナル雑貨、菓子類、委託販売品等

新規商品の開発：絵馬（申年企画）、オリジナルアイスクリーム、金太郎飴、カレンダー（ゴリラ）、ソックス、シールなど



七福猿と三賢人絵馬

2. 自動販売機の設置

オリジナルラッピングを施した自動販売機を
園内 15 か所に設置

II-II 土地・建物の賃貸事業

1. 犬山市大字犬山字官林他 土地建物

賃貸先：京都大学

目的：サルの飼育・繁殖・観察並びに教育研究

2. 犬山市大字栗栖字古屋敷他 土地建物

賃貸先：京都大学

目的：霊長類の研究施設

3. 犬山市大字善師野字小野洞他 土地

賃貸先：京都大学

目的：サルの飼育・繁殖・観察並びに教育研究

4. 犬山市大字犬山字官林（JMC 管理棟）建物

賃貸先：京都大学

目的：教育等

5. 犬山市大字犬山字官林（JMC 管理棟）建物

賃貸先：（株）名鉄インプレス

目的：日本モンキーパークの運営

6. 犬山市大字犬山字官林 駐車場施設

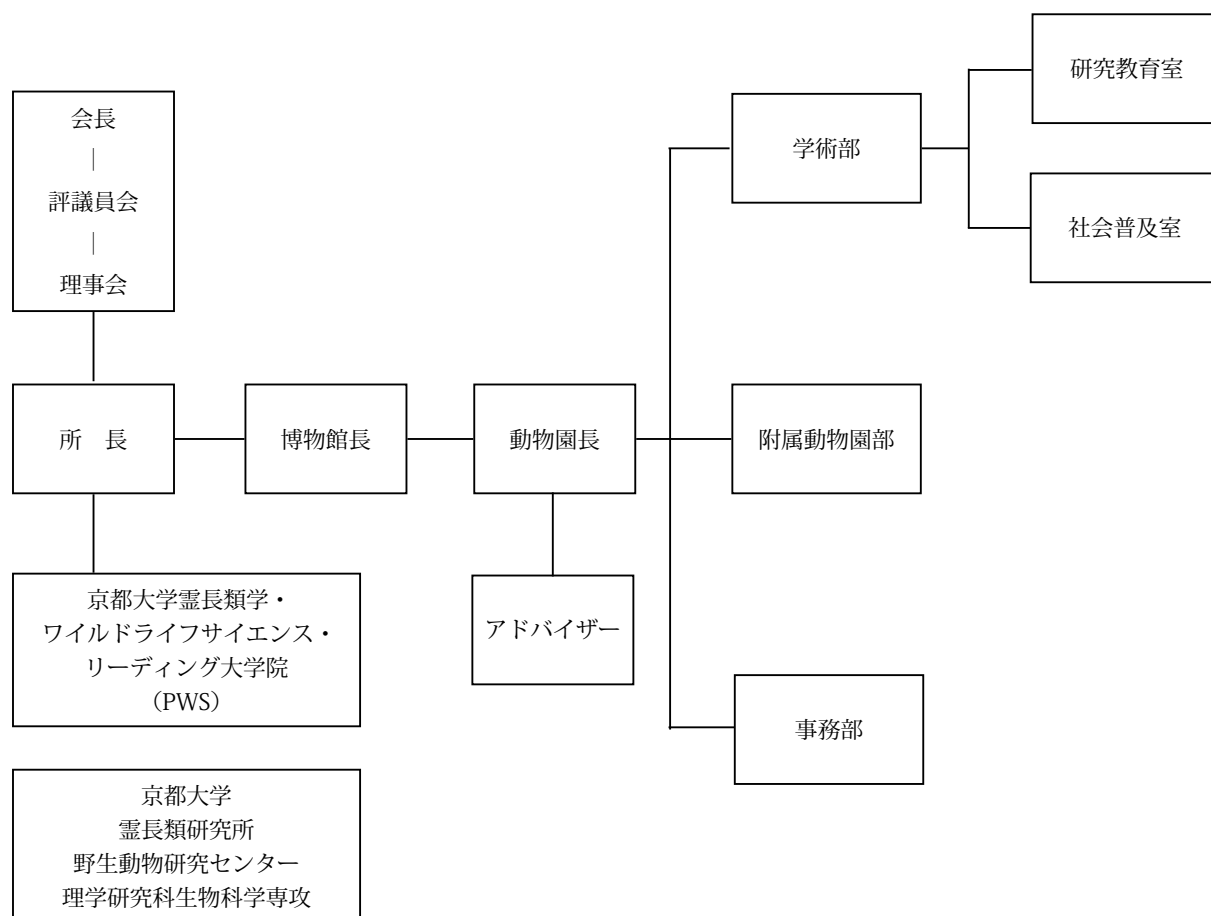
賃貸先：（株）名鉄インプレス

目的：駐車場

III 総務

III-I 組織

1. 組織図（平成 28 年 3 月 31 日現在）



2. 役員（平成 28 年 3 月 31 日現在、50 音順、敬称略）

会長		
河合 雅雄	京都大学名誉教授	日本モンキーセンター 元所長
理事長		
尾池 和夫	京都大学名誉教授	京都造形芸術大学 学長
常務理事		
伊谷 原一	京都大学野生動物研究センター 教授	日本モンキーセンター 動物園長
松沢 哲郎	京都大学霊長類研究所 教授	日本モンキーセンター 所長
山極 壽一	京都大学 総長	日本モンキーセンター 博物館長
理事		
安藤 隆司	名古屋鉄道㈱ 代表取締役社長	
市川 光雄	京都大学名誉教授	日本モンキーセンター 前所長
長谷川 寿一	東京大学 副学長	
山本 亜土	名古屋鉄道㈱ 取締役会長	
吉川 泰弘	千葉科学大学 副学長	

監事		
中野 雄介	中野公認会計士事務所 所長	
拝郷 寿夫	名古屋鉄道㈱ 取締役事業企画部長	
評議員		
秋久 成人	京都市動物園 園長	
伊藤 博司	㈱名鉄インプレス 取締役社長	
小川 秀司	中京大学国際教養学部 教授	
亀崎 直樹	岡山理科大学生物地球学部 教授	
國松 豊	龍谷大学経営学部 教授	
幸島 司郎	京都大学野生動物研究センター長 教授	
田中 正之	京都市動物園 生き物・学び・研究センター長	
橋川 央	名古屋市東山動物園 園長	
平井 啓久	京都大学霊長類研究所所長 教授	
平田 聡	京都大学野生動物研究センター 教授	
山崎 由紀子	国立遺伝学研究所 准教授	
湯本 貴和	京都大学霊長類研究所 教授	

3. 職員（平成 28 年 3 月 31 日現在）

所長

松沢 哲郎（京都大学霊長類研究所 教授）

博物館長・学術部長

山極 壽一（京都大学 総長）

動物園長・事務局長（兼任）

伊谷 原一（京都大学野生動物研究センター 教授）

アドバイザー

打越 万喜子（京都大学霊長類研究所 特定研究員）

野上 悦子（京都大学野生動物研究センター 技術職員）

森村 成樹（京都大学野生動物研究センター 特定准教授）

学術部長代理

友永 雅己（京都大学霊長類研究所 准教授）

動物園長補佐・附属動物園部長

木村 直人

学術部 研究教育室

高野 智（室長・主席学芸員）

赤見 理恵（主任学芸員）

新宅 勇太（京都大学野生動物研究センター 特定研究員）

綿貫 宏史朗（京都大学霊長類研究所 特定研究員）

早川 卓志（京都大学霊長類研究所 特定助教）

古賀 典子（京都大学野生動物研究センター 特定研究員）

学術部 社会普及室

江藤 彩子

桜木 美穂

附属動物園部

堀込 亮意（飼育統括）

岡部 直樹（京都大学野生動物研究センター 特定研究員）

坂口 真悟（飼育主任）

奥村 文彦

鏡味 芳宏

田中 ちぐさ

寺尾 由美子

根本 慧

廣川 百恵

廣澤 麻里（京都大学野生動物研究センター 特定研究員）

星野 智紀

荒木 謙太

石田 崇斗

菊田 恭介

杉浦 直樹

辻内 裕美

中尾 汐莉

長谷川 裕士

廣川 類

三井 桃依

三宅 菜穂美

山田 将也

大島 悠輝

奥村 太基

事務部

安倍 由里香

今井 由香

根本 真菜美

大岡 幸男

浅沼 龍希

浅野 晴彦

小川 冴奈

仙石 久子

平倉 柊太郎

山田 久

III-II 人事

1. 採用

平成 27 年 4 月 1 日付
 附属動物園部 菊田恭介 奥村太基
 大島悠輝
 事務部 今井由香 平倉柊太郎

平成 27 年 4 月 25 日付
 事務部 小川冴奈

平成 27 年 7 月 1 日付
 附属動物園部 三井桃依

平成 27 年 9 月 6 日付
 学術部社会普及室 桜木美穂

平成 27 年 12 月 1 日付
 事務部 浅沼龍希

平成 27 年 12 月 22 日付
 事務部 浅野晴彦

2. 着任

平成 27 年 4 月 1 日付
 学術部長代理 友永雅己
 （京都大学霊長類研究所）
 アドバイザー 森村成樹
 （京都大学野生動物研究センター）
 野上悦子
 （京都大学野生動物研究センター）
 打越万喜子
 （京都大学霊長類研究所）
 学術部研究教室 早川卓志
 （京都大学霊長類研究所）
 附属動物園部 廣澤麻里
 （京都大学野生動物研究センター）

3. 退職

平成 27 年 7 月 15 日付
 事務部 日下征二

平成 27 年 7 月 31 日付
 事務部 栗田恵美子

平成 27 年 10 月 22 日付
 学術部社会普及室 加藤章

平成 28 年 3 月 31 日付
 附属動物園部 廣川百恵 中尾汐莉
 辻内祐美
 事務部 浅野晴彦

III-III 総務

1. 理事会、評議員会の開催

- (1) 第 5 回公益財団法人日本モンキーセンター理事会
 日程：平成 27 年 5 月 7 日
 会場：名鉄グランドホテル（愛知県名古屋市）
- (2) 第 3 回公益財団法人日本モンキーセンター評議員会
 日程：平成 27 年 6 月 24 日
 会場：公益財団法人日本モンキーセンター
 セミナーハウス白帝
- (3) 第 6 回理事会
 日程：平成 28 年 2 月 29 日
 会場：名鉄グランドホテル（愛知県名古屋市）
- (4) 第 4 回評議員会（みなし決議）
 日程：平成 28 年 3 月 15 日

2. 各種契約（平成 27 年度新規）

- (1) 業務委託
 ① 警備業務 総合警備保障株式会社
 ② 動物検査 株式会社モノリス
- (2) 業務受託
 ① 販売業務（書籍） 株式会社大和出版
 ② 教育プログラム 岐阜県大垣市
- (3) 賃貸借契約
 ① コインロッカー 設置場所貸付 グローリーサービス
 ② 高圧ガス容器 株式会社原田商店

3. 訓練の実施

- (1) 大型類人猿脱出時対策訓練
 ① 捕獲訓練 平成 27 年 12 月 3 日
- (2) 初期消火訓練 平成 27 年 6 月 30 日
- (3) 消防避難誘導訓練・放水訓練 平成 28 年 12 月 16 日

III-IV 入場人員の推移

1. 月別入場人員数

入園区分	有料		無料	合計	開園日数
	一般	団体			
平成 27 年 4 月	7,131	1,387	1,674	10,192	23 日間（1 日は開園）
5 月	17,293	4,305	2,542	24,140	27 日間（13 日、20 日は開園）
6 月	6,743	185	1,298	8,226	21 日間
7 月	3,335	315	761	4,411	22 日間
8 月	5,752	326	926	7,004	25 日間（11 日、12 日は開園）
9 月	11,025	1,153	1,849	14,027	24 日間 （22 日、23 日、29 日、30 日は開園）
10 月	10,531	5,736	2,357	18,624	31 日間
11 月	10,078	2,008	1,744	13,830	24 日間（4 日は開園）
12 月	7,903	123	1,198	9,224	21 日間
平成 28 年 1 月	19,805	43	2,308	22,156	22 日間（5 日、6 日は開園）
2 月	5,644	265	923	6,832	12 日間
3 月	12,261	1,331	2,120	15,712	26 日間 （22 日、23 日、29 日、30 日は開園）
合計	11,7501	17,177	19,700	154,378	278 日間

※休園日：祝日を除く火曜・水曜。

ただし 10 月は休園日なし、1 月最終週から 2 月第 3 週の間は平日全てが休園日。

（参考）過去の年間入場者数の推移（平成 25 年度までの数値は遊園地日本モンキーパークとの総計）

年度	入場人員	年度	入場人員	年度	入場人員
平成 6 年	905,624	平成 13 年	905,169	平成 20 年	725,870
7 年	894,152	14 年	798,353	21 年	604,306
8 年	1,035,509	15 年	711,889	22 年	595,391
9 年	897,663	16 年	776,068	23 年	560,920
10 年	844,804	17 年	594,590	24 年	562,465
11 年	774,709	18 年	734,906	25 年	548,045
12 年	830,102	19 年	773,256	26 年	147,523

2. KIDSZOO 入場人員数

入場区分	有料	付添	団体	合計	入園者数	利用率(%)
平成 27 年 4 月	1,497	2,475	343	4,315	10,192	42.3
5 月	4,128	5,331	42	9,501	24,140	39.4
6 月	1,273	1,300	8	2,581	8,226	31.4
7 月	656	925	0	1,581	4,411	35.8
8 月	1,100	1,670	0	2,770	7,004	39.5
9 月	2,436	3,342	135	5,913	14,027	42.2
10 月	2,086	3,042	2,337	7,465	18,624	40.1
11 月	1,767	2,562	867	5,196	13,830	37.6
12 月	1,243	1,757	0	3,000	9,224	32.5
平成 28 年 1 月	2,422	3,699	0	6,121	22,156	27.2
2 月	874	1,185	0	2,059	6,832	30.1
3 月	2,328	3,249	156	5,733	15,712	36.5
合計	21,810	30,537	3,888	56,235	154,378	36.4

IV 経理

IV-I 計算書類

貸借対照表（平成 28 年 3 月 31 日現在）

（単位：円）

科 目	平成 27 年度	平成 26 年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	18,092,633	46,946,751	▲ 28,854,118
寄附金預金	3,480,066	3,480,066	
未収入金	74,000	556,000	▲ 482,000
前払金	592,490		592,490
立替金	20,500		20,500
仮払金	2,594	1,855	739
流動資産合計	22,262,283	50,984,672	▲ 28,722,389
2 固定資産			
基本財産			
土地	378,300	378,300	0
建物	3,214,407	3,414,444	▲ 200,037
基本財産合計	3,592,707	3,792,744	▲ 200,037
特定資産			
宮島預金	9,000,000	6,000,000	3,000,000
動物園施設整備資金	35,000,000	2,000,000	33,000,000
土地	595,848,254	595,848,254	
退職給付引当預金		23,117,000	▲ 23,117,000
特定資産合計	639,848,254	626,965,254	12,883,000
その他固定資産			
建物	9,539,757	58,607	9,481,150
建物附属設備	25,416,328	39	25,416,289
構築物	13,272,925	10,852,820	2,420,105
機械装置	4,023,068	5,797,821	▲ 1,774,753
車両運搬具	1,714,466	1,797,238	▲ 82,772
器具備品	4,398,186	2,867,558	1,530,628
動物	33,136,200	39,580,751	▲ 6,444,551
図書	828,523	1,086,394	▲ 257,871
雑設備	2	2	0
土地	754,611	754,611	0
電話加入権	18,301	18,301	0
ソフトウェア	278,586	371,448	▲ 92,862
その他固定資産合計	93,380,953	63,185,590	30,195,363
固定資産合計	736,821,914	693,943,588	42,878,326
資産合計	759,084,197	744,928,260	14,155,937
II 負債の部			
1 流動負債			
仮受金	252,478	166,240	86,238
未払金	7,433,517	8,470,865	▲ 1,037,348
賞与引当金	6,105,000	3,670,000	2,435,000
未払消費税	3,011,800		3,011,800
未払法人税等	5,654,500		5,654,500
流動負債合計	22,457,295	12,307,105	10,150,190
2 固定負債			
退職給付引当金		23,117,000	▲ 23,117,000
固定負債合計		23,117,000	▲ 23,117,000
負債合計	22,457,295	35,424,105	▲ 12,966,810

科 目	平成 27 年度	平成 26 年度	増減
Ⅲ 正味財産の部			
1 指定正味財産			
受取寄付金	42,000,000	38,799,963	3,200,037
固定資産受贈益	3,592,707	3,992,781	▲ 400,074
受贈土地	595,848,254	595,848,254	
指定正味財産合計	641,440,961	638,640,998	2,799,963
(うち基本財産への充当額)	(3,592,707)	(3,792,744)	(▲ 200,037)
(うち特定資産への充当額)	(637,848,254)	(601,848,254)	(36,000,000)
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	95,185,941	70,863,157	24,322,784
(うち特定資産への充当額)	(2,000,000)	(25,117,000)	(▲ 23,117,000)
正味財産合計	736,626,902	709,504,155	27,122,747
負債及び正味財産合計	759,084,197	744,928,260	14,155,937

正味財産増減計算書（平成27年4月1日から平成28年3月31日）

（単位：円）

科 目	平成27年度	平成26年度	増 減
I 一般正味財産の部			
1. 経常増減の部			
（1）経常収益			
基本財産運用益	0	0	0
基本財産等受入利息			0
事業収益	154,512,628	137,686,080	16,826,548
事業収益（動物園入園料）	68,586,750	57,801,864	10,784,886
動物園付帯事業	37,420,487	31,378,825	6,041,662
賃貸事業	48,505,391	48,505,391	0
賃貸事業（駐車場）	23,112,000	23,112,000	0
賃貸事業（土地・建物）	25,393,391	25,393,391	0
受取寄付金	165,649,974	131,214,841	34,435,133
友の会収入	1,865,700	1,492,750	372,950
受取寄付金	3,584,237	129,522,054	▲ 125,937,817
受取寄付金振替額	160,200,037	200,037	160,000,000
雑収益	5,729,160	2,590,872	3,138,288
受取利息	149,788	23,717	126,071
雑収益	5,579,372	2,567,155	3,012,217
経常収益計	325,891,762	271,491,793	54,399,969
（2）経常費用			
事業費	285,174,628	243,297,559	41,877,069
給与手当	104,557,459	97,406,523	7,150,936
謝金	397,590	412,302	▲ 14,712
法定福利費	15,726,578	11,568,345	4,158,233
福利厚生費	234,800	308,872	▲ 74,072
旅費交通費	374,252	326,011	48,241
研究旅費	469,921	539,120	▲ 69,199
研究会費	51,000	89,000	▲ 38,000
調査研究費	1,257,566	165,289	1,092,277
出版費	422,017	635,712	▲ 213,695
普及事業費	1,316,844	1,101,518	215,326
展示費	744,804	82,543	662,261
飼料費	17,883,945	13,959,617	3,924,328
動物購入費	0	756	▲ 756
衛生薬器費	3,475,513	1,655,498	1,820,015
サル輸送費	33,520	327,607	▲ 294,087
施設整備費	15,430,623	11,118,424	4,312,199
販売費	4,819,821	1,354,310	3,465,511
備品消費費	3,110,456	3,157,925	▲ 47,469
被服費	98,538	831,509	▲ 732,971
水道光熱費	35,159,080	41,681,232	▲ 6,522,152
車両費	495,951	707,241	▲ 211,290
幹旋手数料		2,137	▲ 2,137
業務委託費	31,527,281	30,502,065	1,025,216
租税公課	21,900,943	8,159,915	13,741,028
諸会費	408,300	439,990	▲ 31,690
補償費	995,536	171,446	824,090
通信運搬費	692,381	630,558	61,823
雑費	820,602	529,829	290,773
減価償却費	16,908,507	11,909,065	4,999,442
賞与引当金繰入額	5,860,800	3,523,200	2,337,600

科 目	平成 27 年度	平成 26 年度	増 減
管理費	10,700,516	11,978,452	▲ 1,277,936
給与手当	4,394,061	4,096,105	297,956
法定福利費	655,274	482,014	173,260
福利厚生費	12,358	16,257	▲ 3,899
旅費交通費	196,060	125,620	70,440
備品消費	373,489	1,373,568	▲ 1,000,079
会議費	149,745	179,748	▲ 30,003
通信運搬費	182,795	691,087	▲ 508,292
諸会費	3,000	25,100	▲ 22,100
水道光熱費	1,850,478	2,193,749	▲ 343,271
減価償却費	92,862	92,862	0
租税公課	6,000	167,448	▲ 161,448
業務委託費	1,867,144	2,186,000	▲ 318,856
車両費	419,443	61,499	357,944
補償費	241,514	42,864	198,650
賞与引当金繰入	244,200	146,800	97,400
雑費	12,093	97,731	▲ 85,638
経常費用計	295,875,144	255,276,011	40,599,133
当期経常増減額	30,016,618	16,215,782	13,800,836
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産受贈益	29,699	2,048,180	▲ 2,018,481
車輛運搬具受贈益	0	1,800,000	▲ 1,800,000
図書受贈益	29,699	248,180	▲ 218,481
経常外収益計	29,699	2,048,180	▲ 2,018,481
(2) 経常外費用			0
固定資産除却損	69,033	53,638	15,395
経常外費用計	69,033	53,638	15,395
当期経常外増減額	▲ 39,334	1,994,542	▲ 2,033,876
税引前当期一般正味財産増減額	29,977,284	18,210,324	11,766,960
法人税、住民税及び事業税	5,654,500		5,654,500
当期一般正味財産増減額	24,322,784	18,210,324	6,112,460
一般正味財産期首残高	70,863,157	52,652,833	18,210,324
一般正味財産期末残高	95,185,941	70,863,157	24,322,784
Ⅱ 指定正味財産の部			
受取寄付金	163,000,000	163,000,000	0
受取寄付金	163,000,000	163,000,000	0
固定資産減少額	0	▲ 200,037	200,037
固定資産償却減少額		▲ 200,037	200,037
固定資産受贈益	0	595,848,254	▲ 595,848,254
土地受贈益		595,848,254	▲ 595,848,254
一般正味財産への振替額	▲ 160,200,037	▲ 127,000,000	▲ 33,200,037
当期指定正味財産増減額	2,799,963	631,648,217	▲ 628,848,254
指定正味財産期首残高	638,640,998	6,992,781	631,648,217
指定正味財産期末残高	641,440,961	638,640,998	2,799,963
Ⅲ 正味財産期末残高	736,626,902	709,504,155	27,122,747

正味財産増減計算書内訳表（平成27年4月1日から平成28年3月31日）

（単位：円）

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
I 一般正味財産の部				
1. 経常増減の部				
（1）経常収益				
基本財産運用益	0	0	0	0
基本財産受取利息	0	0	0	0
事業収益	81,597,766	72,914,862	0	154,512,628
動物園入園料	68,586,750			68,586,750
動物園付帯事業	13,011,016	24,409,471		37,420,487
賃貸事業	0	48,505,391	0	48,505,391
駐車場		23,112,000		23,112,000
土地・建物		25,393,391		25,393,391
受取寄付金	163,784,274	0	1,865,700	165,649,974
友の会会費収入			1,865,700	1,865,700
受取寄付金	3,584,237			3,584,237
受取寄付金振替額	160,200,037			160,200,037
雑収益	2,566,494	75,386	3,087,280	5,729,160
受取利息			149,788	149,788
雑収入	2,566,494	75,386	2,937,492	5,579,372
経常収益計	247,948,534	72,990,248	4,952,980	325,891,762
（2）経常費用				
事業費	237,246,854	47,927,774	0	285,174,628
給与手当	103,503,944	1,053,515		104,557,459
謝金	397,590			397,590
法定福利費	15,562,759	163,819		15,726,578
福利厚生費	234,800			234,800
旅費交通費	374,252			374,252
研究旅費	469,921			469,921
研究会費	51,000			51,000
調査研究費	1,257,566			1,257,566
出版費	422,017			422,017
普及事業費	1,316,844			1,316,844
展示費	744,804			744,804
飼料費	17,883,945			17,883,945
動物購入費	0			0
衛生薬器費	3,475,513			3,475,513
サル輸送費	33,520			33,520
施設整備費	9,760,623	5,670,000		15,430,623
販売費		4,819,821		4,819,821
備品消費費	3,110,456			3,110,456
被服費	98,538			98,538
水道光熱費	33,308,602	1,850,478		35,159,080
車両費	495,951			495,951
業務委託費	14,981,929	16,545,352		31,527,281
租税公課	4,153,616	17,747,327		21,900,943
諸会費	408,300			408,300
補償費	995,536			995,536
通信運搬費	692,381			692,381
雑費	804,190	16,412		820,602
減価償却費	16,908,507			16,908,507
賞与引当金繰入額	5,799,750	61,050		5,860,800

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
管理費	0		10,700,516	10,700,516
給与手当			4,394,061	4,394,061
法定福利費			655,274	655,274
福利厚生費			12,358	12,358
旅費交通費			196,060	196,060
備品消費			373,489	373,489
会議費			149,745	149,745
通信運搬費			182,795	182,795
諸会費			3,000	3,000
水道光熱費			1,850,478	1,850,478
減価償却費			92,862	92,862
租税公課			6,000	6,000
業務委託費			1,867,144	1,867,144
車両費			419,443	419,443
補償費			241,514	241,514
賞与引当金繰入額			244,200	244,200
雑費			12,093	12,093
経常費用計	237,246,854	47,927,774	10,700,516	295,875,144
当期経常増減額	10,701,680	25,062,474	▲ 5,747,536	30,016,618
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
固定資産受贈益	29,699	0	0	29,699
図書受贈益	29,699			29,699
経常外収益計	29,699	0	0	29,699
(2) 経常外費用				
固定資産除却損	69,033			69,033
経常外費用計	69,033	0	0	69,033
当期経常外増減額	▲ 39,334	0	0	▲ 39,334
税引前当期一般正味財産増減額	10,662,346	25,062,474	▲ 5,747,536	29,977,284
法人税、住民税及び事業税		5,654,500		5,654,500
他会計振替額	11,632,048	▲ 11,632,048	0	0
当期一般正味財産増減額	22,294,394	7,775,926	▲ 5,747,536	24,322,784
一般正味財産期首残高	1,713,597	26,451,096	42,698,464	70,863,157
一般正味財産期末残高	24,007,991	34,227,022	36,950,928	95,185,941
Ⅱ 指定正味財産の部				
受取寄付金	163,000,000			163,000,000
受取寄付金	163,000,000			163,000,000
一般正味財産への振替額	▲ 160,200,037			▲ 160,200,037
当期指定正味財産増減額	2,799,963	0	0	2,799,963
指定正味財産期首残高	638,640,998			638,640,998
指定正味財産期末残高	641,440,961	0	0	641,440,961
Ⅲ 正味財産期末残高	665,448,952	34,227,022	36,950,928	736,626,902

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却方法

基本財産のうち建物及びその他固定資産は定額法によっている。

(2) 引当金の計上基準

賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属している額を計上している。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである。

(単価：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
土地	378,300			378,300
建物	3,414,444		200,037	3,214,407
小 計	3,792,744	0	200,037	3,592,707
特定資産				
宮島預金	6,000,000	3,000,000		9,000,000
動物園施設整備資金	2,000,000	33,000,000		35,000,000
土地	595,848,254			595,848,254
退職給付引当預金	23,117,000		23,117,000	0
小 計	626,965,254	36,000,000	23,117,000	639,848,254
合 計	630,757,998	36,000,000	23,317,037	643,440,961

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単価：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
土地	378,300	(378,300)		
建物	3,214,407	(3,214,407)		
小 計	3,592,707	(3,592,707)	0	0
特定資産				
宮島預金	9,000,000	(9,000,000)		
動物園施設整備資金	35,000,000	(33,000,000)	(2,000,000)	
土地	595,848,254	(595,848,254)		
小 計	639,848,254	(637,848,254)	(2,000,000)	(0)
合 計	643,440,961	(641,440,961)	(2,000,000)	(0)

4. 担保に提供している資産 なし

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び差引計

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び差引計は次のとおりである。

(単価：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	差引計
基本財産			
土地	378,300		378,300
建物	8,232,000	5,017,593	3,214,407
小 計	8,610,300	5,017,593	3,592,707
特定資産			
土地	595,848,254		595,848,254
小 計	595,848,254	0	595,848,254
その他固定資産			
建物	99,406,230	89,866,473	9,539,757
建物附属設備	50,704,490	25,288,162	25,416,328
構築物	410,403,399	397,130,474	13,272,925
機械装置	12,972,360	8,949,292	4,023,068
器具及び備品	29,983,764	25,585,578	4,398,186
車両運搬費	4,697,500	2,983,034	1,714,466
動物	148,476,640	115,340,440	33,136,200
図書	21,080,471	20,251,948	828,523
雑設備	2		2
土地	754,611		754,611
電話加入権	18,301		18,301
ソフトウェア	464,310	185,724	278,586
小 計	778,962,078	685,581,125	93,380,953
合 計	1,383,420,632	690,598,718	692,821,914

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は次のとおりである。

(単価：円)

内 訳	金 額
経常収益への振替額	
事業実施による用途制約の解除	160,000,000
減価償却費計上による振替	200,037
合 計	160,200,037

附属明細書

1. 基本財産及び特定財産の明細

財務諸表に対する注記に記載している。

2. 引当金の明細

(単価：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	3,670,000	6,105,000	3,670,000		6,105,000

正味財産増減計算書内訳表 (平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日)

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	手元保管	運転資金として	569,774
小口現金			1,033,000
預金	普通預金 (寄附)	運転資金	
	名古屋銀行犬山支店		2,204,326
	東京三菱ＵＦＪ銀行犬山支店		4,505,729
	普通預金 (寄付) 計		(6,710,055)
	普通預金	運転資金	
	東京三菱ＵＦＪ銀行犬山支店		1,958,079
	東京三菱ＵＦＪ銀行犬山支店		11,301,791
	普通預金計		(13,259,870)
未収入金	賃借料他	収益事業に供する家賃の未収入分	74,000
前払金	火災保険	公益及び収益事業に供する火災保険・損害保険の未経過分	592,490
立替金	モンキーキャンパス経費分	公益目的事業に供する経費立替分	20,500
仮払金	販売委託費	収益事業に供する委託販売手数料の仮払分	2,594
流動資産合計			22,262,283
(固定資産)			
基本財産			
土地	犬山市栗栖	公益目的事業を行うために不可欠な特定の財源	378,300
建物	犬山市栗栖	公益目的事業を行うために不可欠な特定の財源	3,214,407
	基本財産計		(3,592,707)
特定資産			
宮島預金	普通預金	宮島で捕獲予定のサルの飼育費用の財源としている	9,000,000
	三菱東京ＵＦＪ銀行犬山支店		
動物園施設整備資金	定期預金	公益事業の積立資産であり施設整備費として管理	2,000,000
	三菱東京ＵＦＪ銀行犬山支店	されている資金	
	普通預金		33,000,000
	三菱東京ＵＦＪ銀行犬山支店		
土地	犬山市犬山 42－2 他	公益事業に供する施設の敷地等に使用している	595,848,254
	特定資産小計		(639,848,254)
その他の固定資産			
建物	猿舎他	公益目的事業を行うための事業財産	9,539,757
建物附属設備	モンキーバレイ遊具他		25,416,328
構築物	スクイジングゲージ他		13,272,925
機械装置	加圧ポンプ他		4,023,068
車両運搬費	ミニキャブトラック他		1,714,466
器具備品	サル類利製標本他		4,398,186
動物	オランウータン他		33,136,200
書籍	寄生虫学他		828,523
雑施設	商標権他		2
土地	犬山市犬山官林		754,611
電話加入権	No.0568-61-2327		18,301
ソフトウェア	会計ソフト		278,586
	その他の固定資産計		(93,380,953)
固定資産合計			736,821,914
資産合計			759,084,197
(流動負債)			
仮受金	サンクチュアリ、モノリンク他	収益事業に供する委託販売売上金の仮受金	252,478
未払金	紅光、ライン魚菜市場他	公益事業に供する飼料費等の未払分	7,433,517
未払法人税	小牧税務署他	平成 27 年度確定納付分	5,654,500
未払消費税	小牧税務署	平成 27 年度確定納付分	3,011,800
賞与引当金	職員に対するもの	職員に対する夏季賞与の支払に備えたもの	6,105,000
流動負債計			22,457,295
(固定負債)			
固定負債計			0
負債合計			22,457,295
正味財産合計			736,626,902

**公益財団法人 日本モンキーセンター年報
平成 27 年度**

〈非売品〉

発行日 平成 28 年 12 月 25 日

発行者 公益財団法人 日本モンキーセンター

〒484-0081 愛知県犬山市大字犬山字官林26番地

電話 (0568) 61-2327

FAX (0568) 62-6823

京都大学霊長類学・ワイルドライフ
サイエンス・リーディング大学院

〒606-8203 京都市左京区田中関田町 2-24

京都大学野生動物研究センター内

電話 (075) 771-4388

印刷所 オリビア印刷株式会社

〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀2-1-13-6F

電話 (06) 6445-0321

Japan Monkey Centre
Annual Report

2015



協力：京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院
Leading Graduate Program in Primatology and Wildlife Science, Kyoto University